

Ⅳ【学生】「学修行動に関する調査」結果報告

結果まとめ

子ども教育学部と短大幼児教育専攻については、学年別の回答者数に著しい偏りがあり、回答結果がそれに左右されているおそれがある。

全体として、アンケート項目が非常に多岐に亘っているが、紛らわしい、あるいは類似した、あるいは漠然とした質問項目が散見される。次回調査に向けて、精選していく必要がある。

また、学生の学修行動を調査するのが目的のアンケートであるはずだが、特に後半部分では、学部学科の教育課程、教員の授業の方法や形態、アドバイザー業務に関わる内容など、学生の学修状況とは無関係な項目が含まれている。それらについては授業評価アンケート等、他の調査に委ねるべきである。

1. 調査時期

2017 年 9 月

2. 回答者数

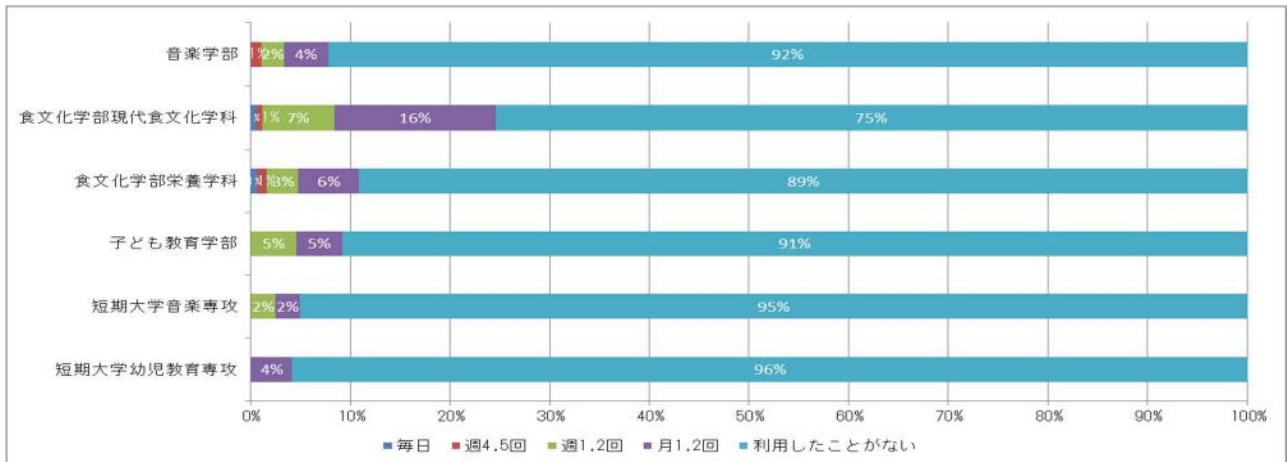
学部学科\学年	1	2	3	4	計
音楽学部	19	18	26	28	91
食文化学部現代食文化学科	48	34	47	50	179
食文化学部栄養学科	93	71	75	79	318
子ども教育学部	0	1	111	0	112
短期大学音楽専攻	23	18			41
短期大学幼児教育専攻	0	24			24
計	183	166	259	157	765

学部学科\学年	自宅生	下宿生
音楽学部	32	59
食文化学部現代食文化学科	123	56
食文化学部栄養学科	215	102
子ども教育学部	80	32
短期大学音楽専攻	16	25
短期大学幼児教育専攻	22	2
計	488	276

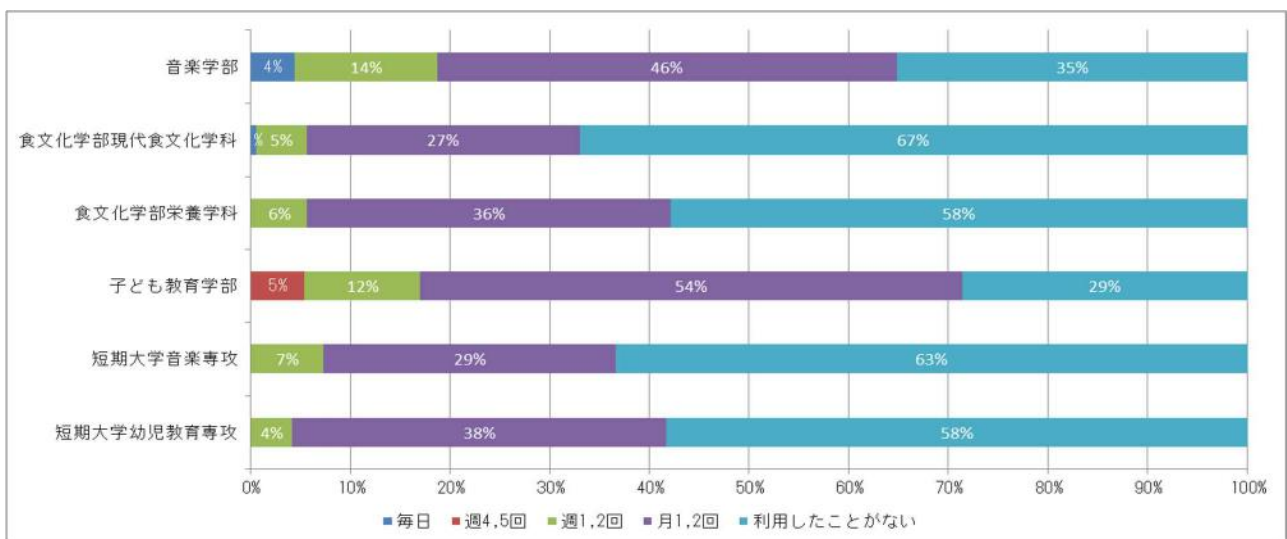
3. 調査結果

以下では、設定された大項目〔Q〕ごとに考察を試みる。

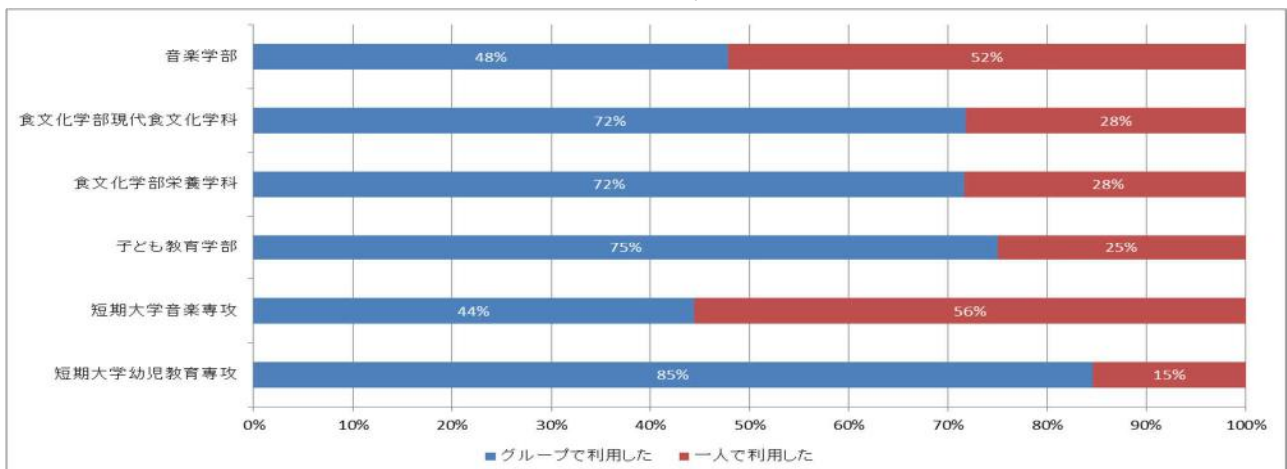
Q1-1. あなたは、授業時間外に 5 号館 302 (ASB: Active Study Base) をどの程度利用していますか。



Q1-2. あなたは、授業時間外に図書館のラーニングcommonsをどの程度利用していますか。



Q1-3. ラーニングcommonsを利用した人にお聞きます。どのように利用しましたか。あてはまるものすべてをチェックしてください。



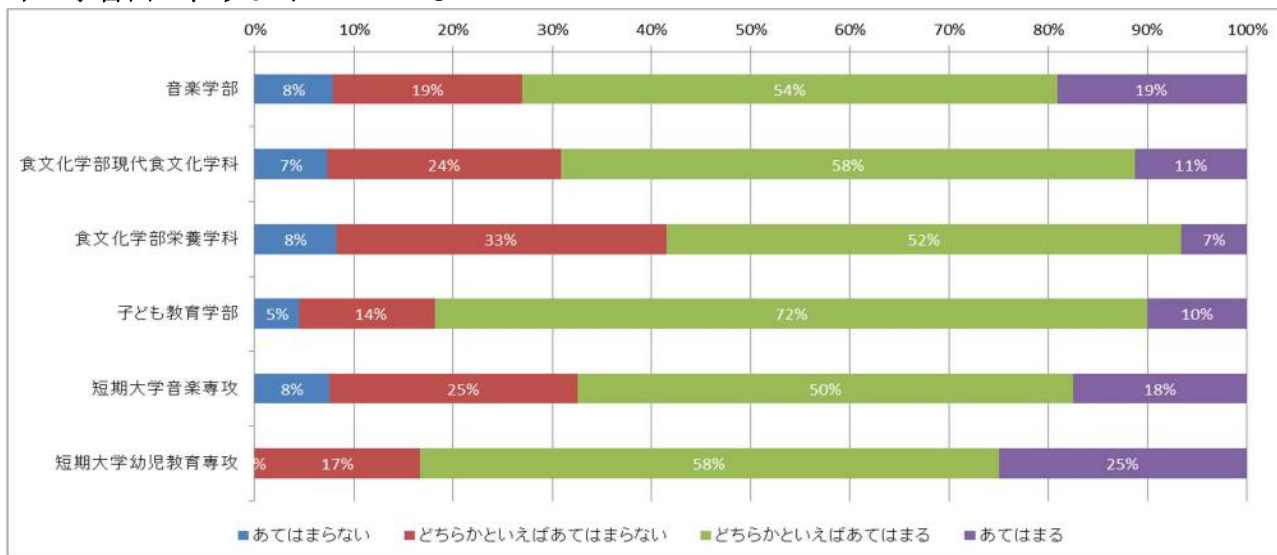
ASB (Active Study Base) は 5 号館の 1 教室に設定されており、食文化学部以外の学生には、その存在も利用目的・方法も認知されていないのではないかとと思われる。「食文化学部の 1 教室」

というイメージが強く、他部局の学生が授業時間外に利用することは現状では考えにくい。授業でも、食文化学部以外での利用はほとんどないのではないかな。

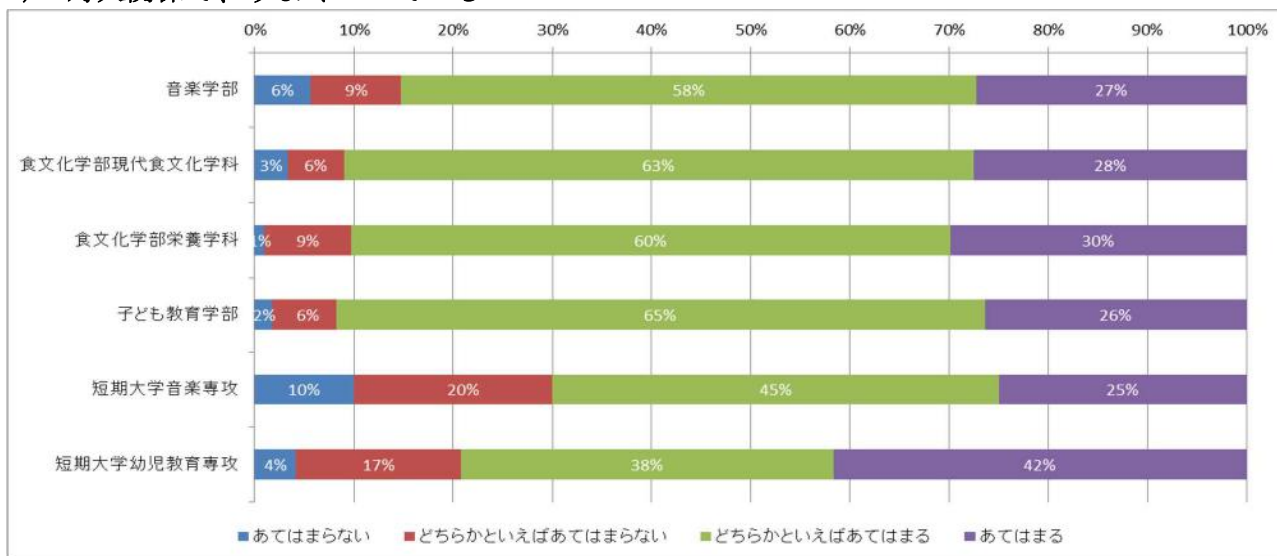
一方、ラーニングコモンズは場所的に外部からも存在が分かりやすく、ASB に比べて利用率が高い。ただ、音楽学部と短大音楽専攻に関しては、1人で利用した学生が過半数を占めており、交流や議論による能動的な学習環境を提供するラーニングコモンズ本来のねらいからすると、その機能が十分に活用されているとは言いがたい。

Q2. あなたの大学生活は、全体的にうまくいっていますか。

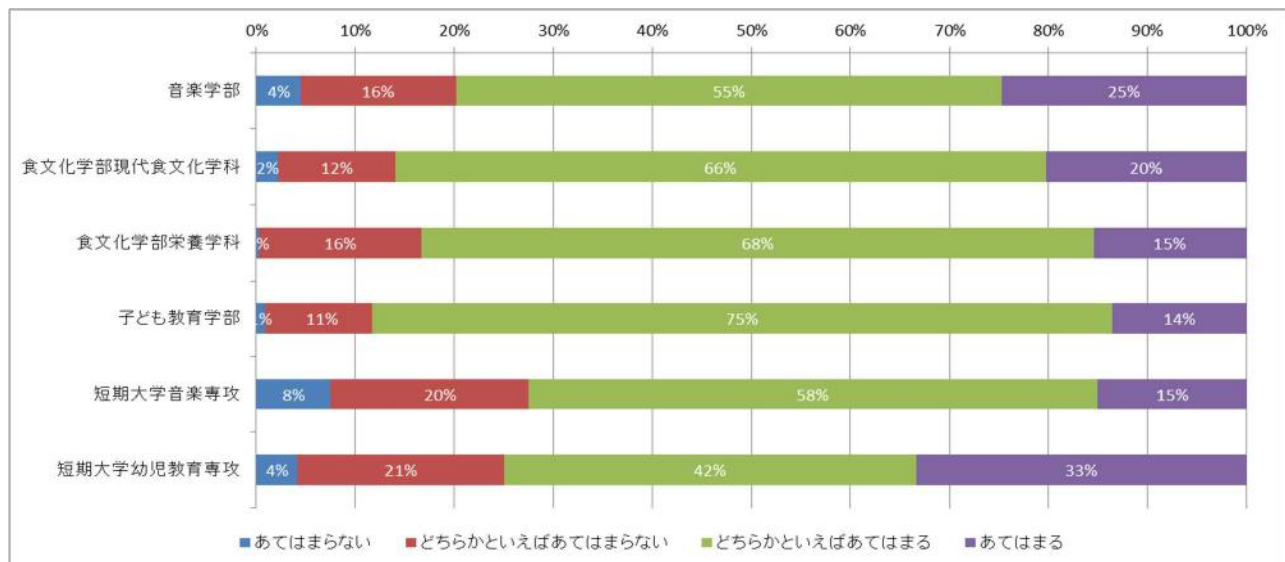
1) 学習面で、うまくいっている



2) 対人関係で、うまくいっている



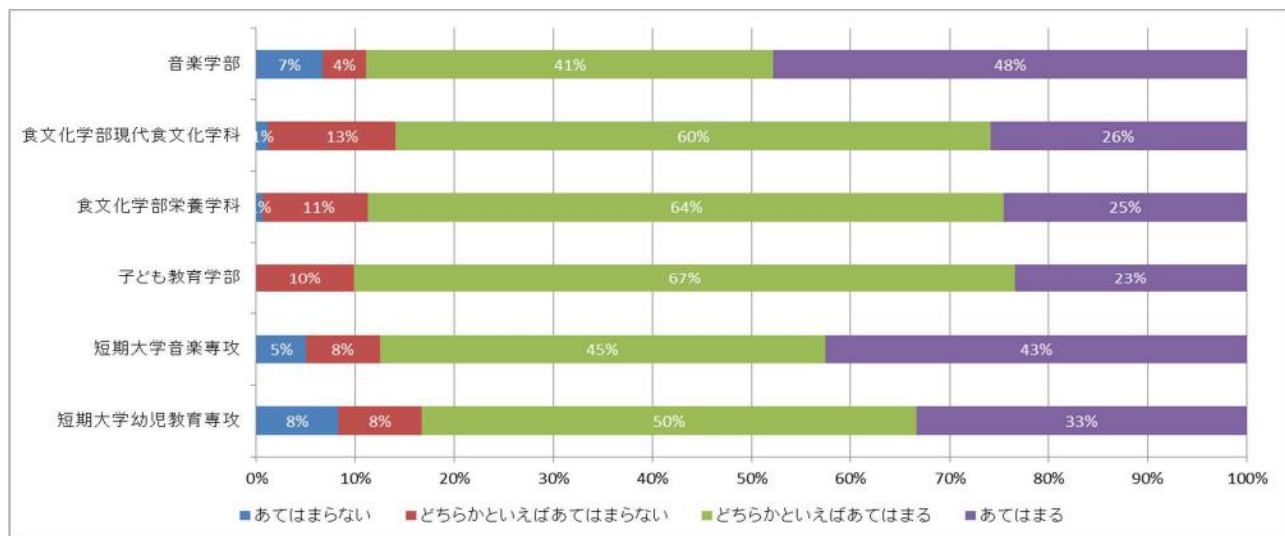
3) 生活全般で、うまくいっている



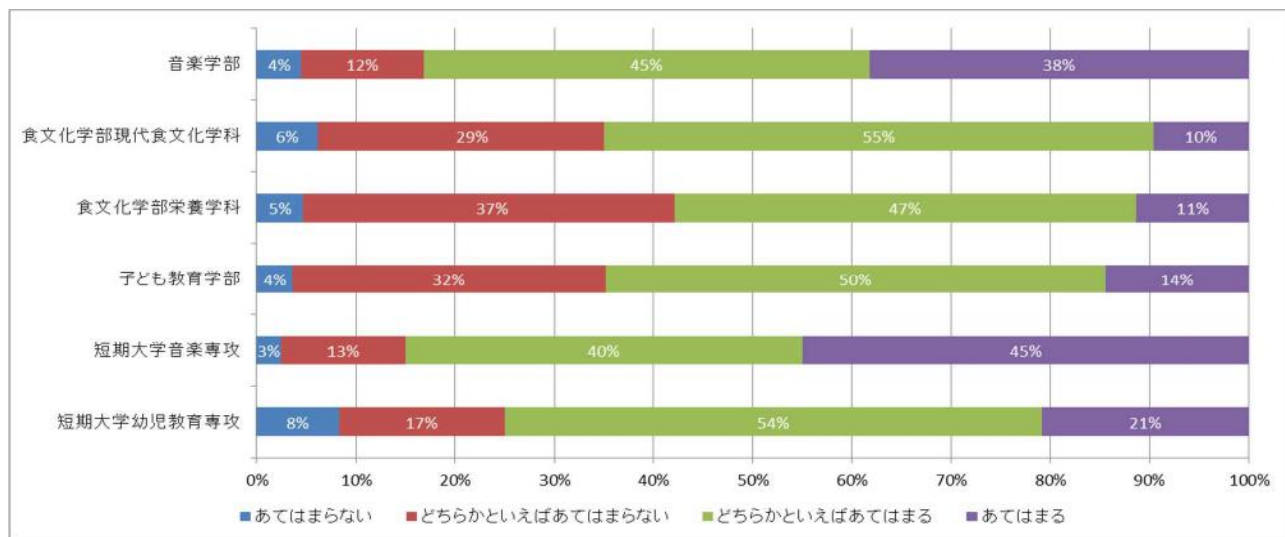
学修面では子ども教育学部と短大幼児教育専攻の学生にポジティブな回答が多い。対人関係や生活面では、短大の両専攻の学生にネガティブな回答が多い傾向が見られる。これは2年間で適切な人間関係や生活スタイルを構築することの難しさを反映しているものと思われるが、幼児教育専攻では「うまくいっている」と回答する学生も多く、二極化している。

Q3. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。

1) 学科・専攻の学びは、自分の興味・関心に合っている



2) 講義を受けたい学科・専攻の先生がいる

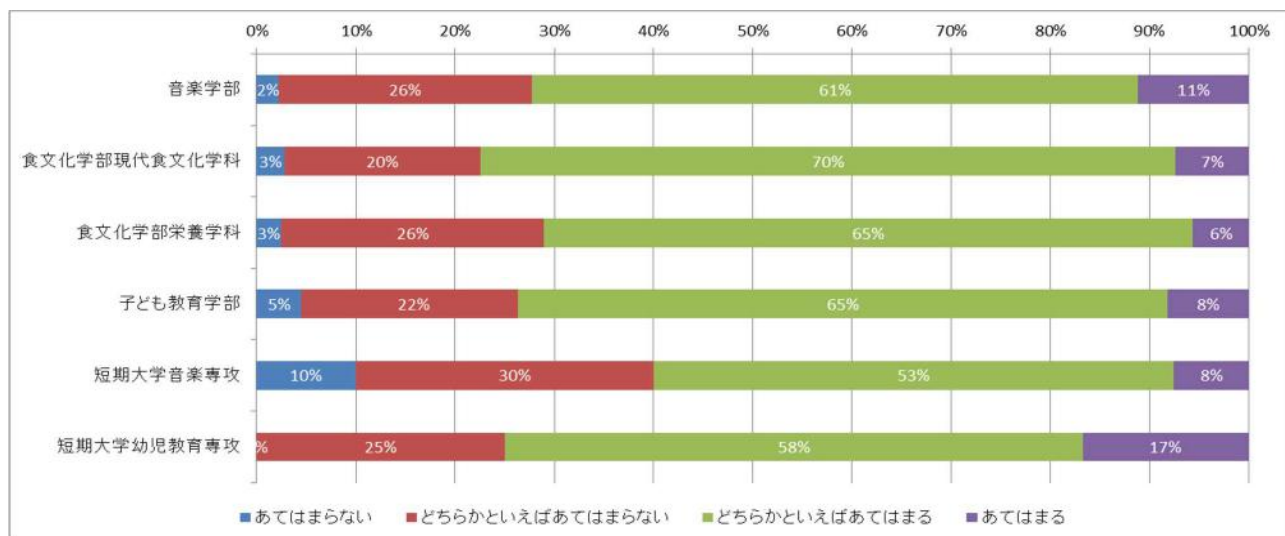


音楽学部と短大音楽専攻の学生にポジティブな回答が目立つ。当然ではあるが、音楽系では、多くの学生が「あの先生のレッスンを受けたい」という個人的な関係を優先して入学しており、資格取得が目的の食文化学部や子ども教育学部の学生とは状況が異なる。

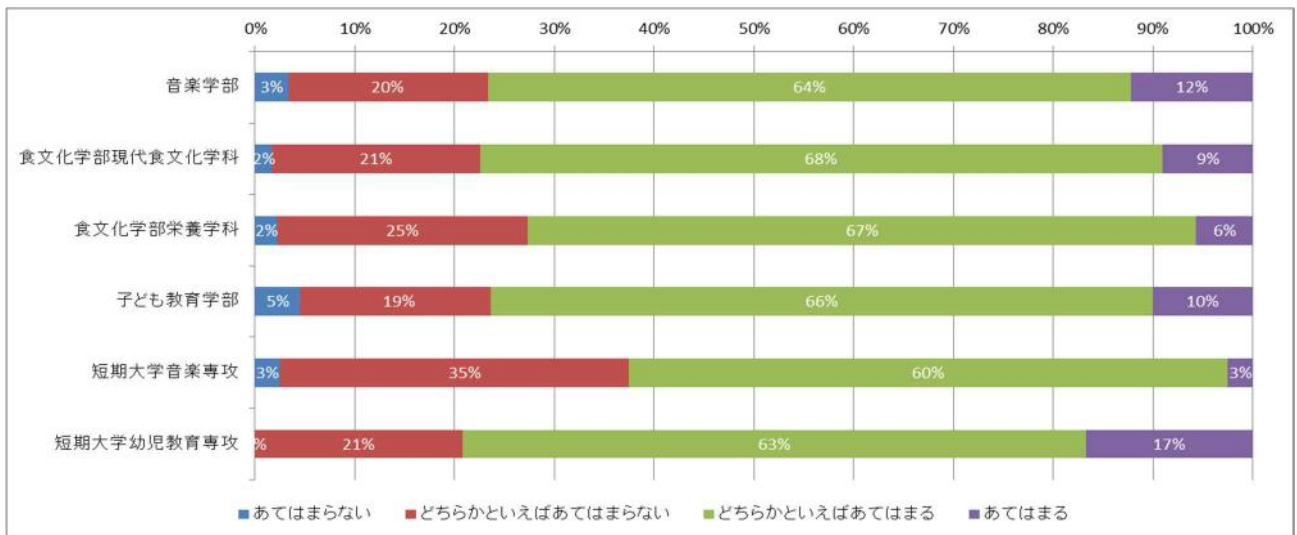
この結果をもって、音楽系の授業や教員が充実しており、食文化学部や子ども教育学部が充実していないということでは、全くない。

Q4. あなたの普段の意識や体調についてお聞きします。次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。

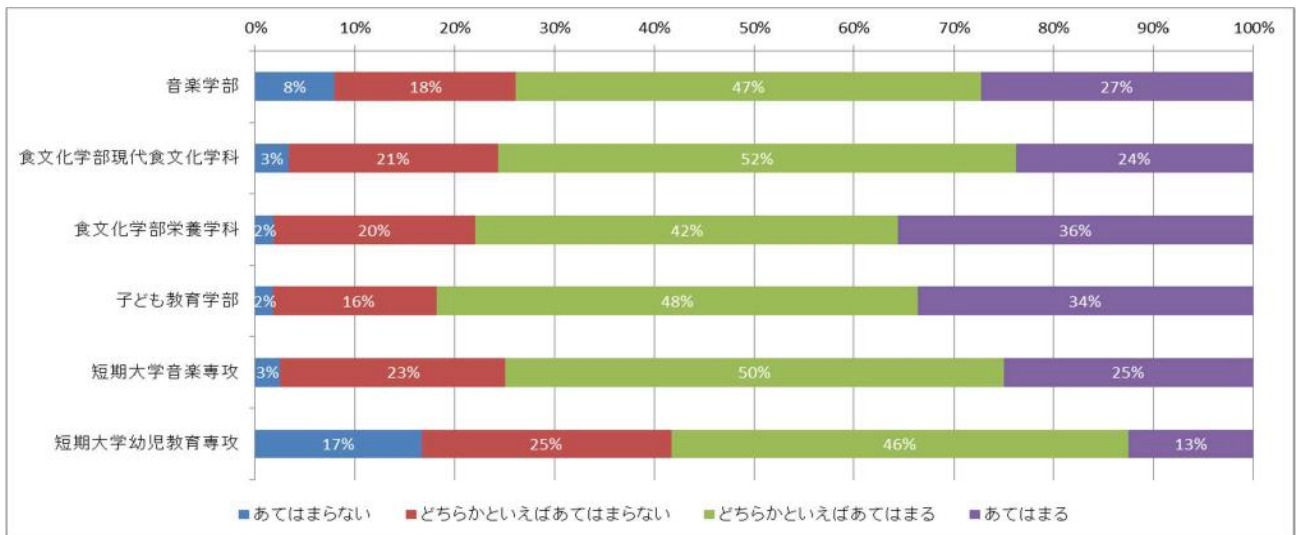
1) 自分は必要とされている存在である



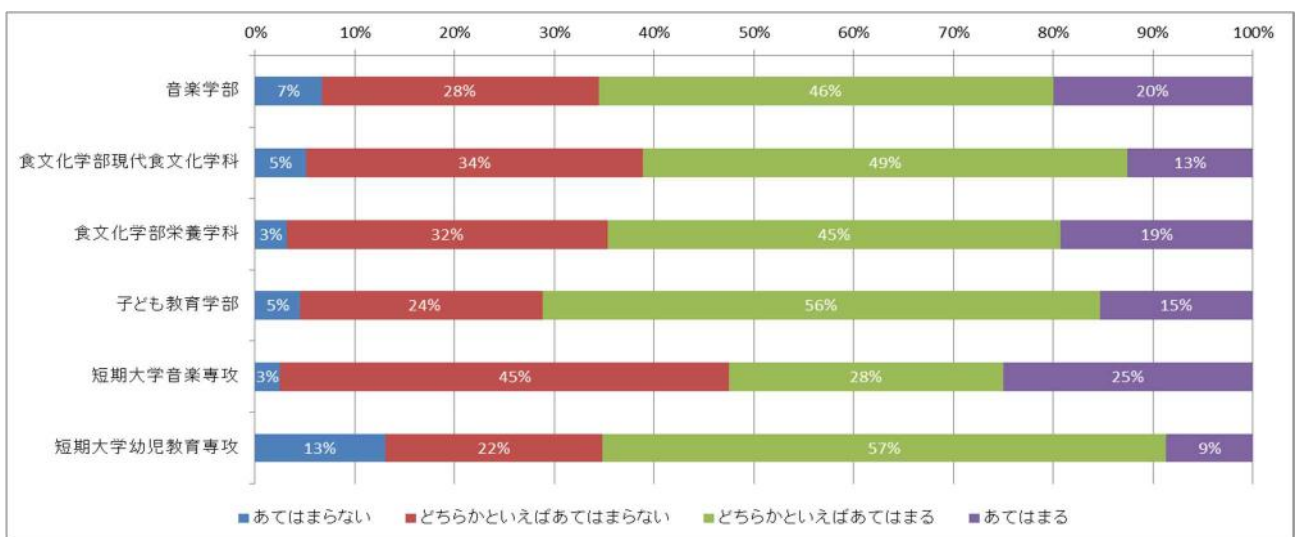
2) 自分は人の役に立つことができる



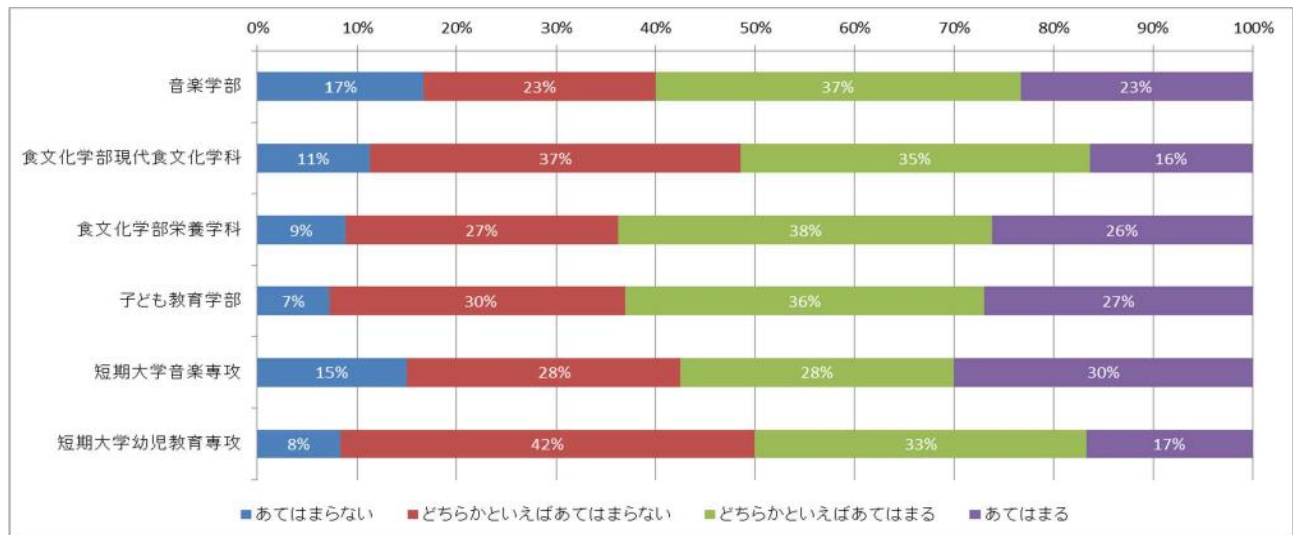
3) 物事の取りかかりが遅い



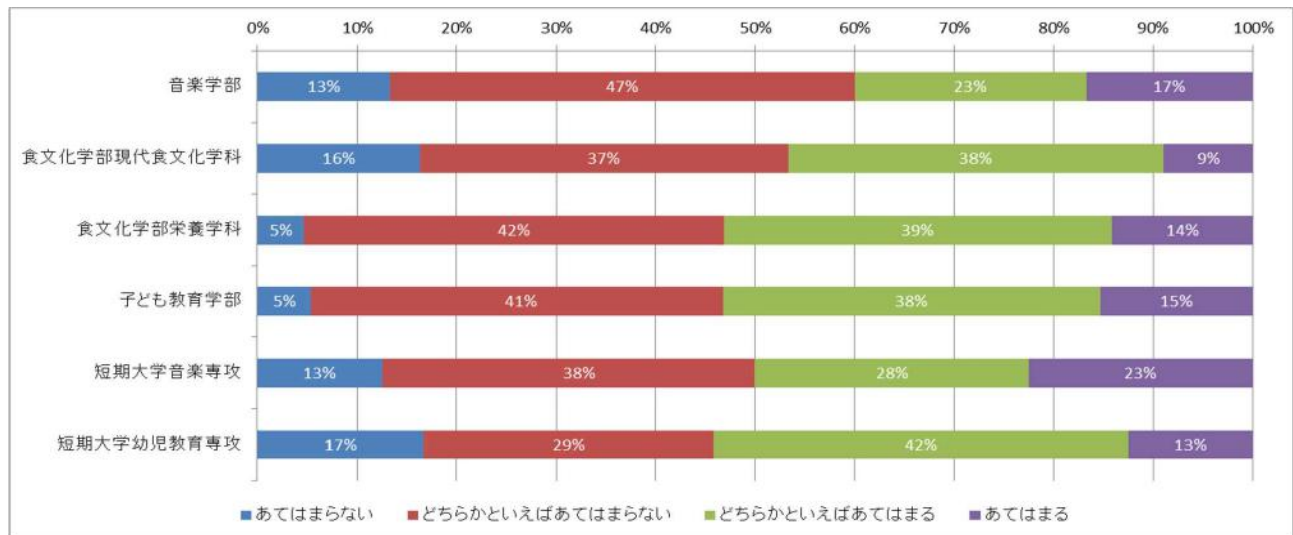
4) 物事をてきぱきとこなせない



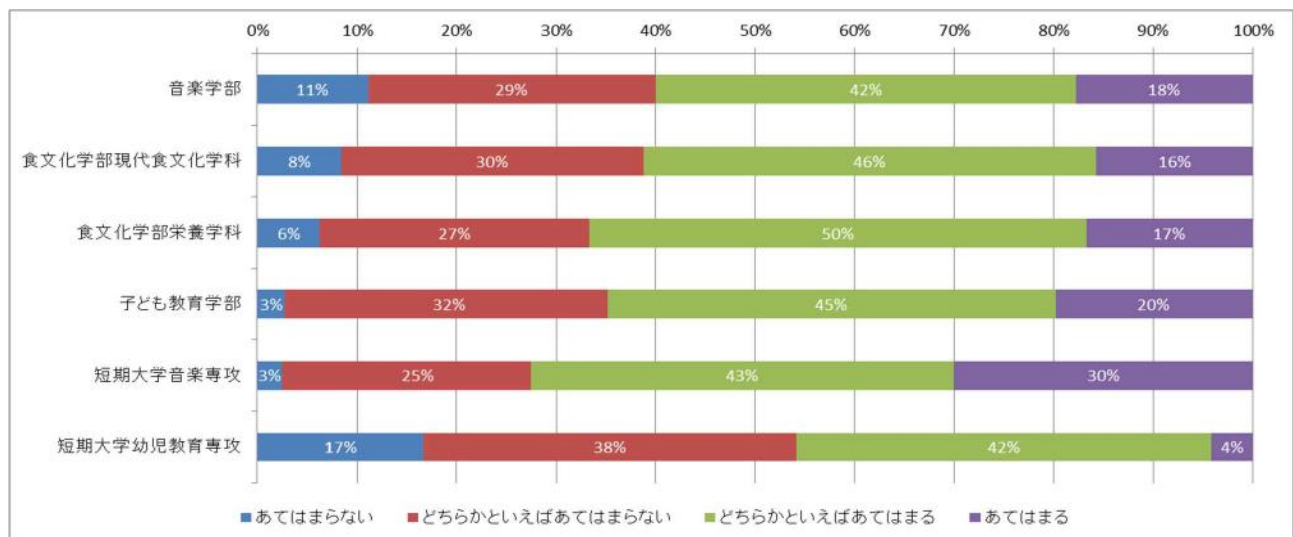
5) 朝起きるのがとてもつらい



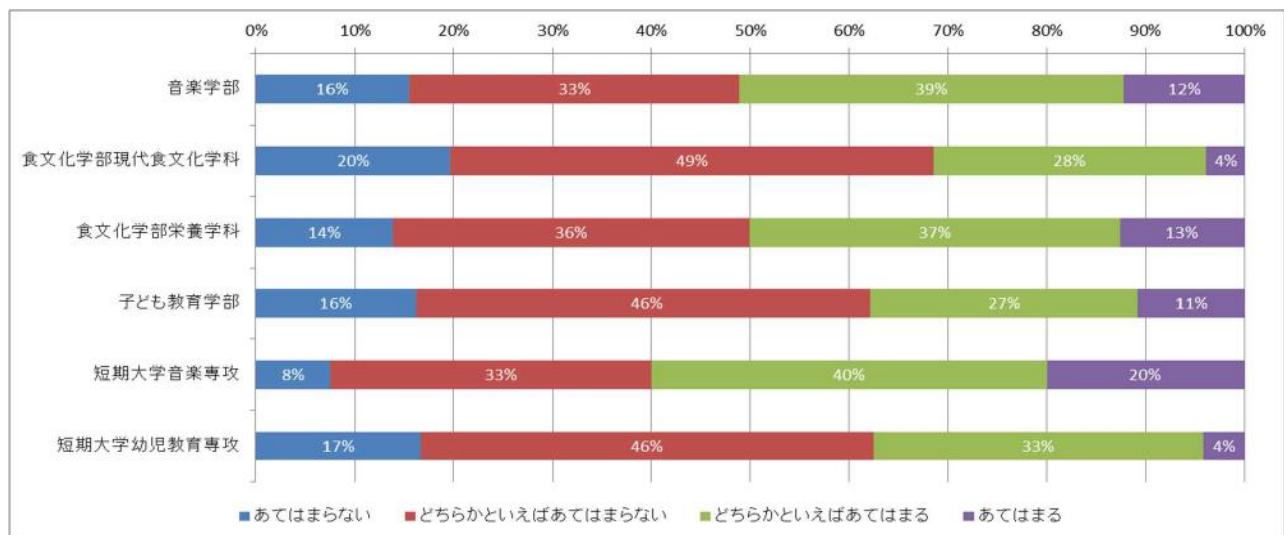
6) 日中、眠くてしかたがないことが多い



7) 何となく不安になることが多い



8) いつも何かに追い立てられているような気がする

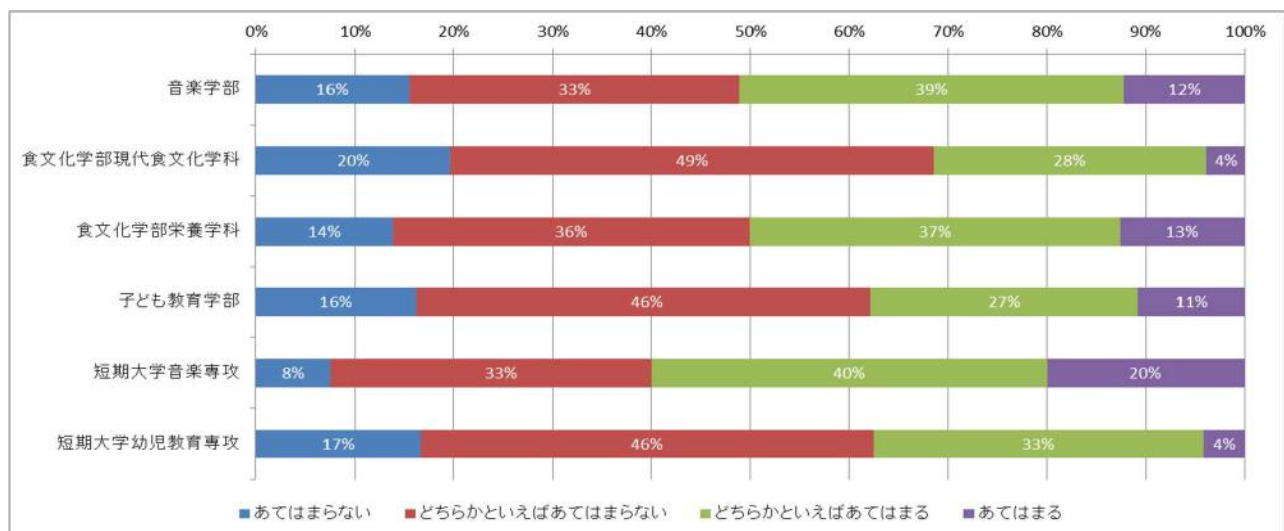


「1) 自分は必要とされている存在である」、「2) 自分は人の役に立つことができる」で、短大音楽専攻の学生にネガティブな回答が目立ち、自己肯定感の低さが窺われる。これには、演奏面等での学部学生に対する劣等意識が関係しているのではないかと思われる。

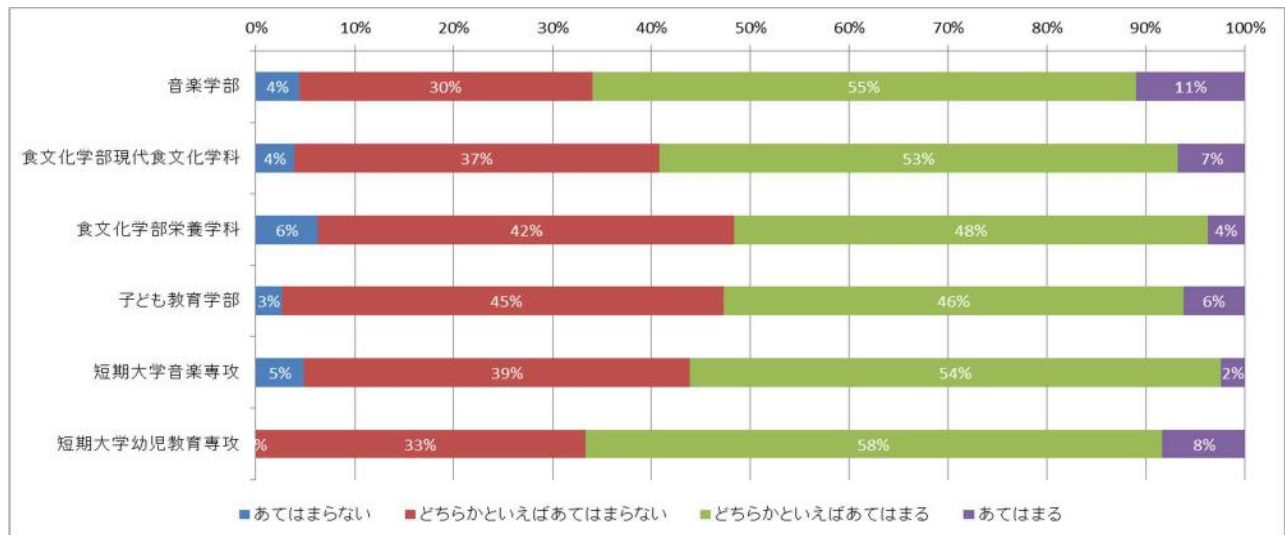
「3) 物事の取りかかりが遅い」以降については、短大幼児教育専攻の学生にポジティブな回答が目立ち、精神的な安定度の高さ、あるいは自己充足感の高さが窺われる。

Q5. あなたの普段の意識や行動についてお聞きます。次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。

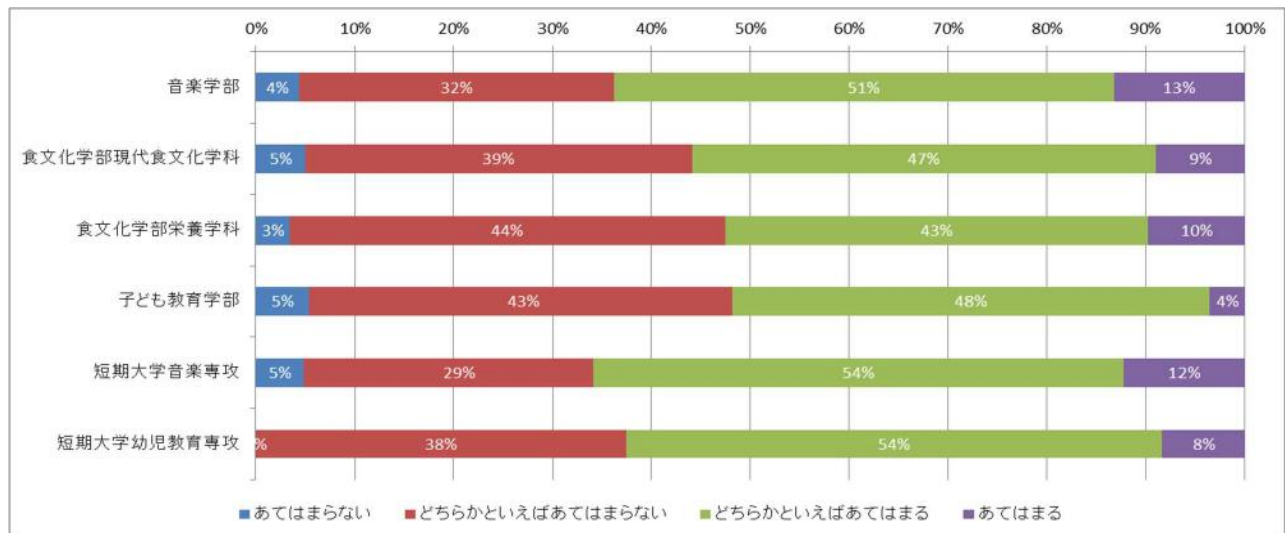
1) 学内外の行事やボランティアなど、様々な活動に積極的に参加する方だ



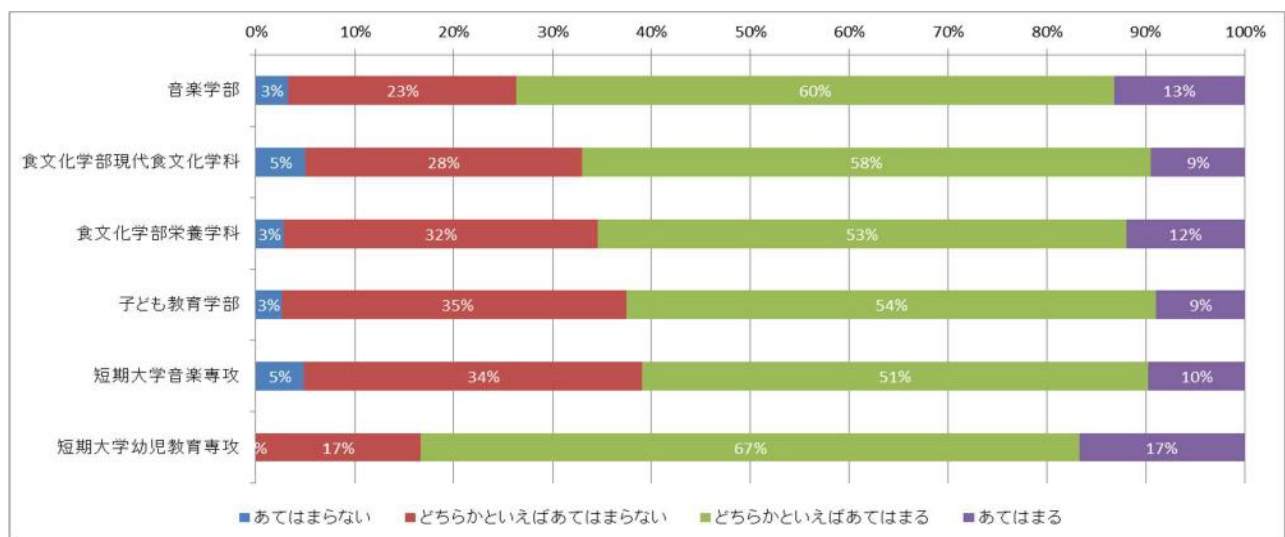
2) 課題の完成に十分な時間と労力をかける方だ



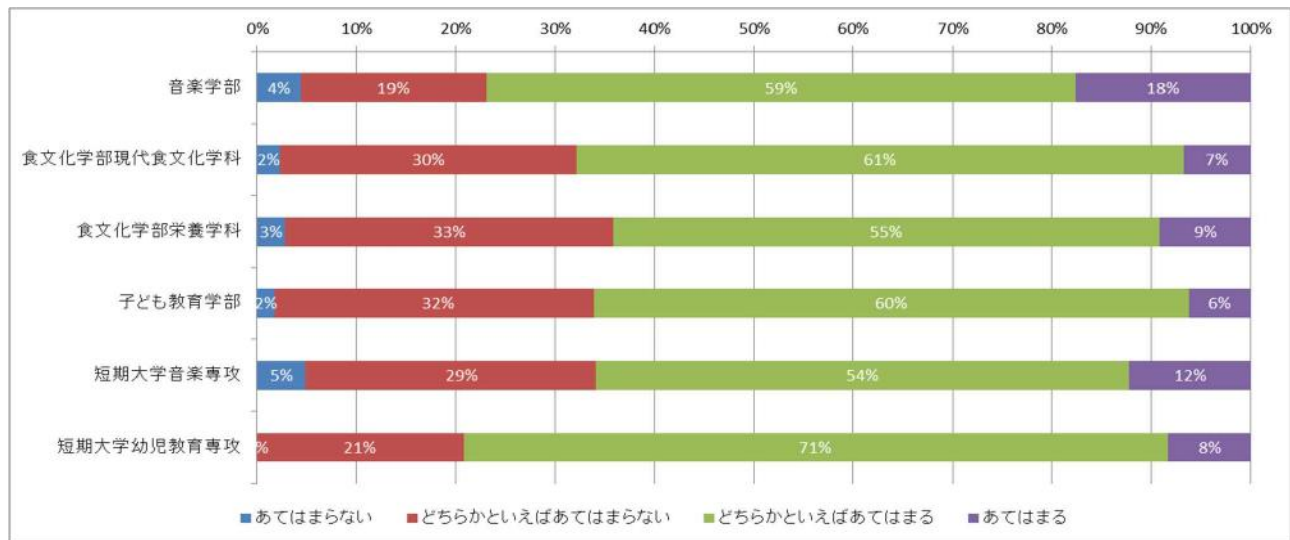
3) 学期末などの試験準備には十分な時間と労力をかける方だ



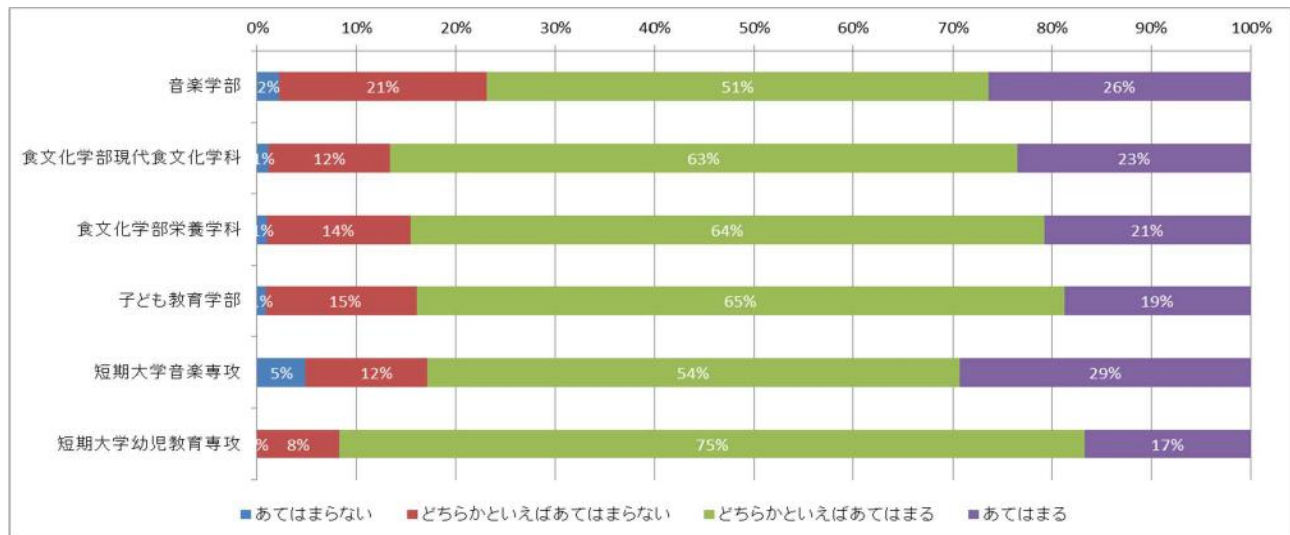
4) いやなことがあっても、気持ちを切り替えて、やろうとしていることに取り掛かれる



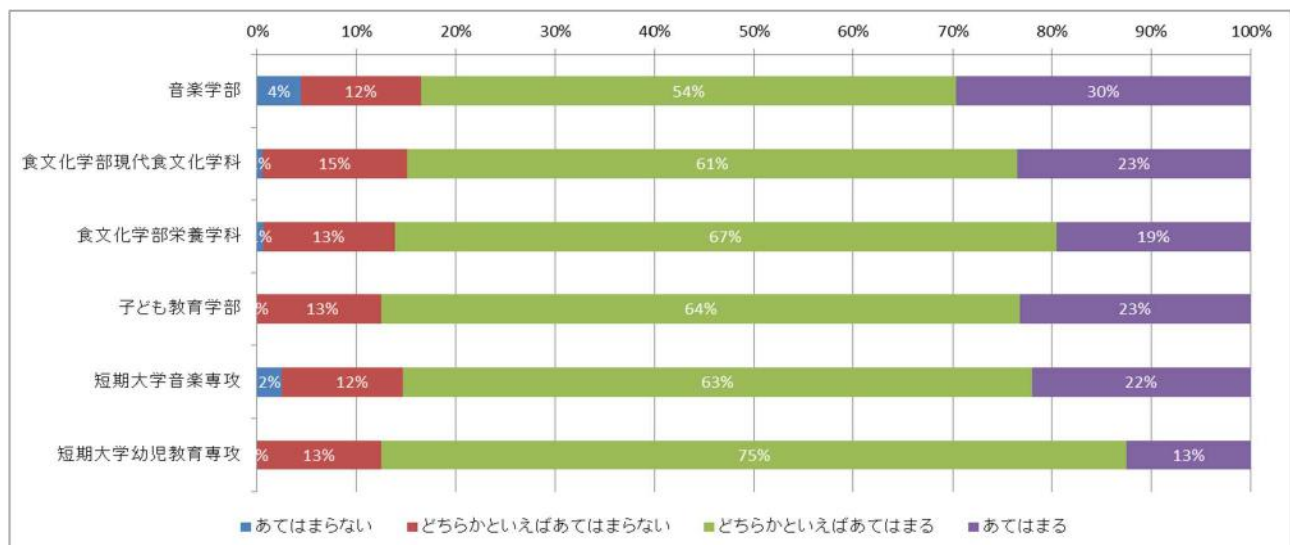
5) 活動するときは、何のためにそれをやるのかを考える方だ



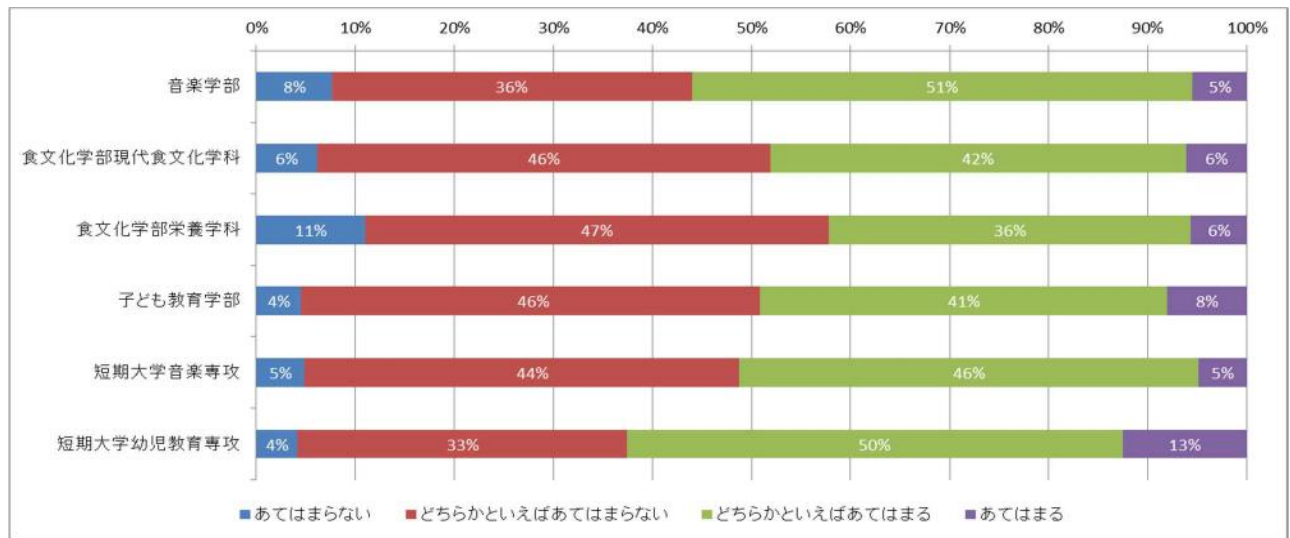
6) 相手の話を最後まで、じっくり聴く方だ



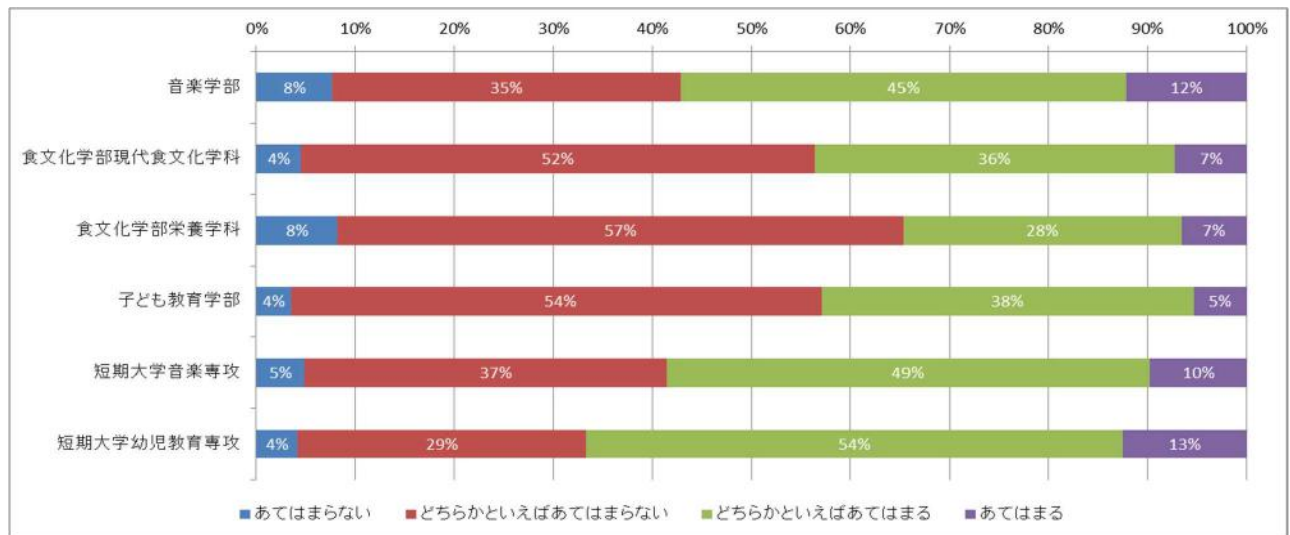
7) どのような言い方をすれば相手に受け入れてもらえるかを考える方だ



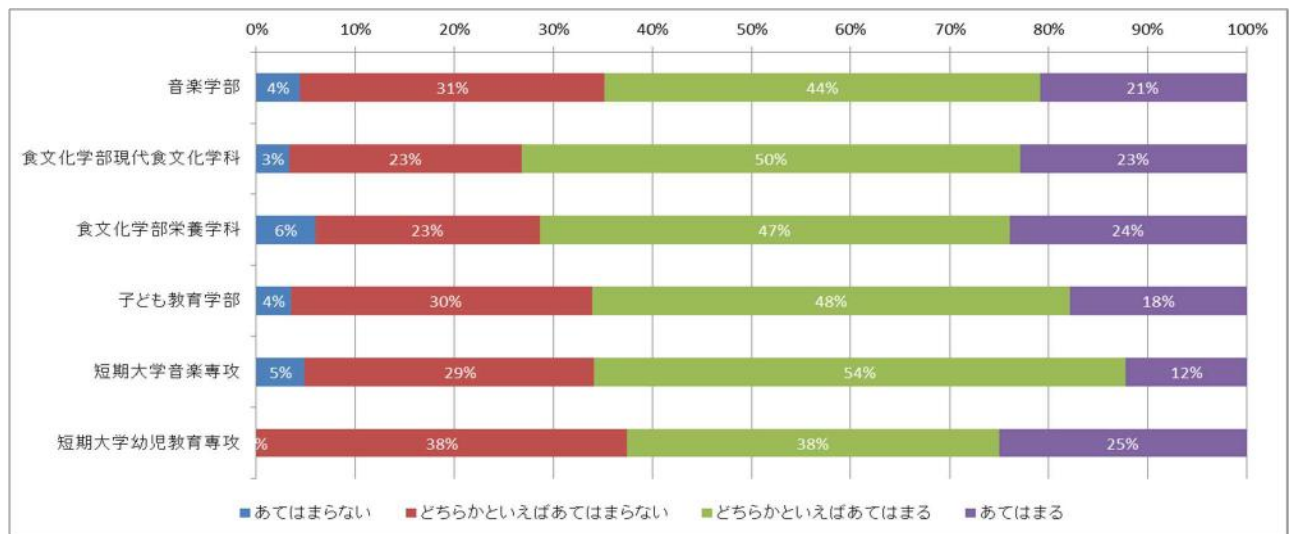
8) 話し合いの場でみんなの意見をまとめるように働きかける方だ



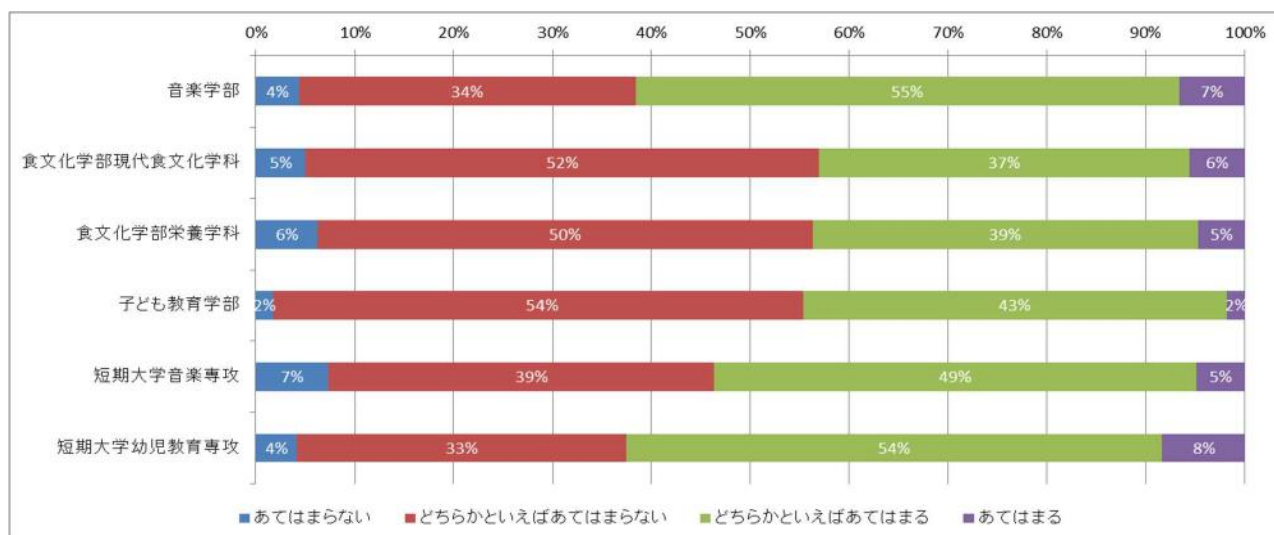
9) 作品や文章を作成するときには、独創性を重視する方だ



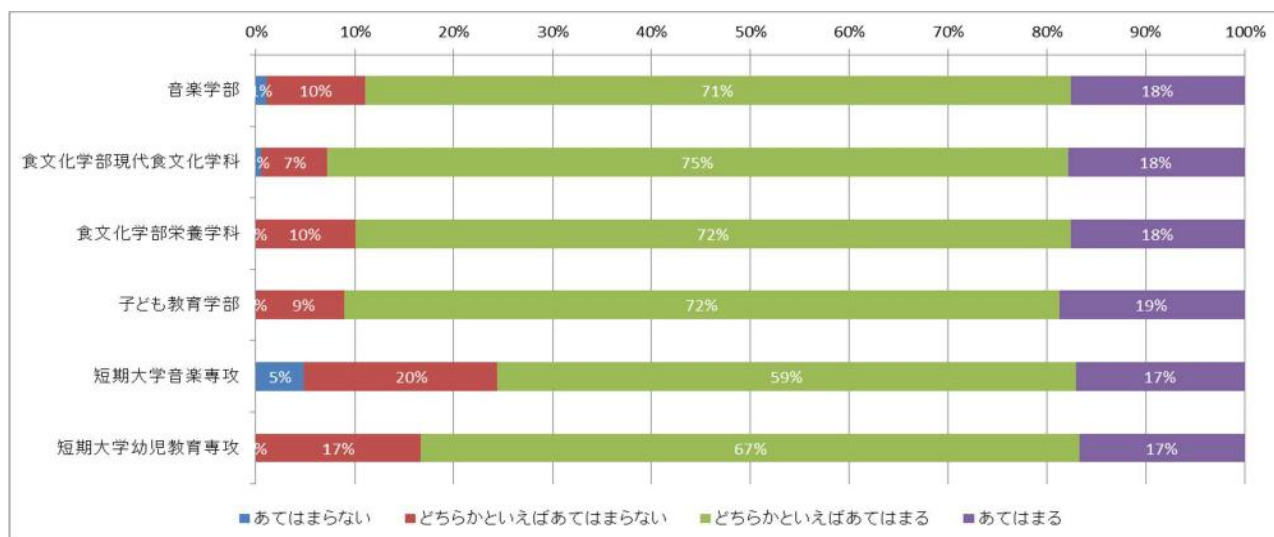
10) 旅行やレジャーに行く前に、自分でいろいろな情報を収集して計画する方だ



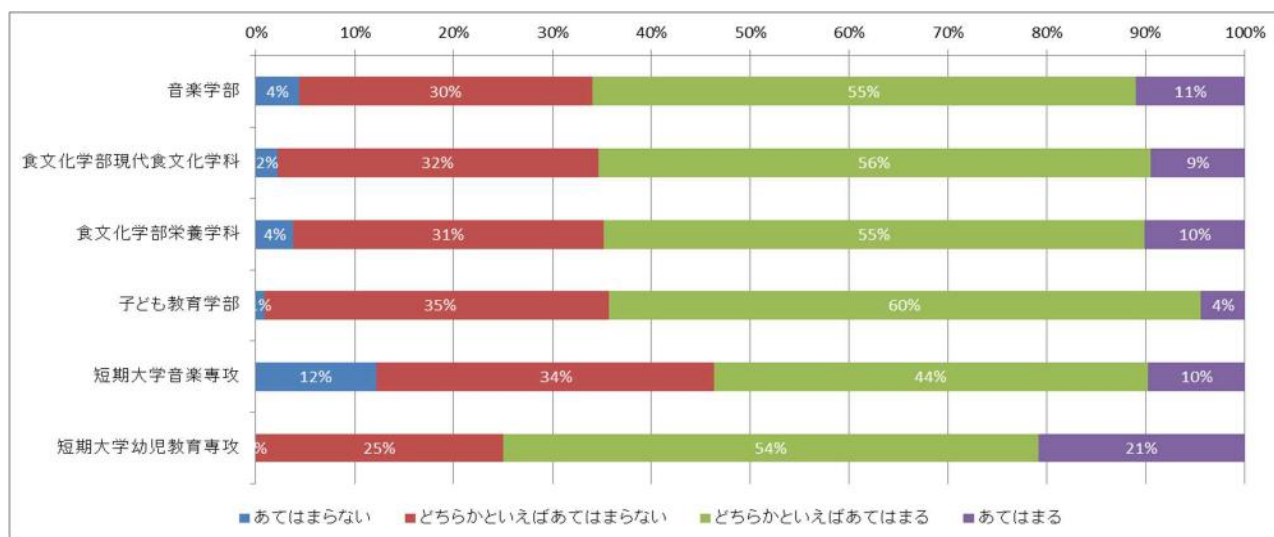
11) 自分が考えたことを、筋道をたてて、他者に説明できる



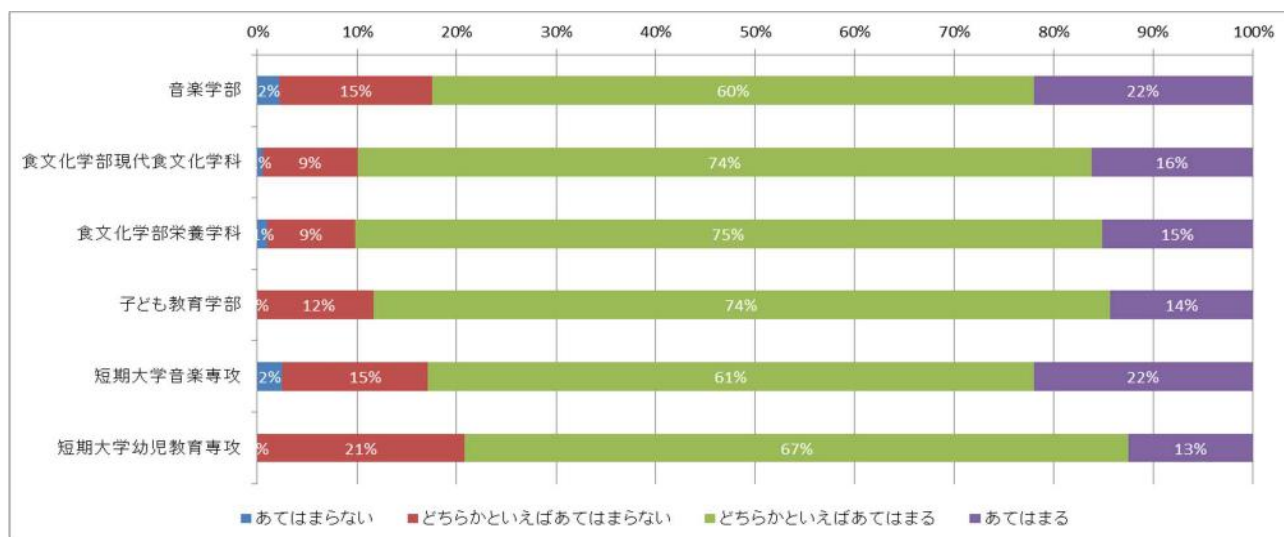
12) 社会のマナーを理解し、生活の中で実行している



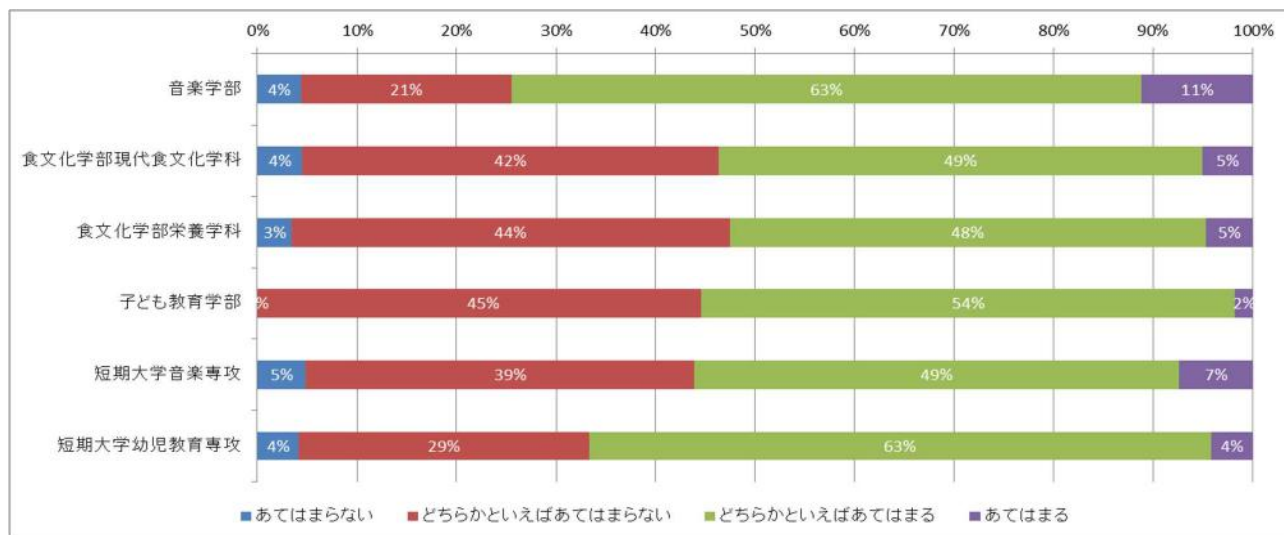
13) 活動するときには、計画通りに実行する方だ



14) 周囲の人々や物事の関係を理解する方だ



15) 活動をするときは現状を分析し、課題を明らかにするのが好きだ

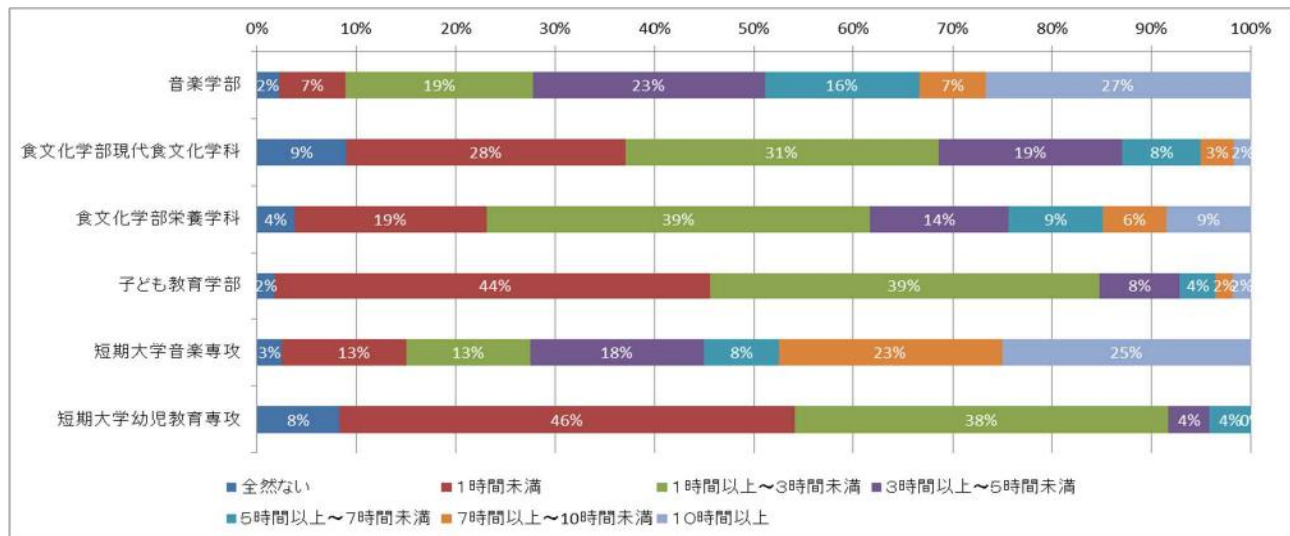


全体としては、ここでも、「あなたの普段の意識や体調についてお聞きします。次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか」と問うた Q4 と同様に、短大幼児教育専攻の学生の自己肯定的傾向が窺われる。

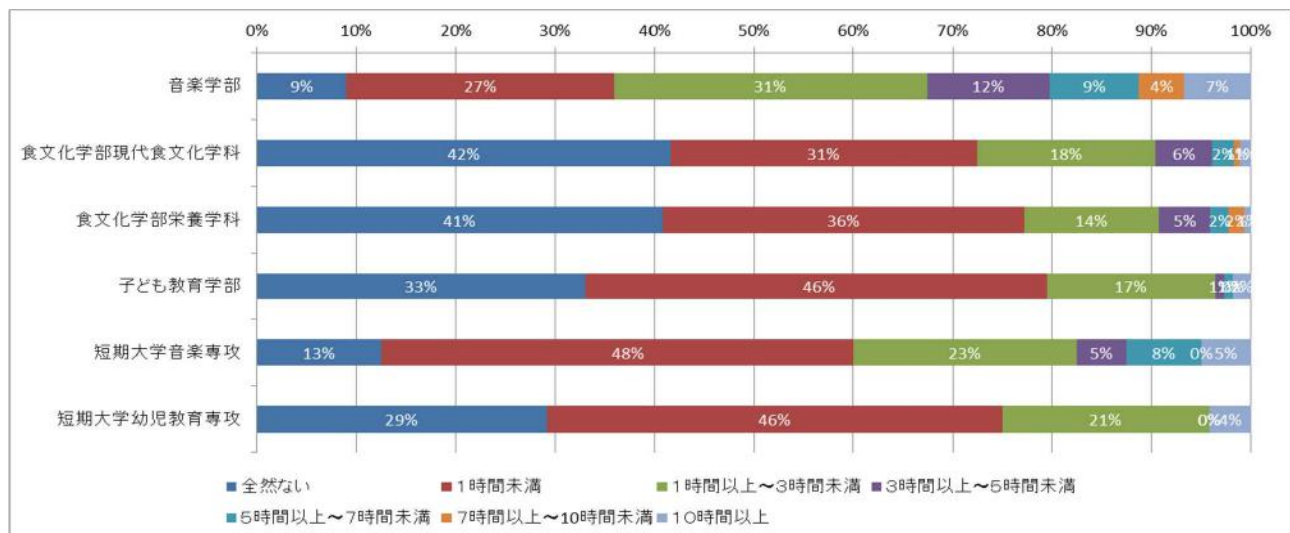
ただ、「あなたの普段の意識や行動についてお聞きします。次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか」と問うこの Q5 は、質問内容があまりにも多岐に亘り、かつ結果としてさほど差異が認められない項目がある。質問のねらい、意図をより明確にし、精選する必要がある。

Q6. あなたは現在、次の活動に 1週間あたりどのくらいの時間を費やしていますか。

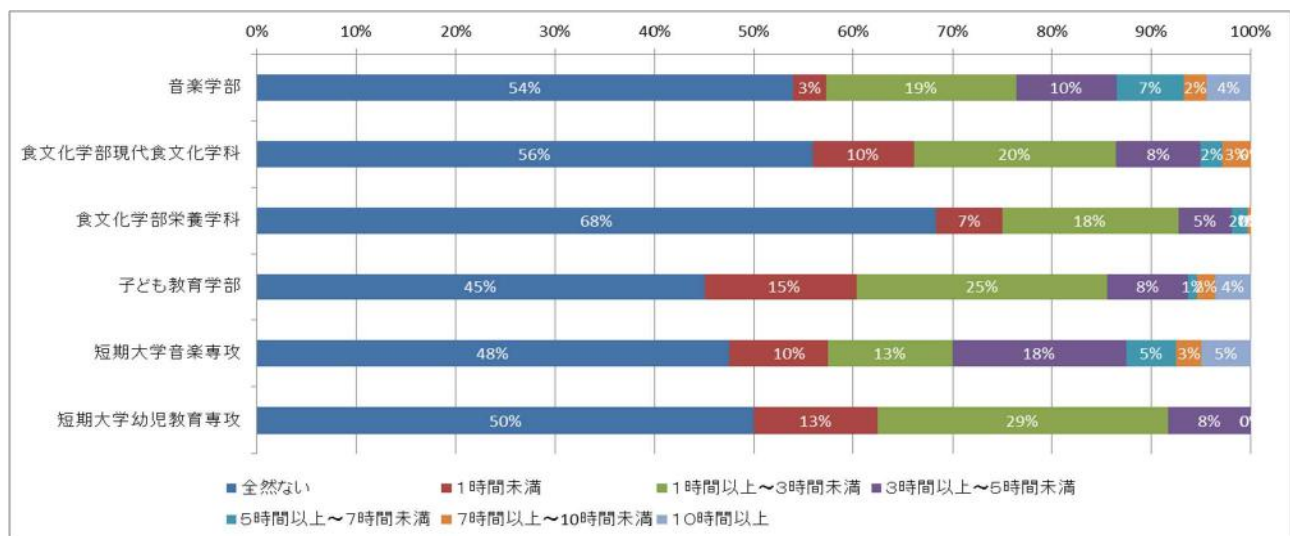
1) 授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）課題や準備学習、復習をする



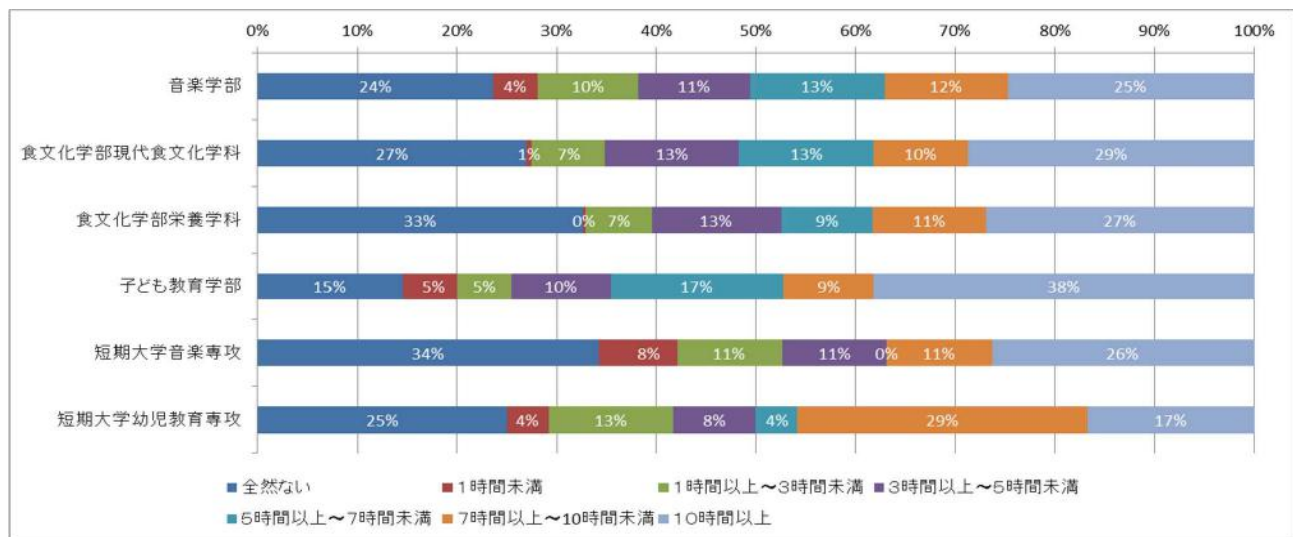
2) 授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）に関連しない勉強をする



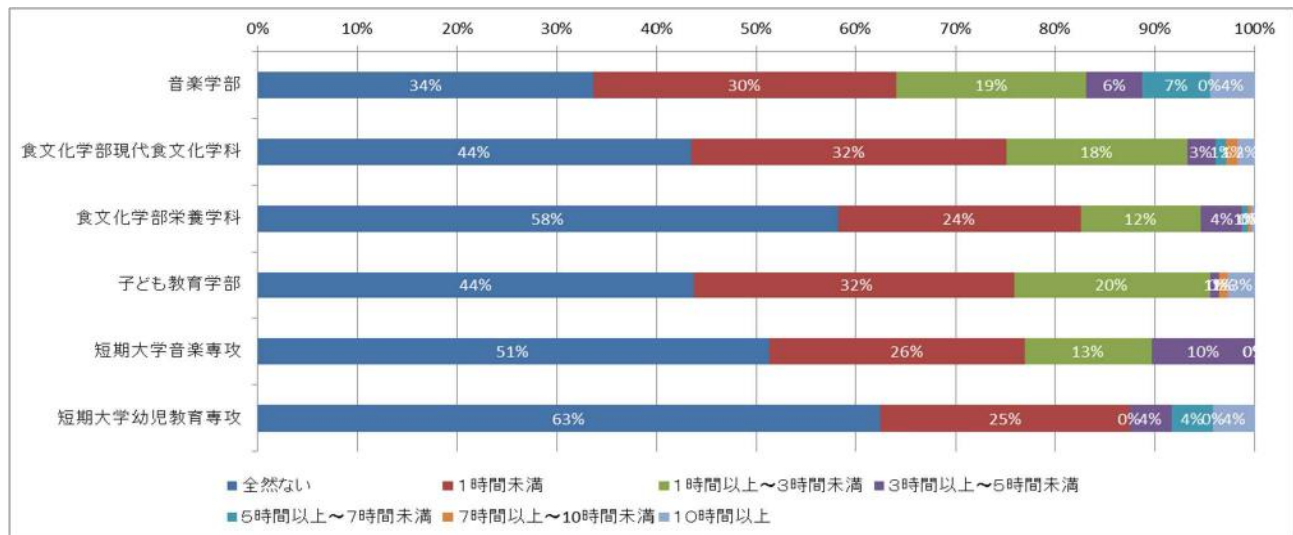
3) 部活動や同好会、サークルに参加する



4) 大学外でアルバイトや仕事をする



5) 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



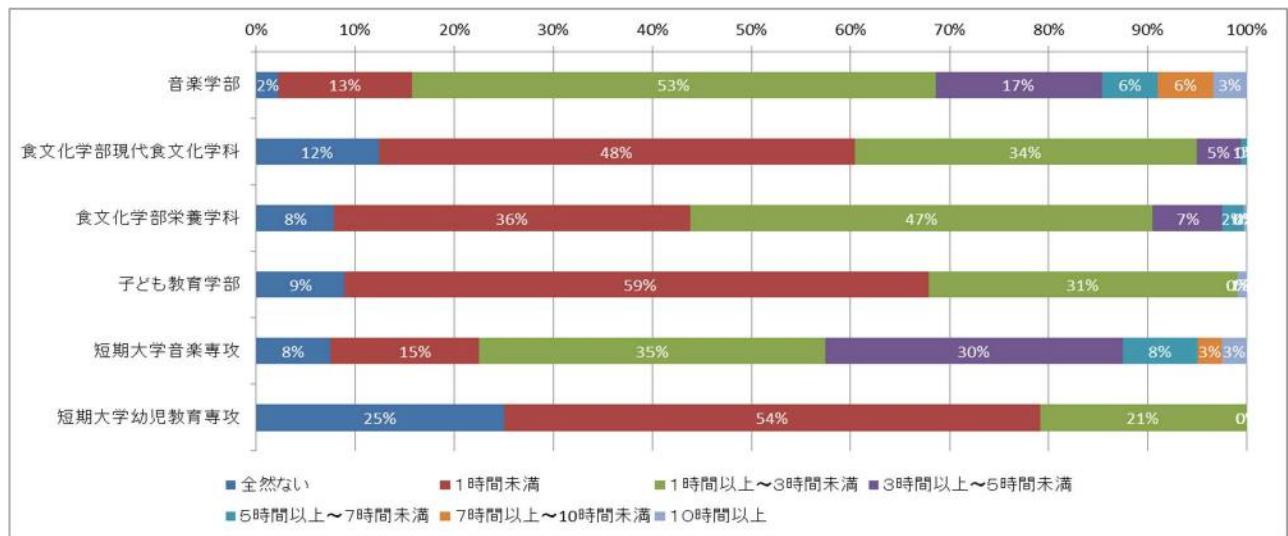
音楽学部と短大音楽専攻の学生の学習時間が長いですが、これは自分の楽器の練習時間を多く取っているものと思われる。子ども教育学部と短大幼児教育専攻の学生はアルバイト等に従事する時間が比較的多く、自宅での学習時間が少ない傾向がみられる。

読書時間については、全国的調査でも大学生の50%以上が「読書時間0分」という結果が出ているが、本学でもそのような結果となっている。

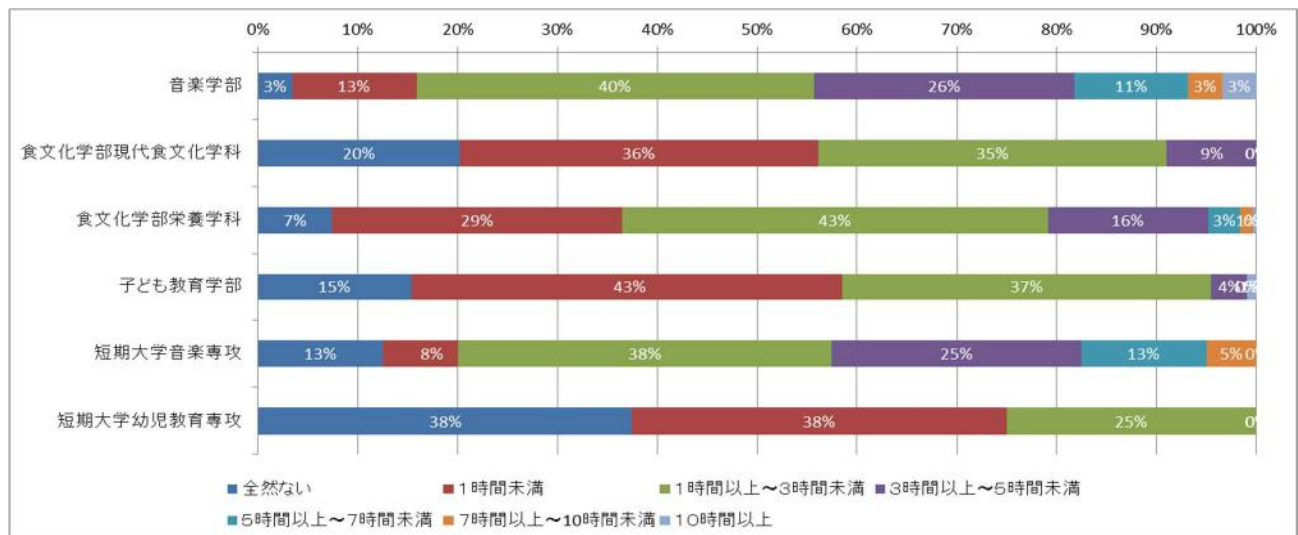
学習等の活動にかかる1週間当たりの時間だけでなく、生活費を実際にどれくらいかけており、その中でアルバイト代はどの程度必要か、図書の購入費はどうか、といった具体的な金額を調査すると、さらに実態が具体的に把握できると思う。

Q7. あなたは現在、次の活動に 1日あたりどのくらいの時間を費やしていますか。 平日の場合と休日の場合、それぞれについてお答えください。

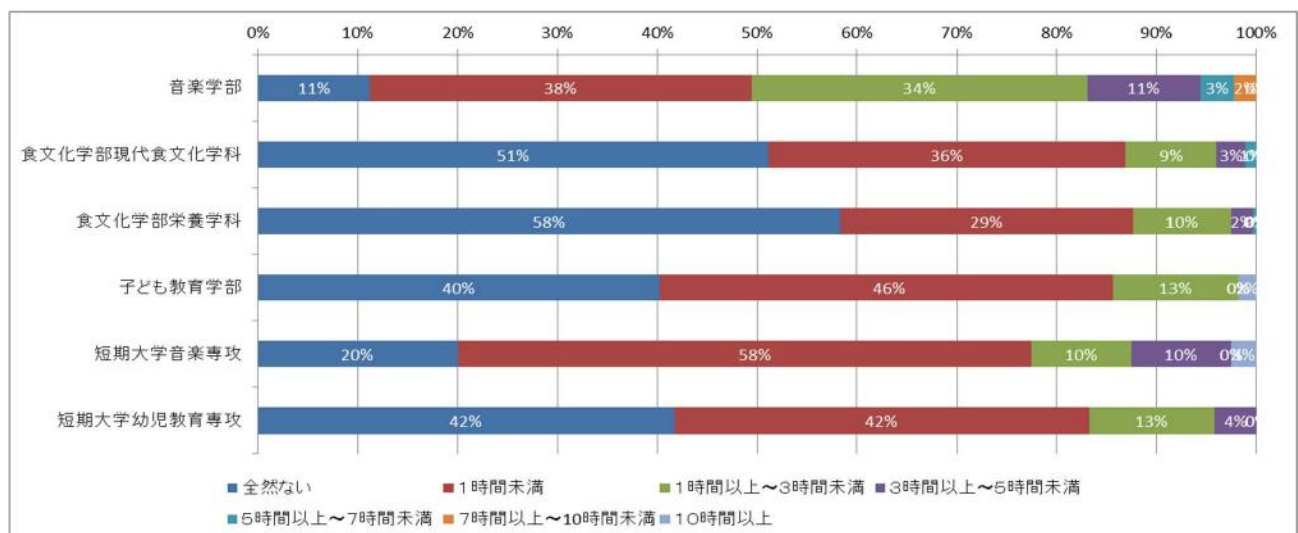
1)-1 [平日] 授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）課題や準備学習、復習をする



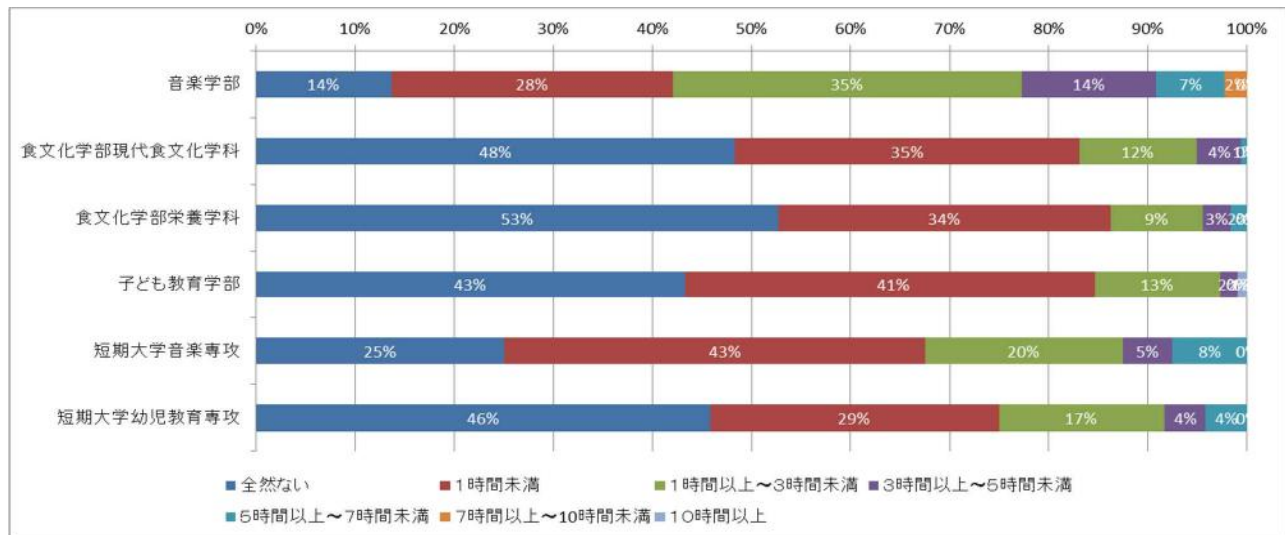
1)-2 [休日] 授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）課題や準備学習、復習をする



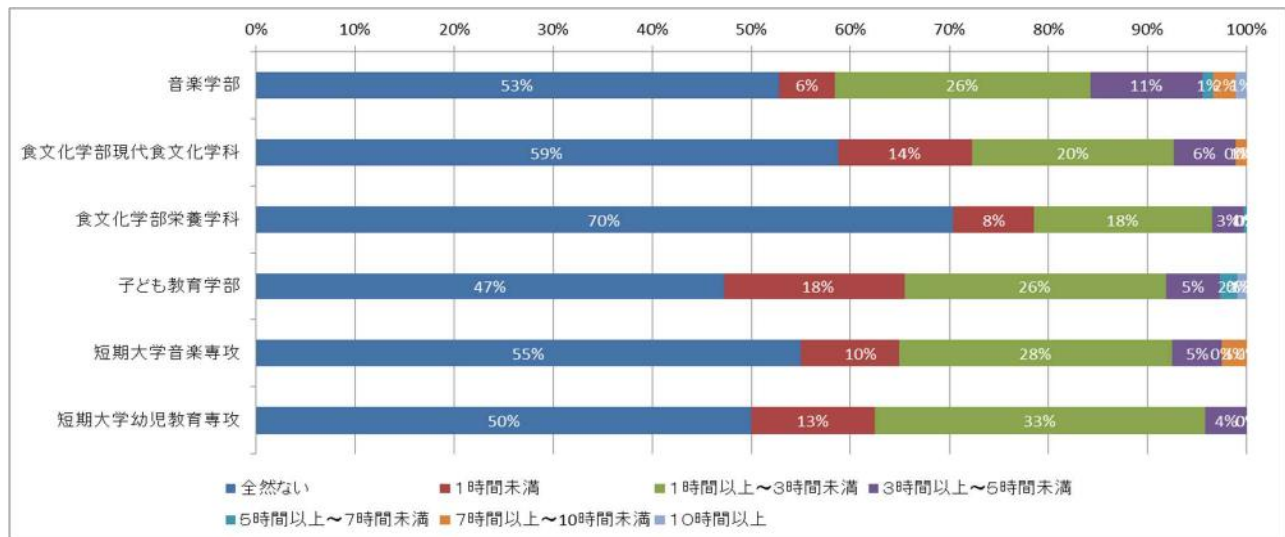
2)-1 [平日] 授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）に関連しない勉強をする



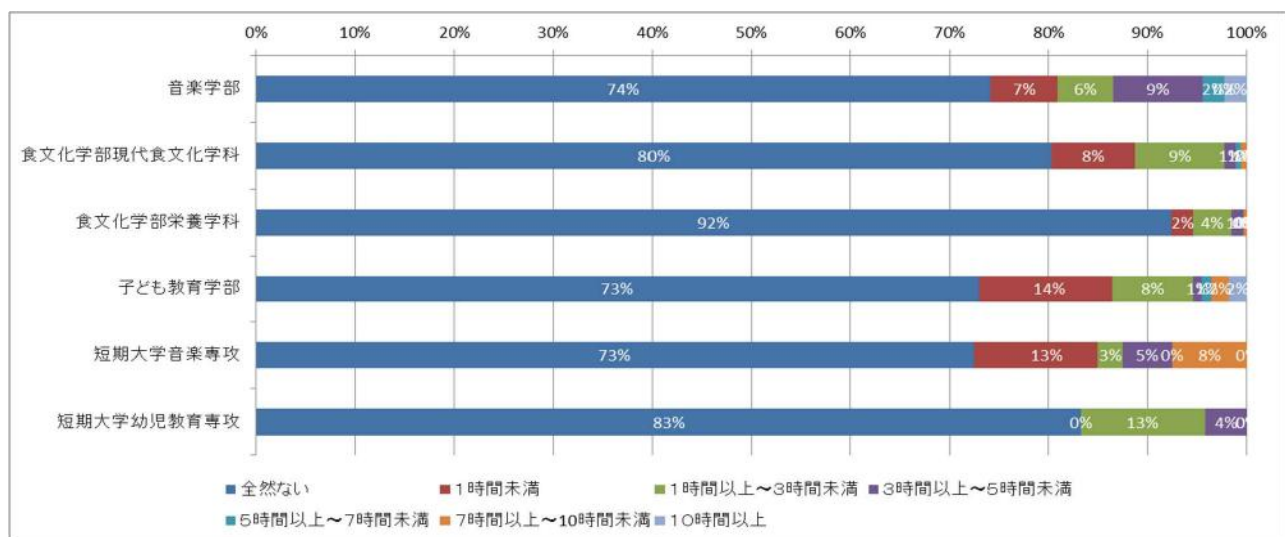
2)-2 〔休日〕授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）に関連しない勉強をする



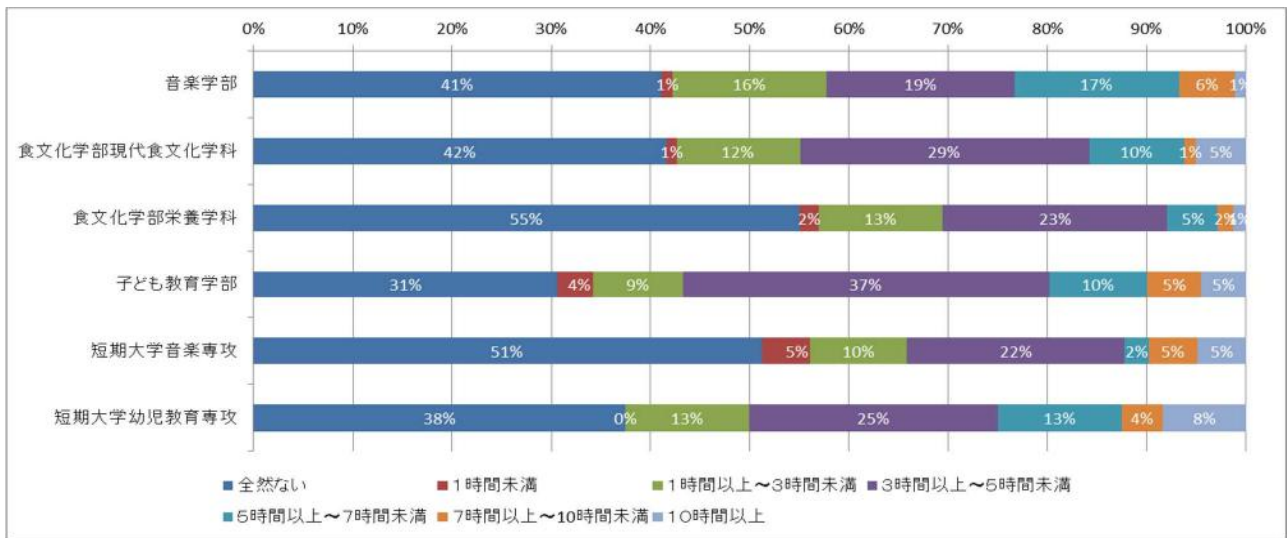
3)-1 〔平日〕部活動や同好会、サークルに参加する



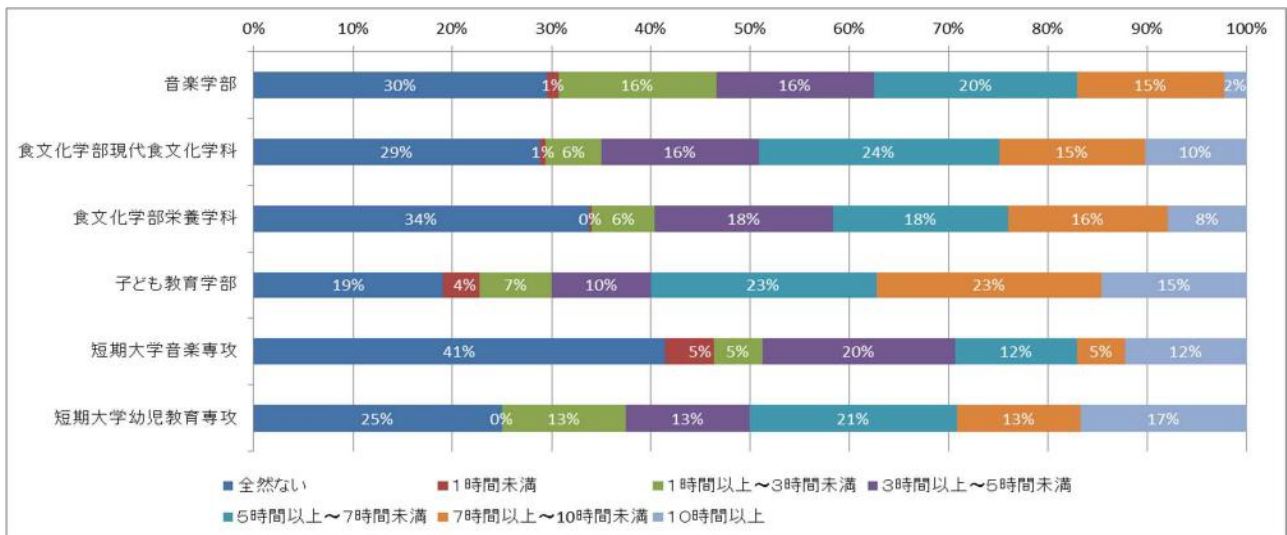
3)-2 〔休日〕部活動や同好会、サークルに参加する



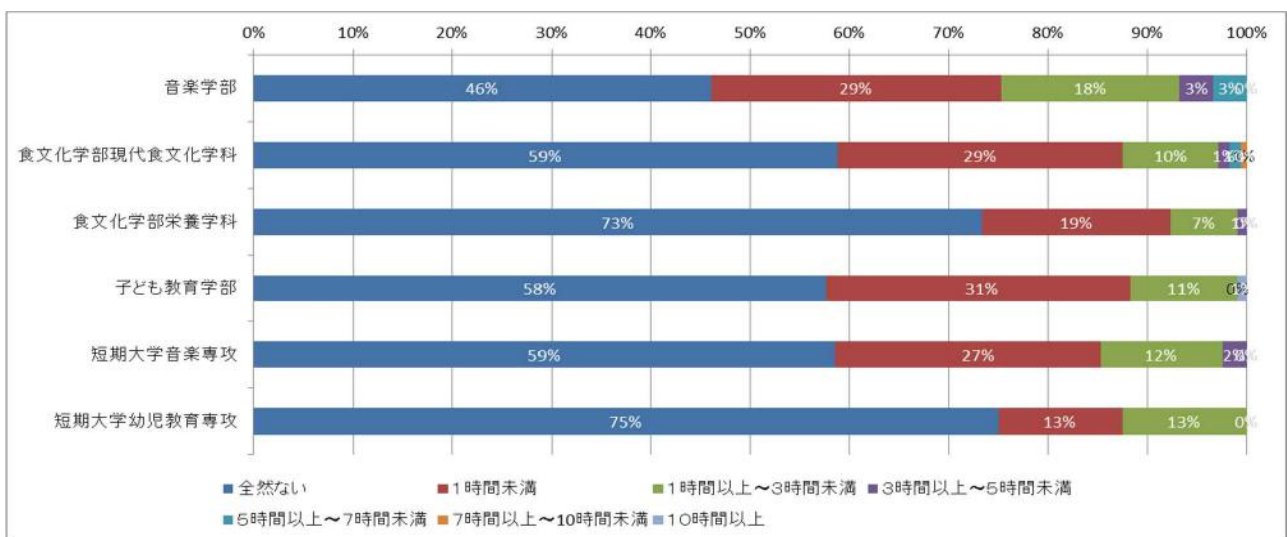
4)-1 〔平日〕 大学外でアルバイトや仕事をする



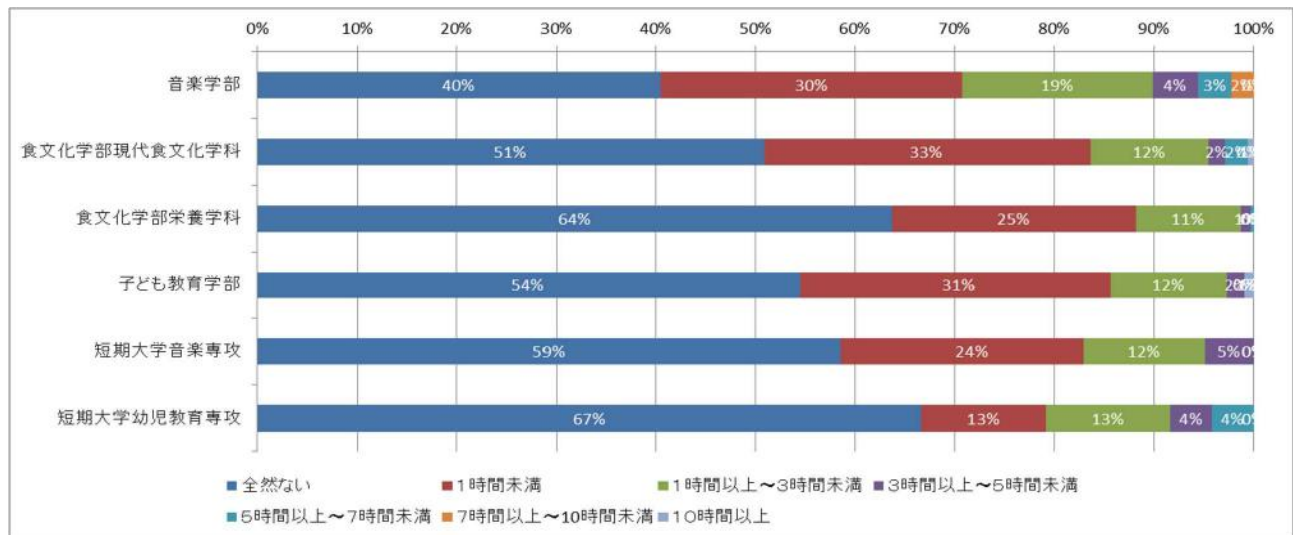
4)-2 〔休日〕 大学外でアルバイトや仕事をする



5)-1 〔平日〕 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



5)-2 「休日」読書をする（マンガ・雑誌を除く）

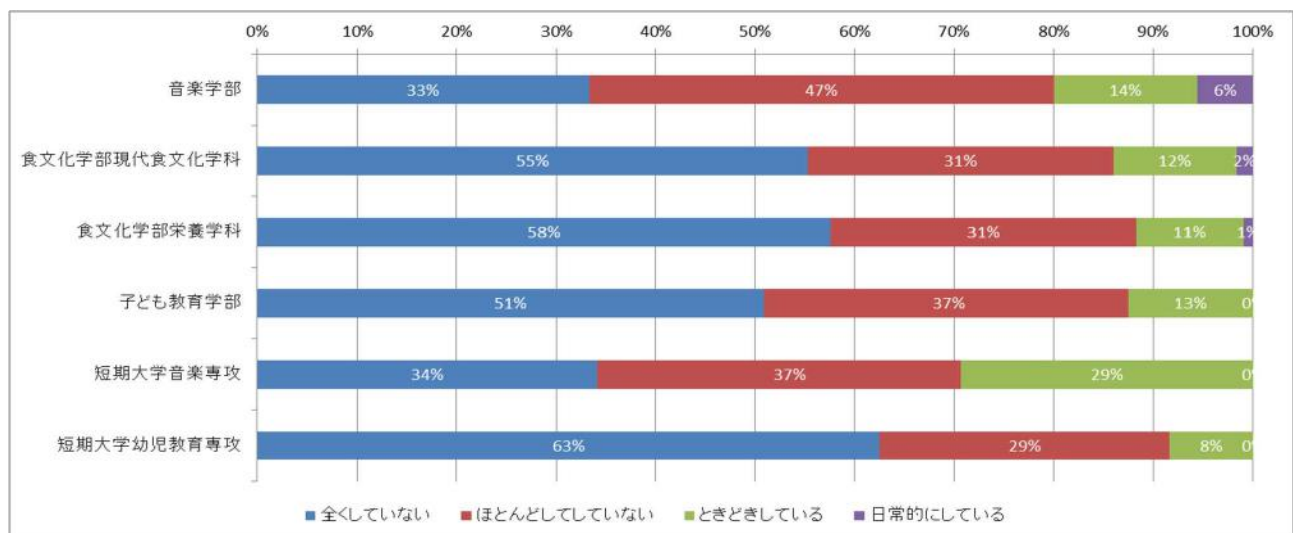


どの質問項目への回答も、1週間あたりの活動時間を問う Q6 への回答とほぼ同じ傾向である。ただし、読書時間については、Q6 の回答とかなり差があり、信憑性に欠ける。

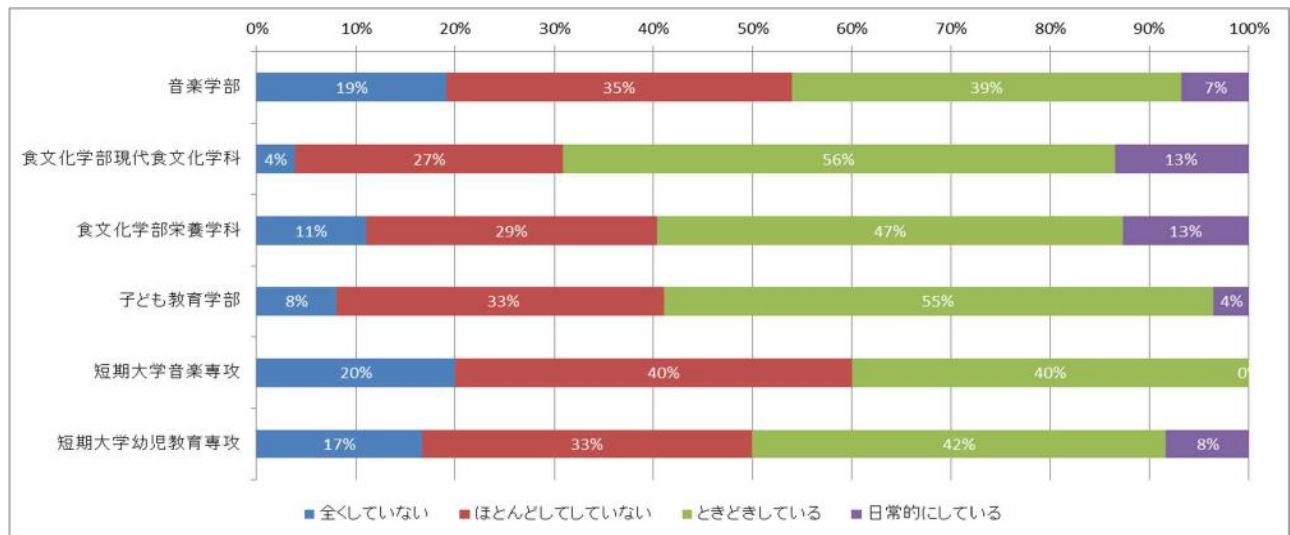
1週間あたりの活動時間を問う Q6 と、1日あたりの学習時間等を問う Q7 には、類似した問い、紛らわしい問いが多いので、アンケート項目を検討する必要がある。

Q8. あなたは大学入学以来、次の経験をどれくらいしていますか。それぞれの項目についてお答えください。

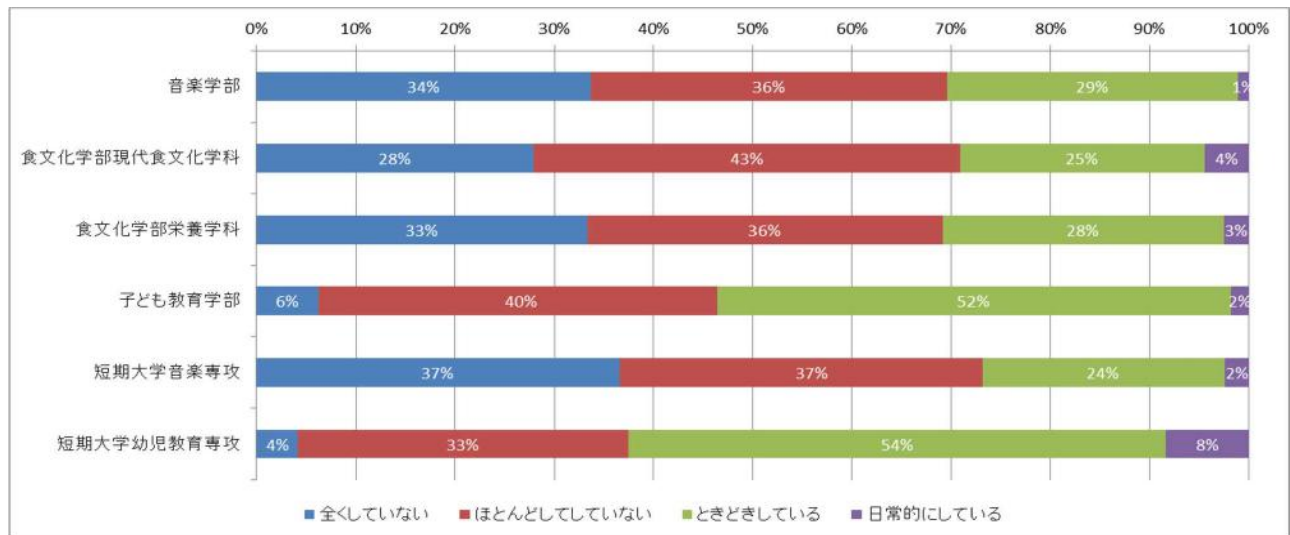
1) 正当な理由なく授業を欠席する



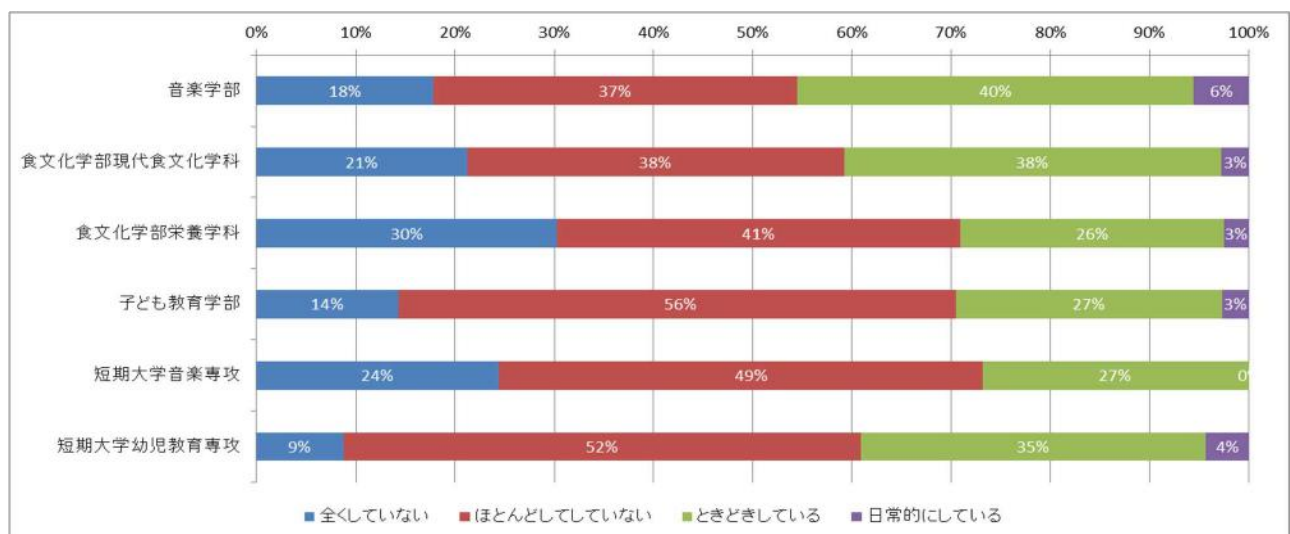
2) 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、体験的に学ぶ



3) 授業の一環でボランティア活動をする



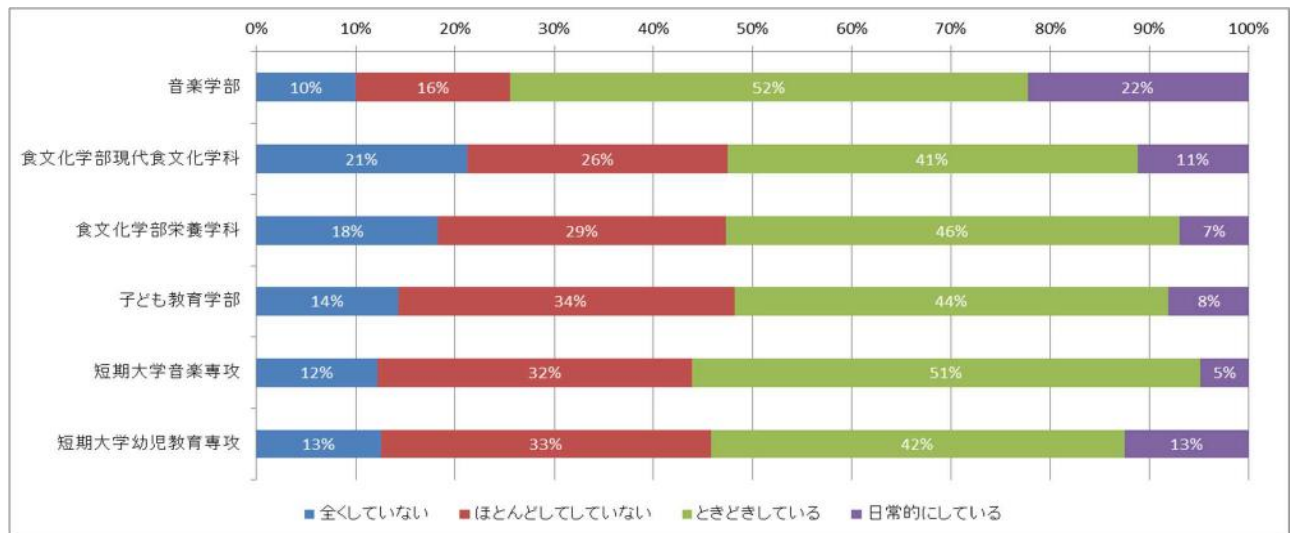
4) 自分の考えや研究を発表する



5) 授業中に学生同士でグループワークをする

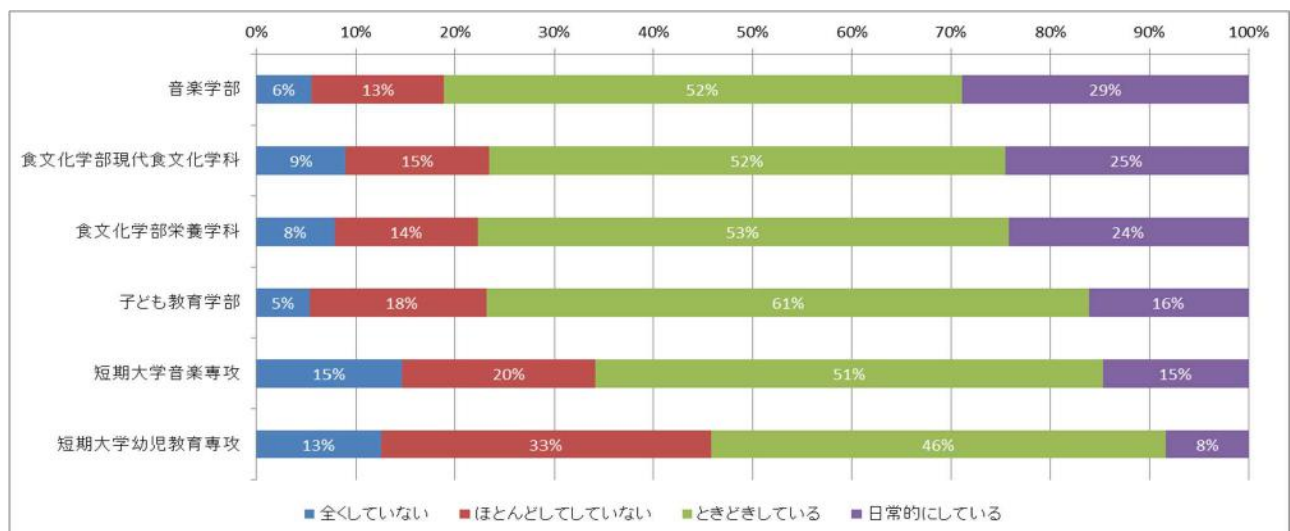


6) 授業（レッスン）課題のために図書館の資料を利用する

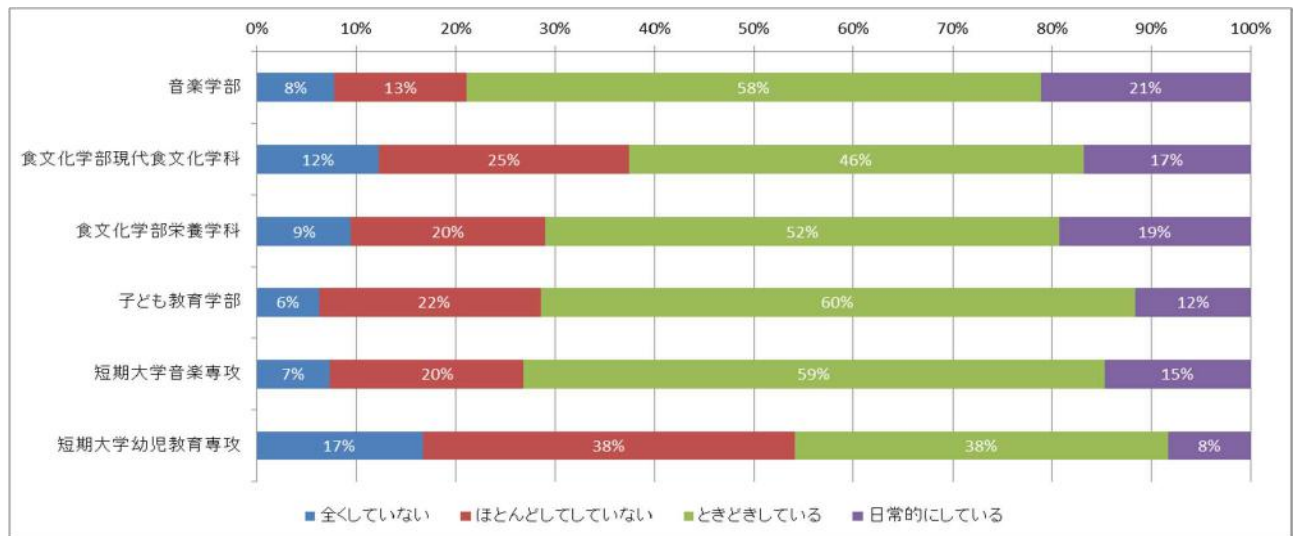


音楽学部学生の利用が多い。

7) 授業（レッスン）課題のために Web 上の情報を利用する

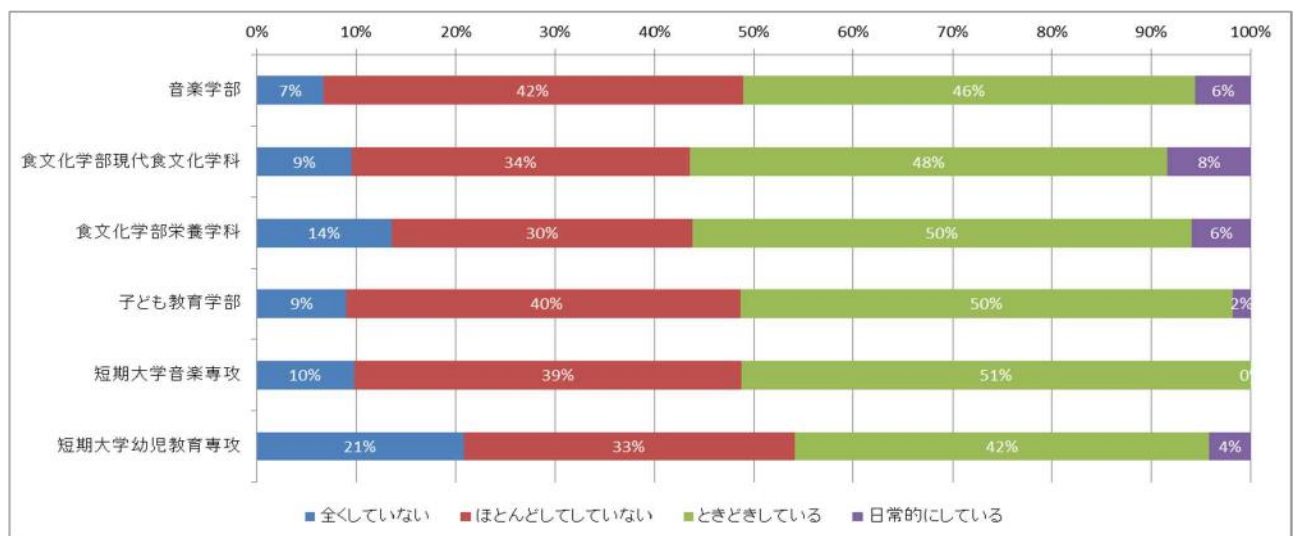


8) 授業（レッスン）時間以外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業（レッスン）内容を話したりする

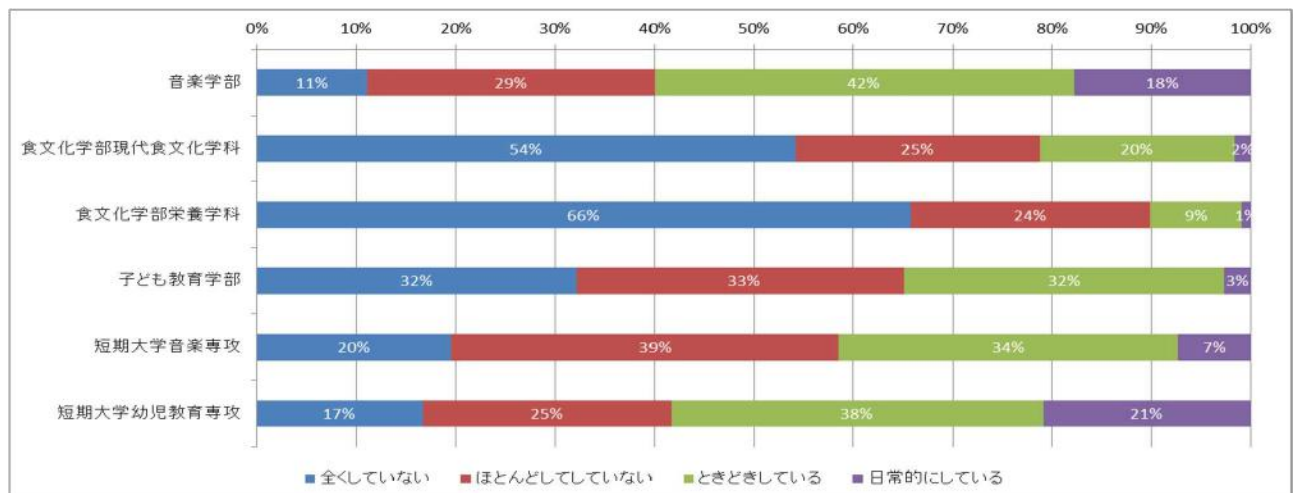


短大幼児教育専攻学生の肯定的回答率が低い。友人関係、生活面での充実度の低さと関係しているものと思われる。

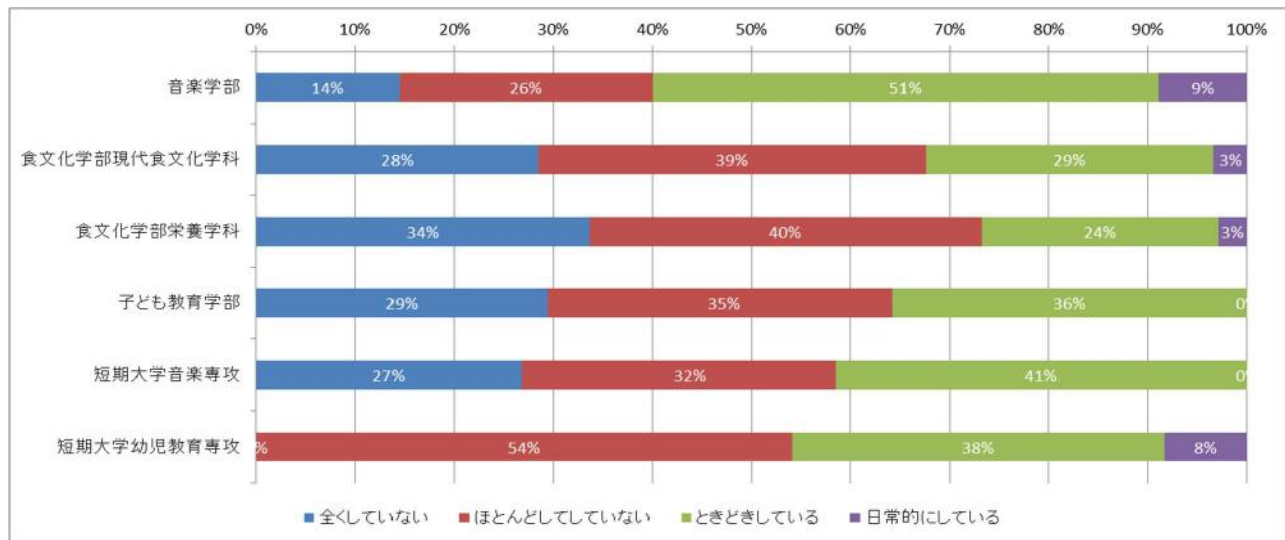
9) 教員が提出物に、添削やコメントを付けて返却する



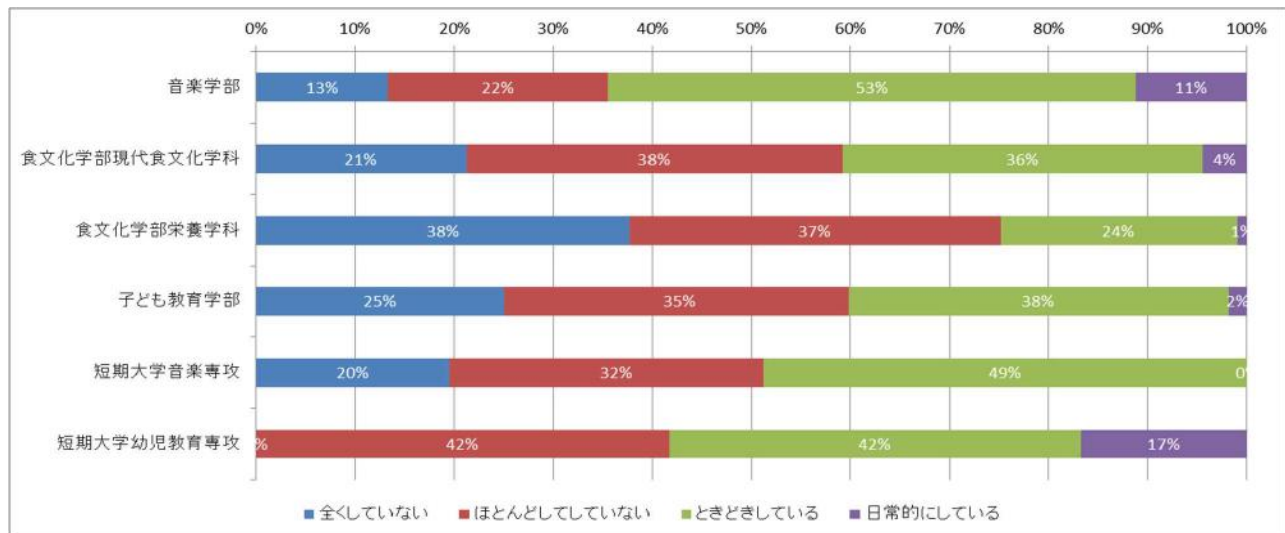
10) 教員と SNS（Facebook、mixi、LINE など）を利用してコミュニケーションをとる



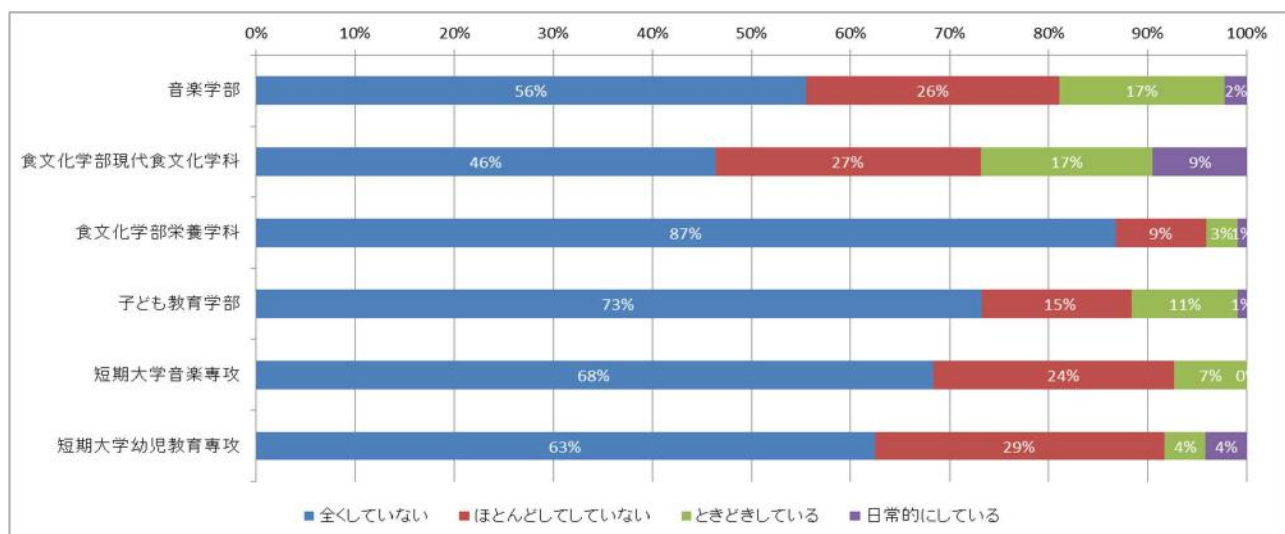
11) 教職員に学習の相談をする



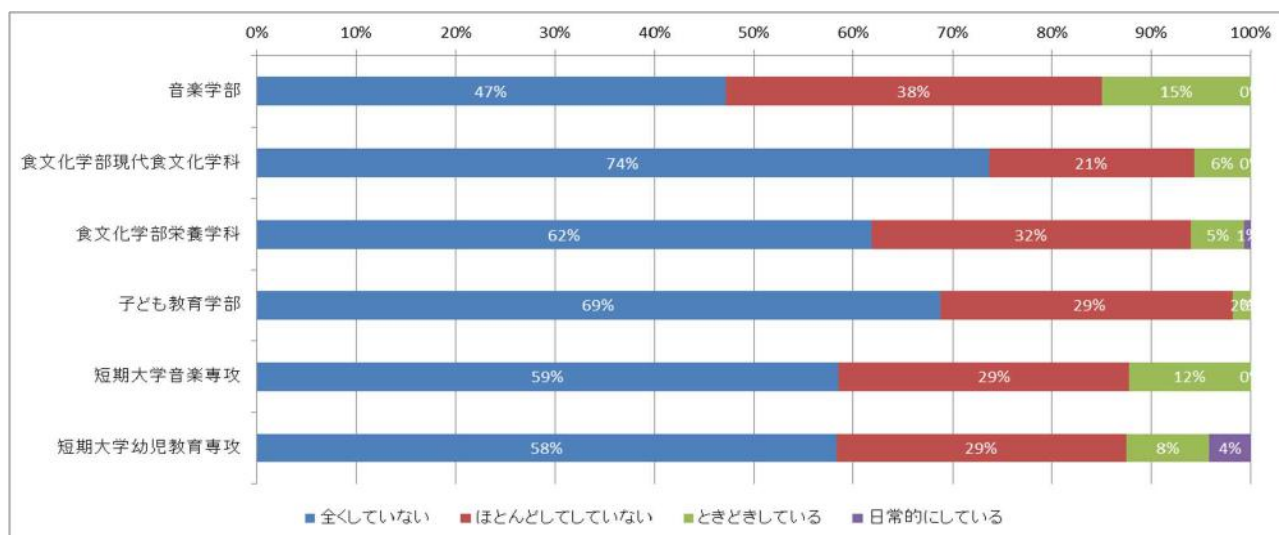
12) 教職員に進路の相談をする



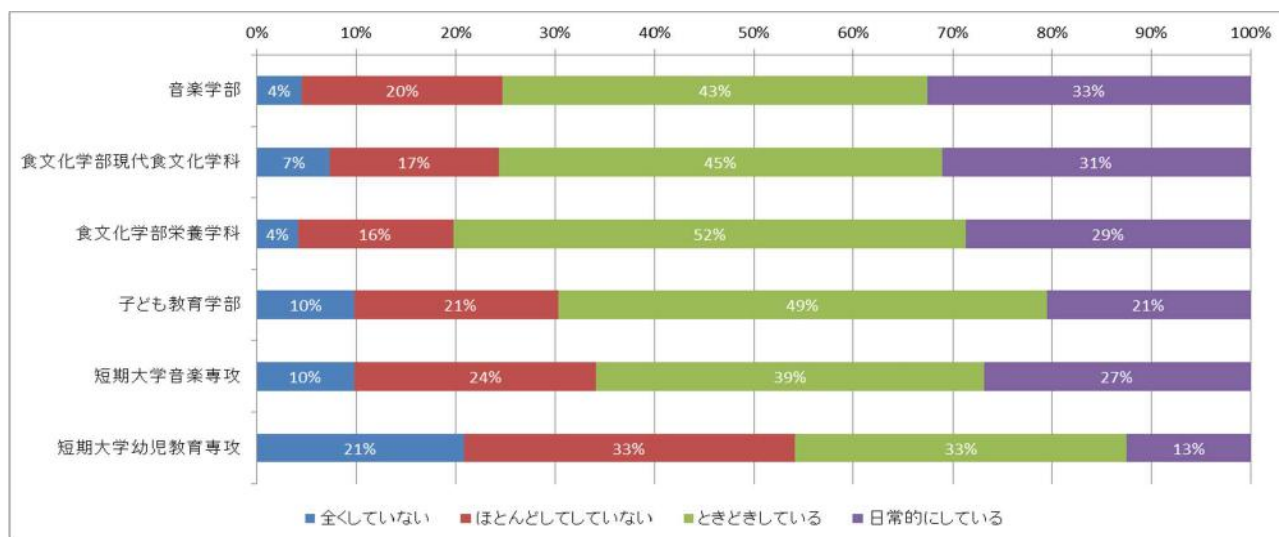
13) 外国人留学生や社会人学生と話す



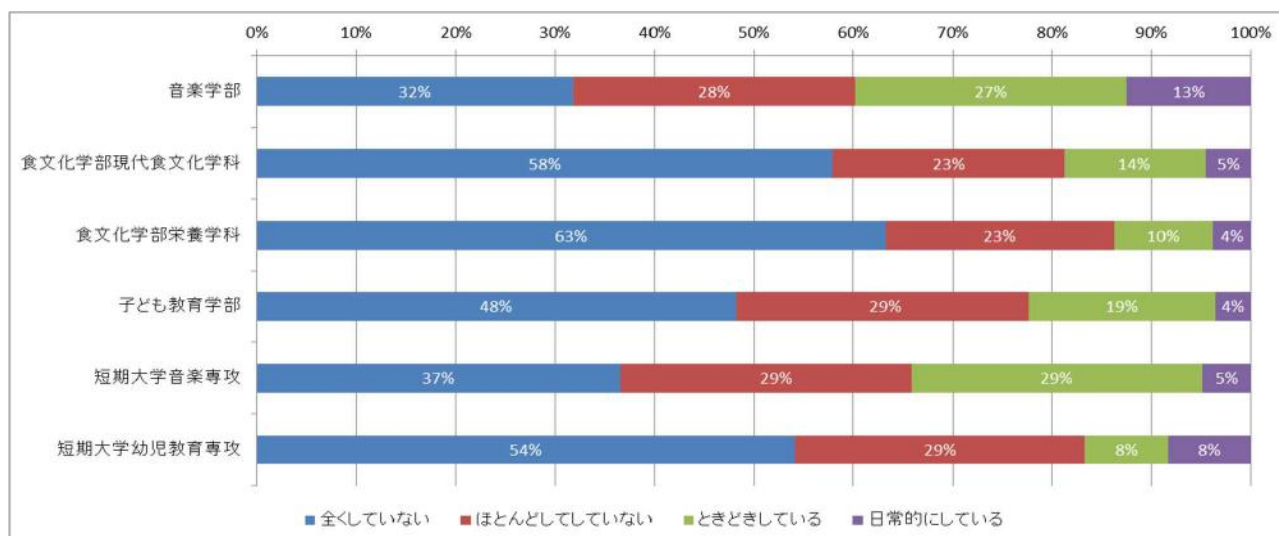
14) ポートフォリオを学業や課外活動のために利用する



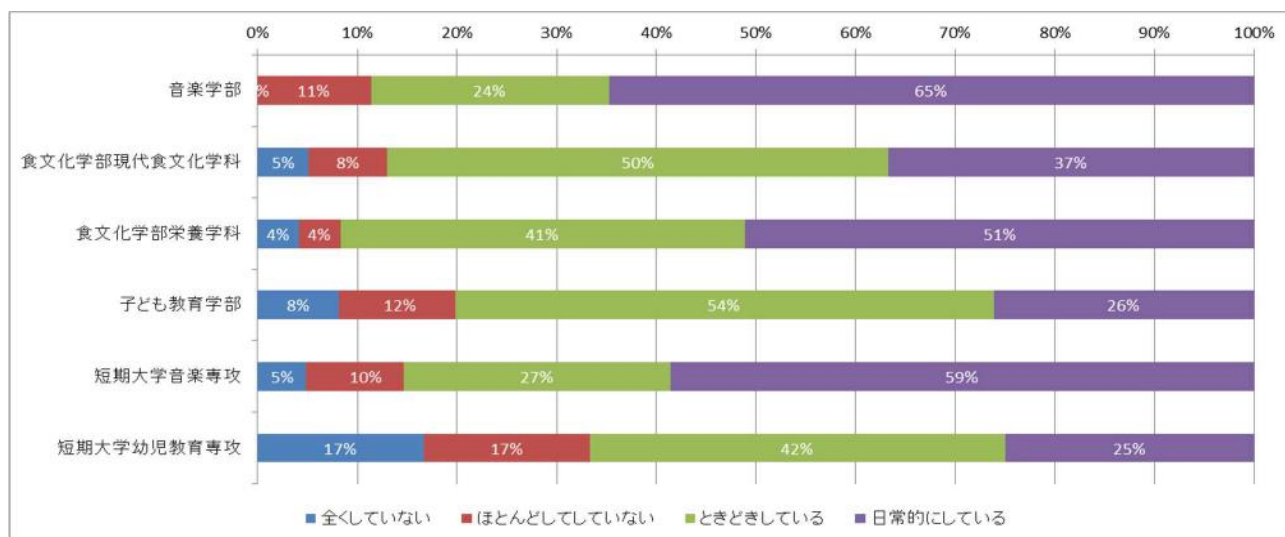
15) 読みや意味のわからない言葉があったら、辞典（ネット含む）で調べる



16) 大学の図書館にない本は、自分で購入したり、取り寄せてもらう



17) 授業（レッスン）に集中して取り組む



「1) 正当な理由なく授業を欠席する」という項目に関して、短大音楽専攻学生の約3割が正当な理由なく授業を欠席すると回答している。また、音楽学部学生では6%（実数にして5、6名）ではあるが、日常的に正当な理由なく欠席していると回答している。出席が重視される本学において、これらの回答が示唆することは単位修得にも関わる大きな問題である。

「2) 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、体験的に学ぶ」～「5) 授業中に学生同士でグループワークをする」は、学部学科の方針や授業形態に関わる質問であり、学生個人の学修態度と直接関わるものではないので、質問項目をより適切なものに改めるべきである。

「3) 授業の一環でボランティア活動をする」に関しては、子ども教育学部と短大幼児教育専攻の学生に、授業の一環でボランティア活動を経験したという回答が多い。だが、授業の一環として行われた活動が「ボランティア活動」と言えるのか、疑問である。

「6) 授業（レッスン）課題のために図書館の資料を利用する」に関しては、音楽学部学生に授業のための図書館資料の利用が多い。それは、楽譜の利用が多いためだと思われる。

「10) 教員と SNS (Facebook、mixi、LINE など) を利用してコミュニケーションをとる」～「12) 教職員に進路の相談をする」への回答からは、食文化学部では教員と学生とのコミュニケーションが十分に取られていないのではないかとという疑問が生じる。

「13) 外国人留学生や社会人学生と話す」については、本学には、そもそも留学生や社会人学生がほとんどいない。

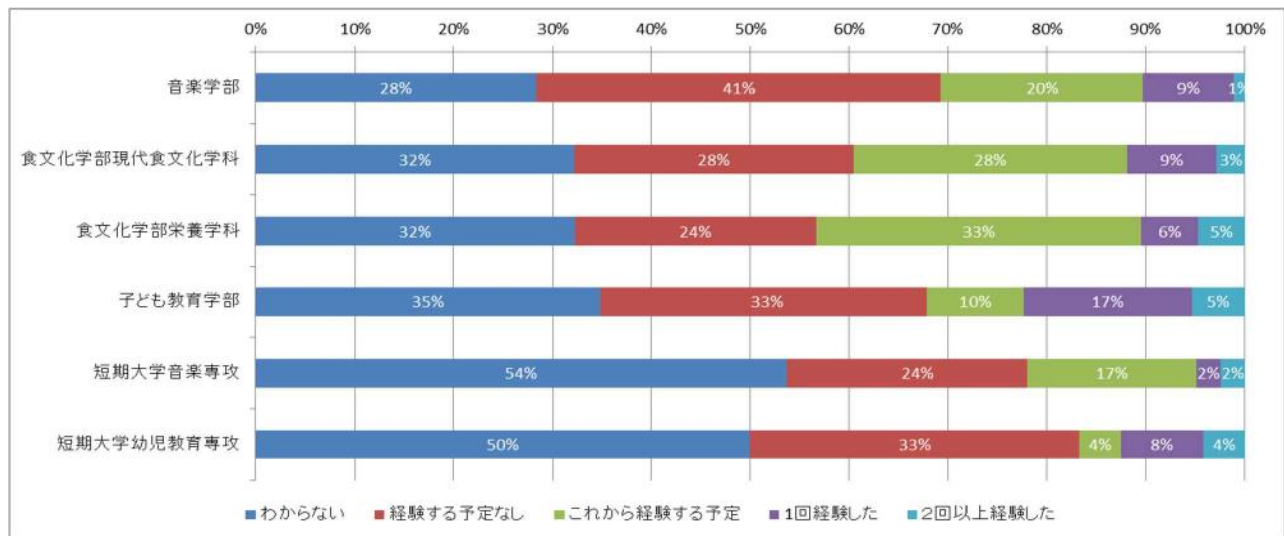
「14) ポートフォリオを学業や課外活動のために利用する」については、現状ではほとんど利用されていない。UNIPA のマイステップフォローなどを、学修と進路の方向づけに積極的に活用していく必要がある。

「15) 読みや意味のわからない言葉があったら、辞典（ネット含む）で調べる」～「17) 授業（レッスン）に集中して取り組む」に関しては、短大幼児教育専攻の学生のネガティブな回答が目立つ。「わからない→調べる→わかる→楽しい」という能動的な学修態度が身につけていないように思われる。

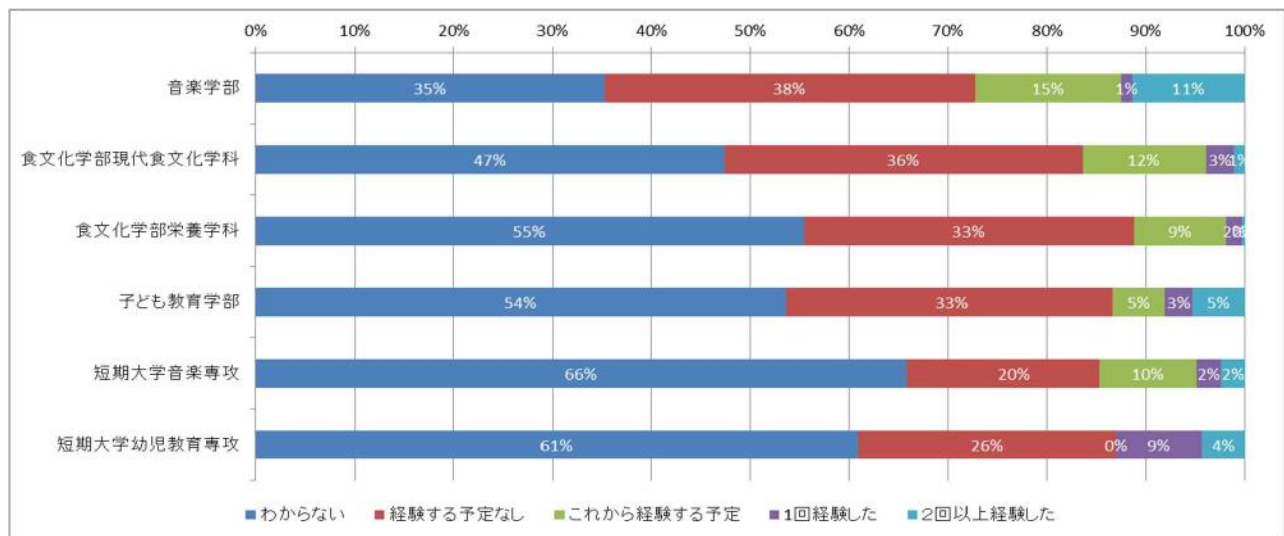
「16) 大学の図書館にない本は、自分で購入したり、取り寄せてもらう」に関しては、音楽学部と短大音楽専攻の学生に積極的な回答が目立つ。これは楽譜を入手しなければならない機会が多いためではないと思われる。

Q9. あなたは大学入学以来、次の経験をどれくらいしていますか。それぞれの項目についてお答えください。

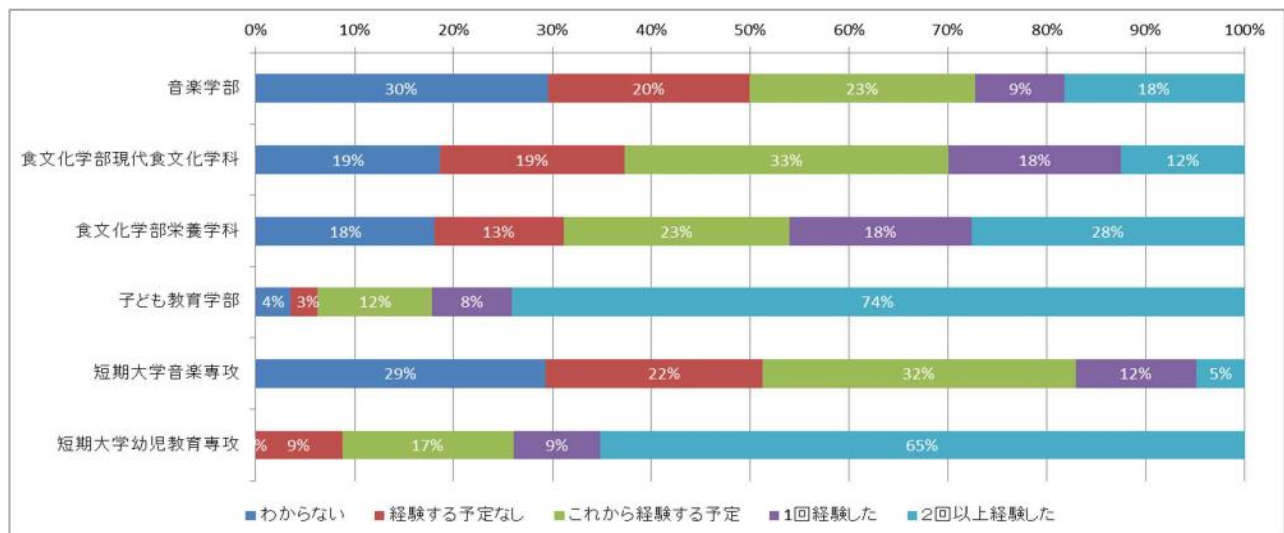
1) インターンシップ



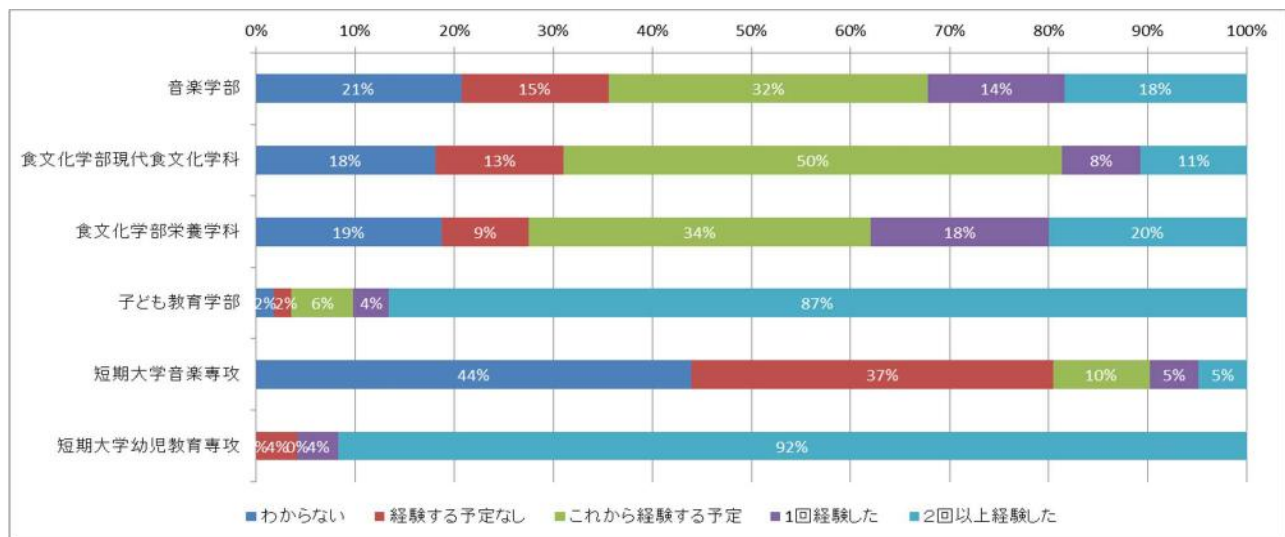
2) サービスラーニング



3) ボランティア活動



4) 実習（教育実習・保育実習など）

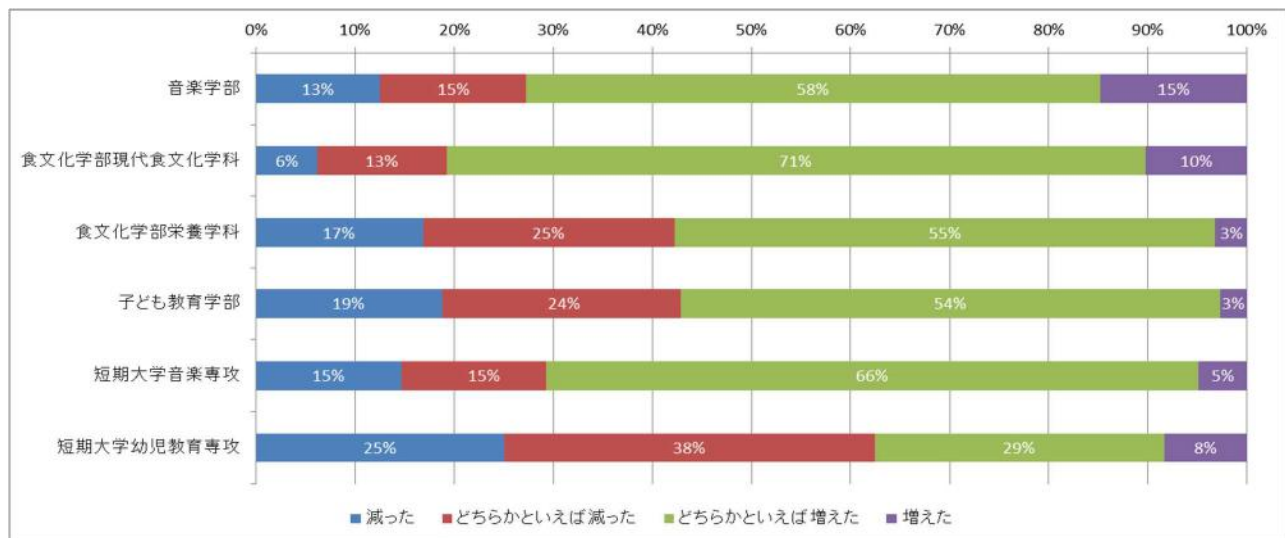


ボランティア活動の有無を問う 3) に関して、子ども教育学部と短大幼児教育専攻の学生のボランティア経験率が高い。これは、ボランティアと言いながら、幼稚園、保育所など自らの進路決定にも関わる目的のはっきりした、実質的にインターンシップのような位置づけの活動を含むのではないと思われる。

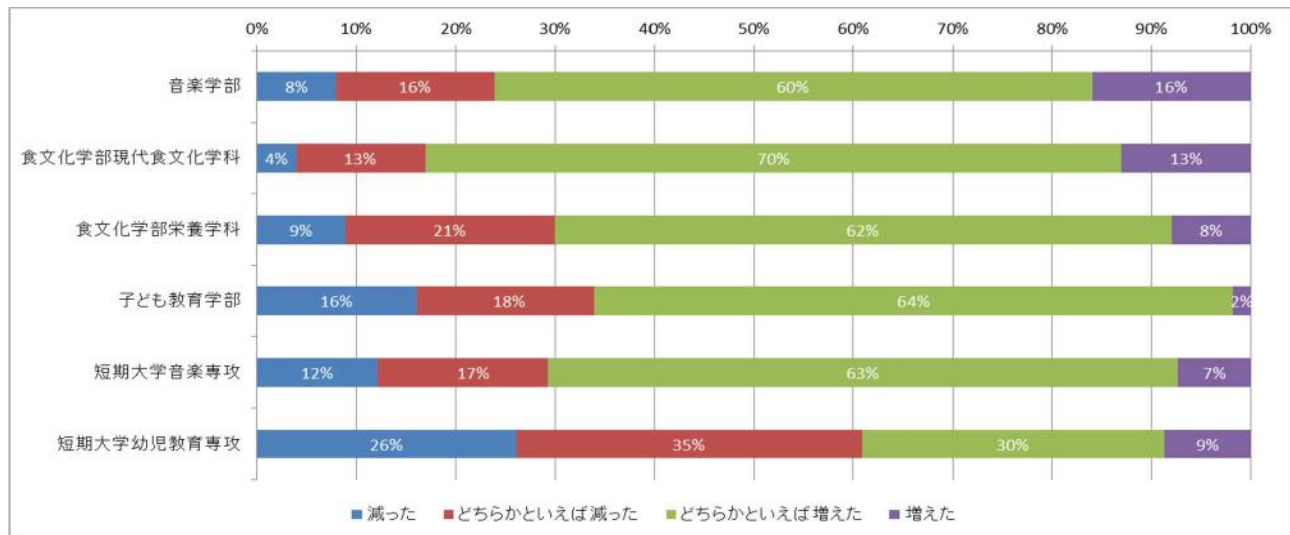
また、それぞれの活動の理念の違いを学生が正しく理解して回答しているのか、やや疑問である。「ボランティア」と「サービス」の違い、それらと「ラーニング」を統合するとどのような活動になるか、学生は理解しているのだろうか。これらの質問項目の適否や回答の仕方は、学部学科の教育課程にも大きく左右される。

Q10. 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

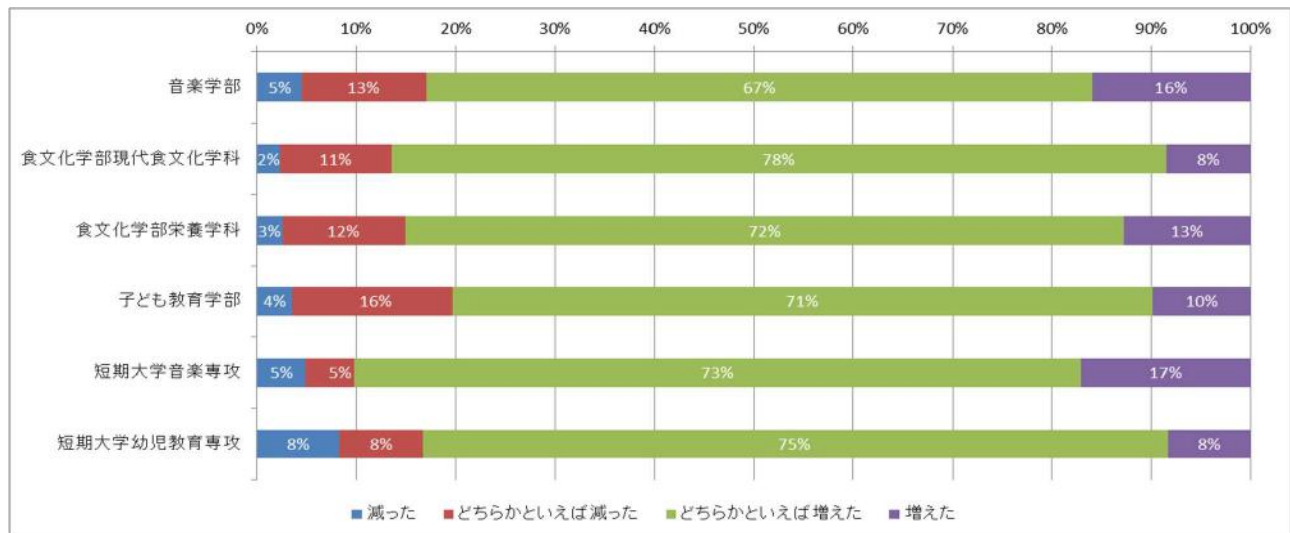
1) 異文化の人々に関する知識



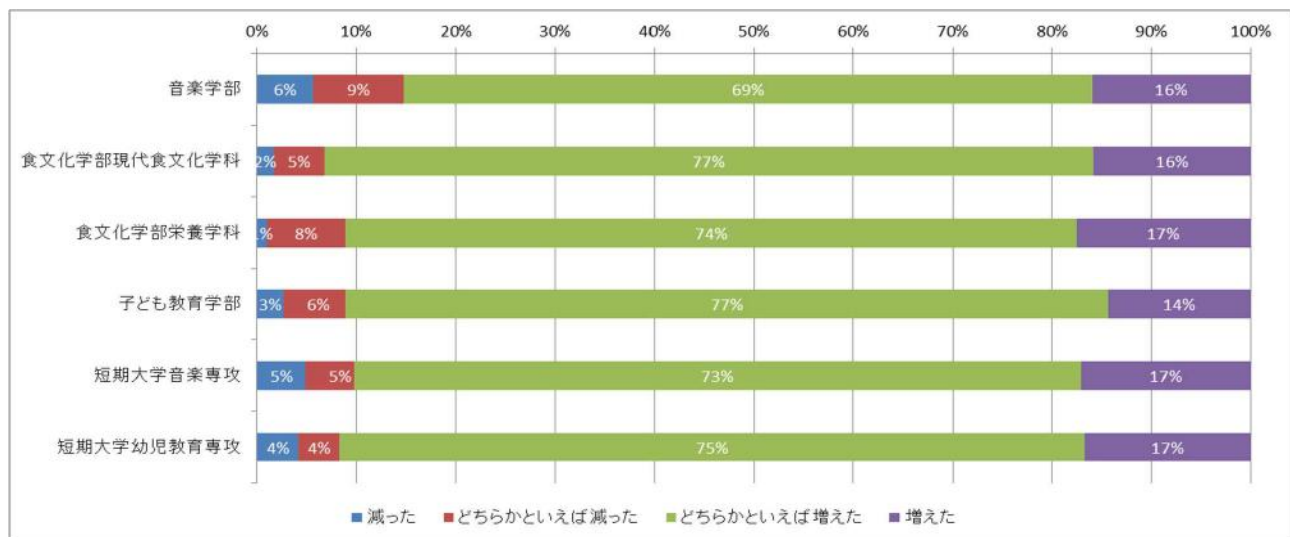
2) 人類の文化、社会と自然に関する知識（いわゆる一般的な教養）



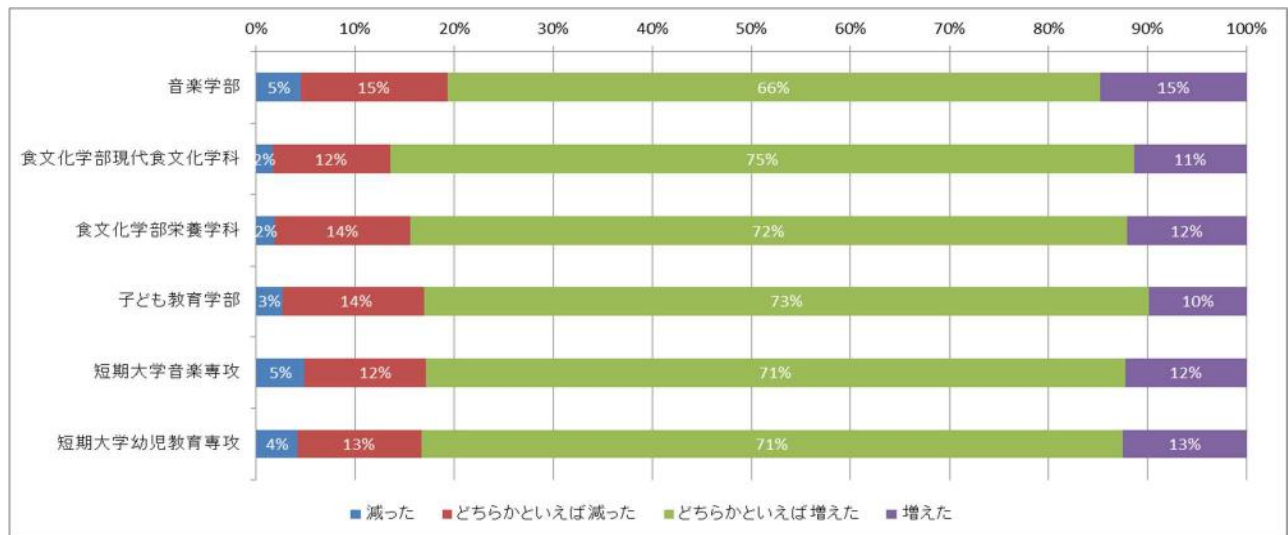
3) 自分の意見をわかりやすく伝える力



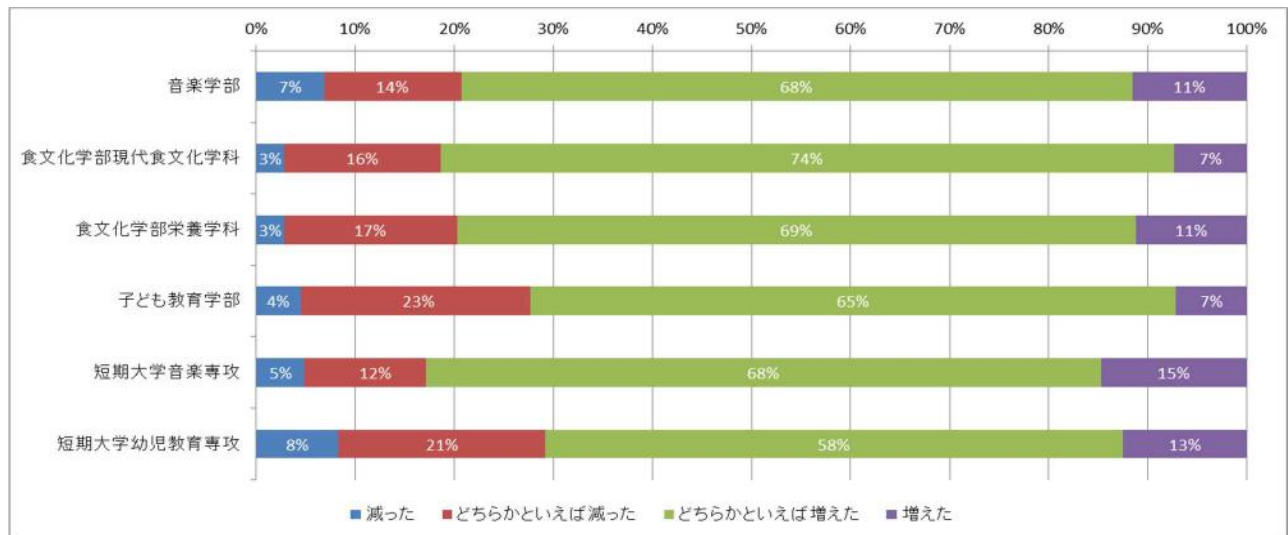
4) 相手の意見をていねいに聴く力



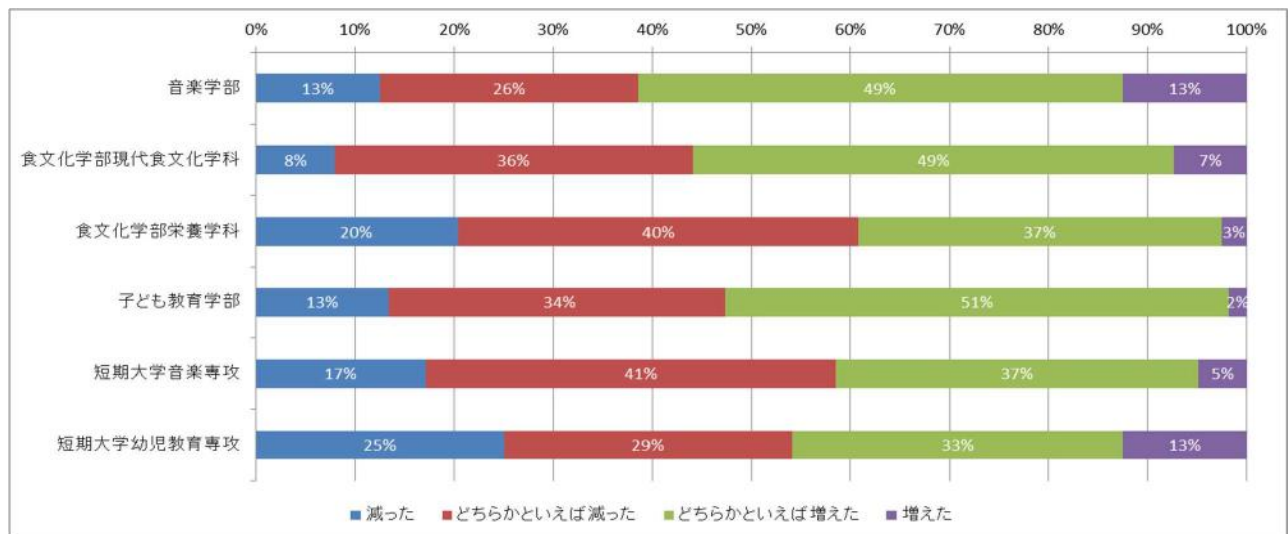
5) 日本語を用いて自分の意見をわかりやすく書く力



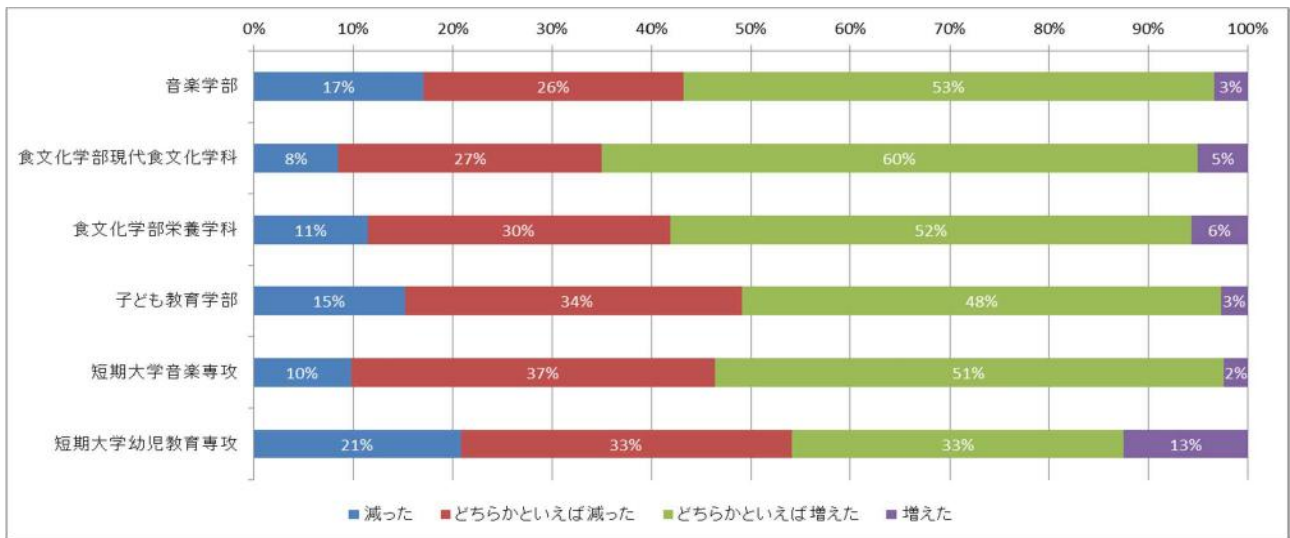
6) 日本語を用いて文章の要点を的確に読み取る力



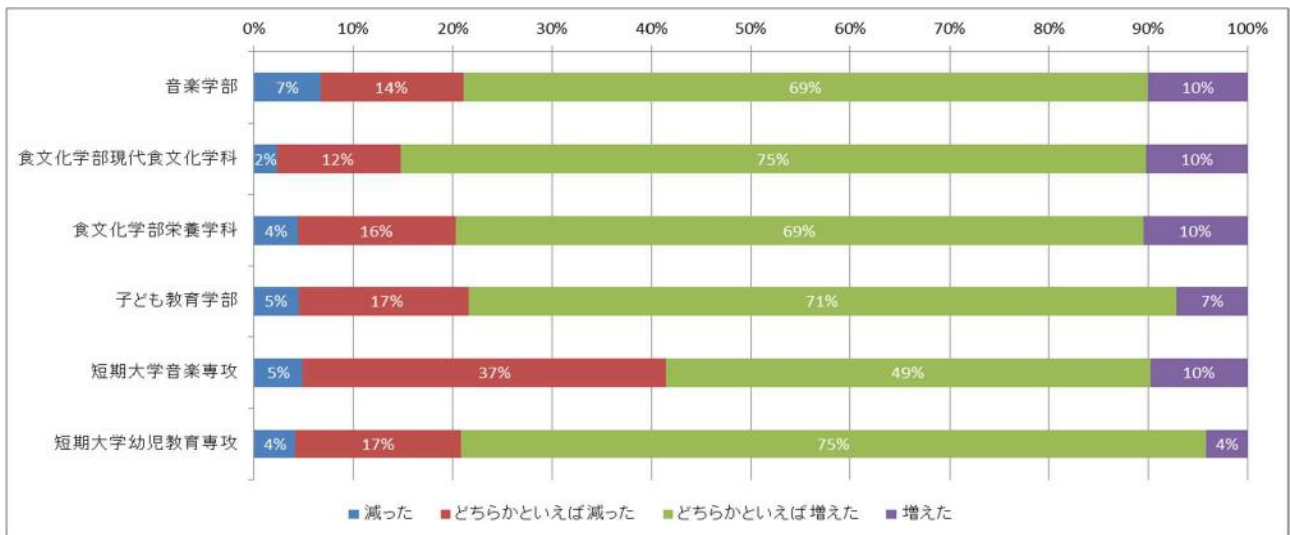
7) 外国語を用いてコミュニケーションをする力（読む、書く、聞く、話す）



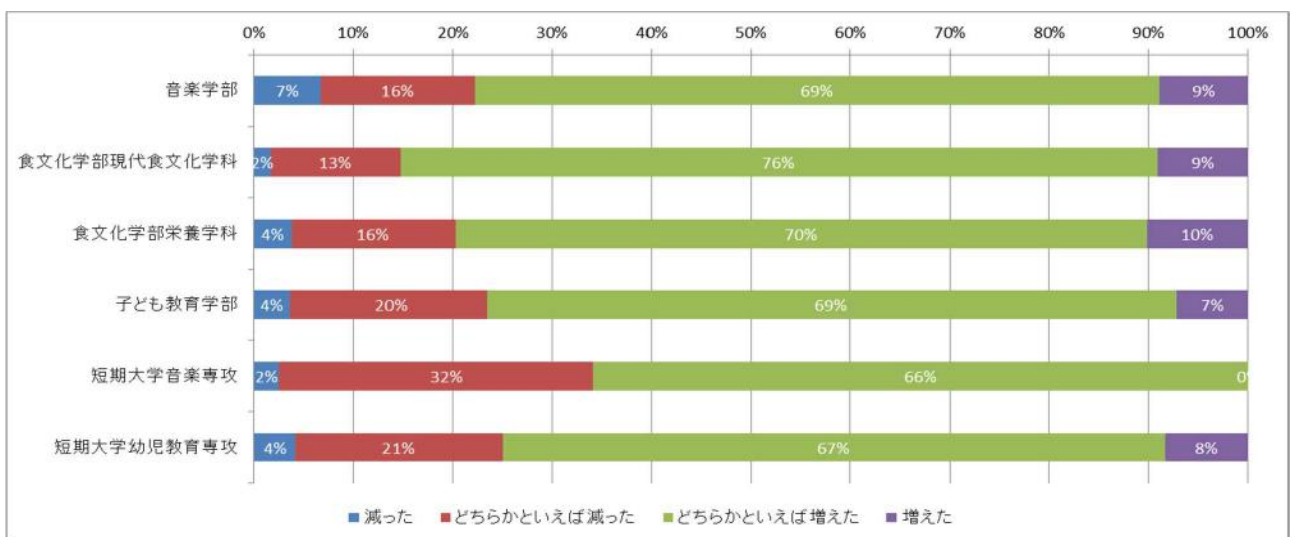
8) 数量的に分析し表現する力



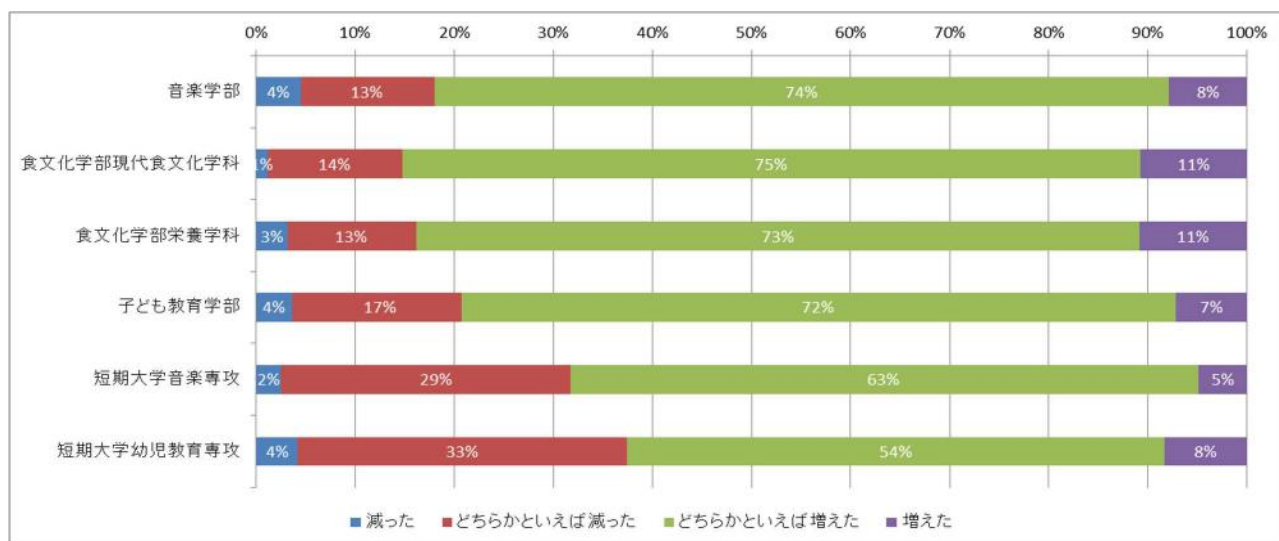
9) 多様な情報を収集・分析し、表現する力



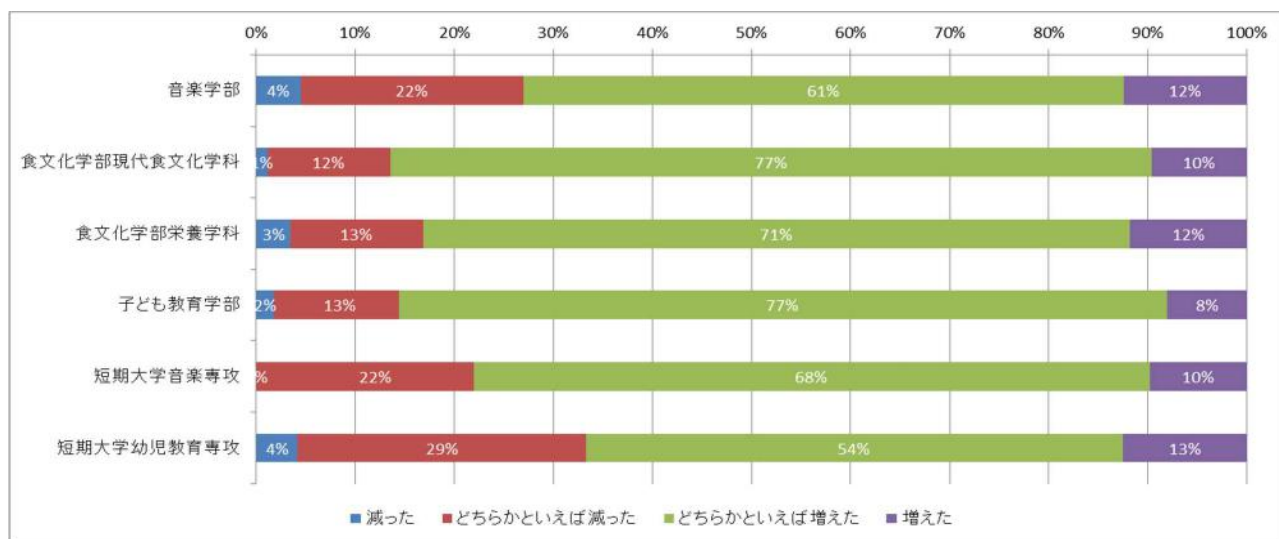
10) 情報や知識を論理的に分析し、表現する力



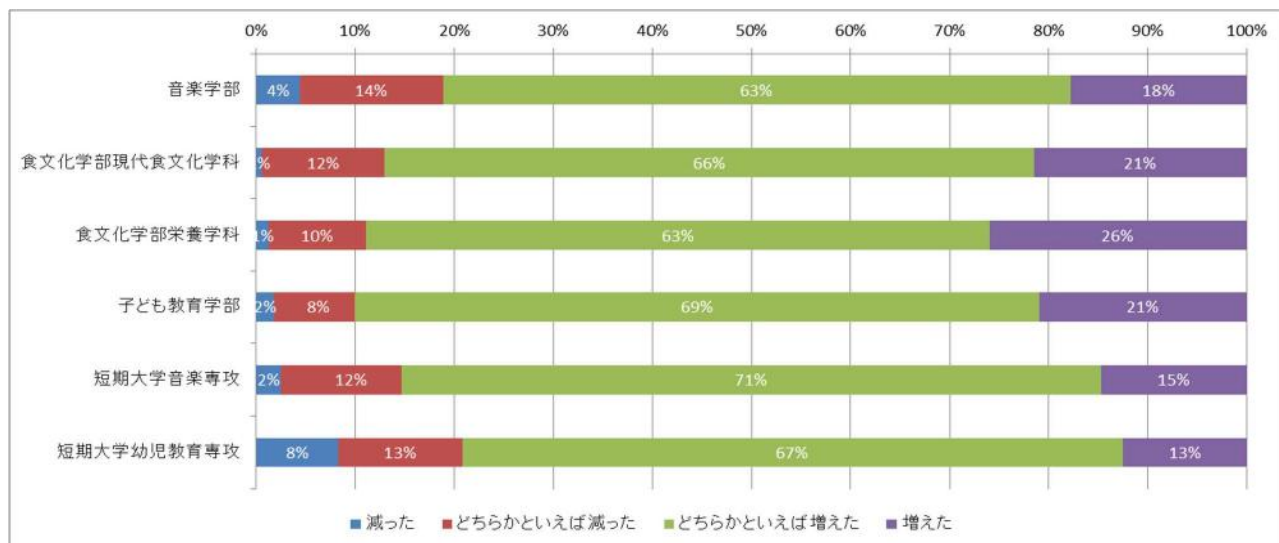
11) 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力



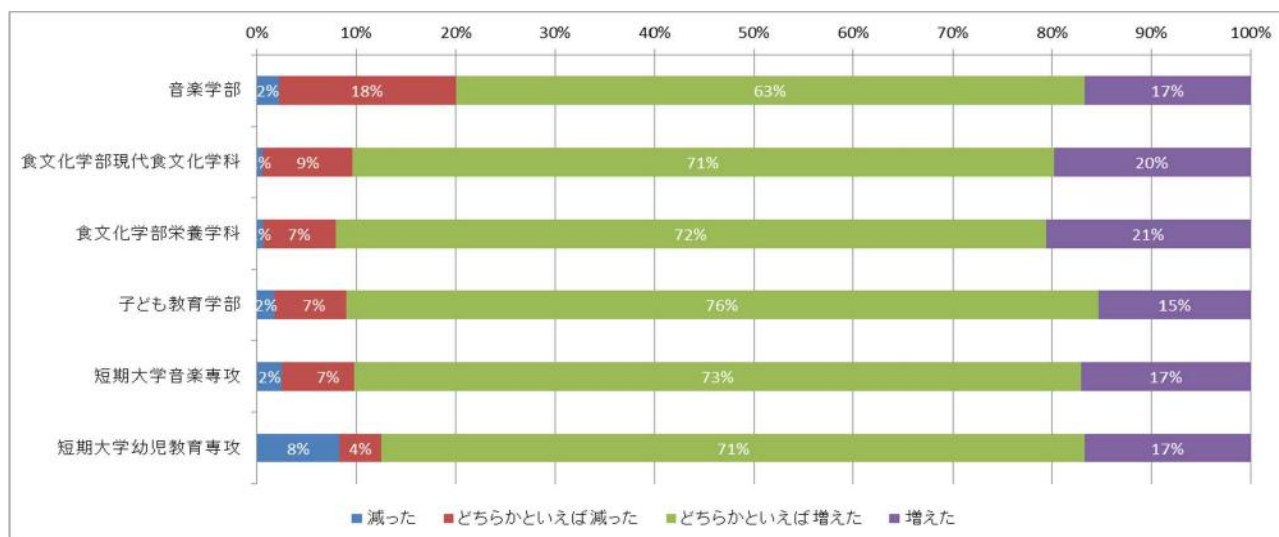
12) 設定した目標・計画に向けて、確実に行動する力



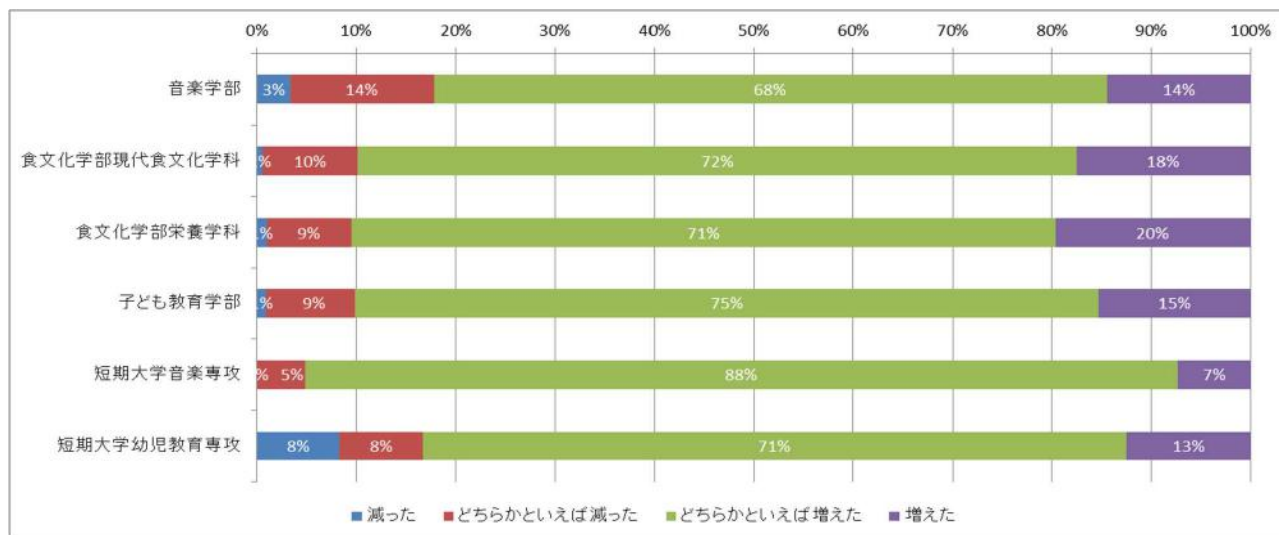
13) 他者と協調・協働して行動する力



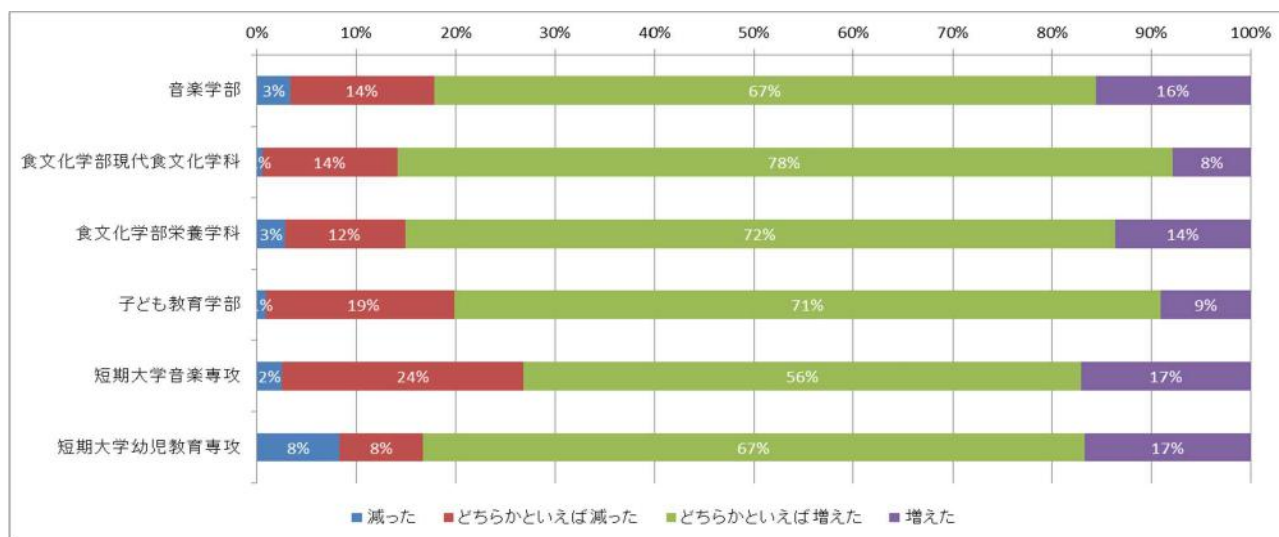
14) 自己の良心と社会のルールや規範に従って行動する力



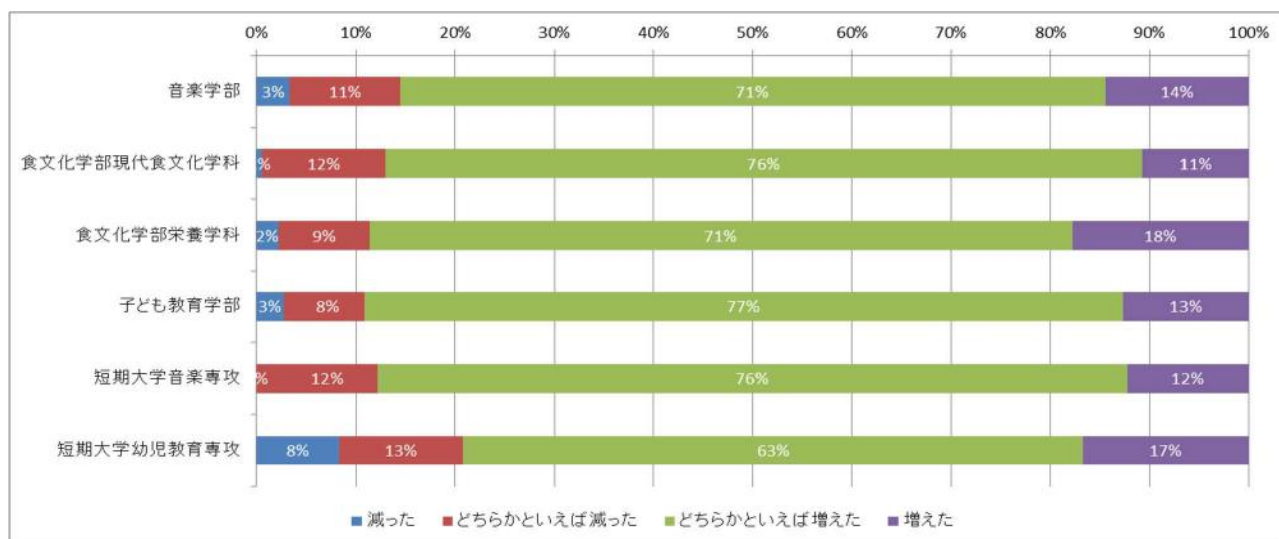
15) 社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力



16) 卒業後も自ら学び続けることのできる習慣



17) これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力



「1) 異文化の人々に関する知識」に関しては、そもそも本学にそれを実現するような授業やカリキュラムが積極的に組まれているとは言いがたいので、この点を取り立てて質問する意味はないのではないかと。

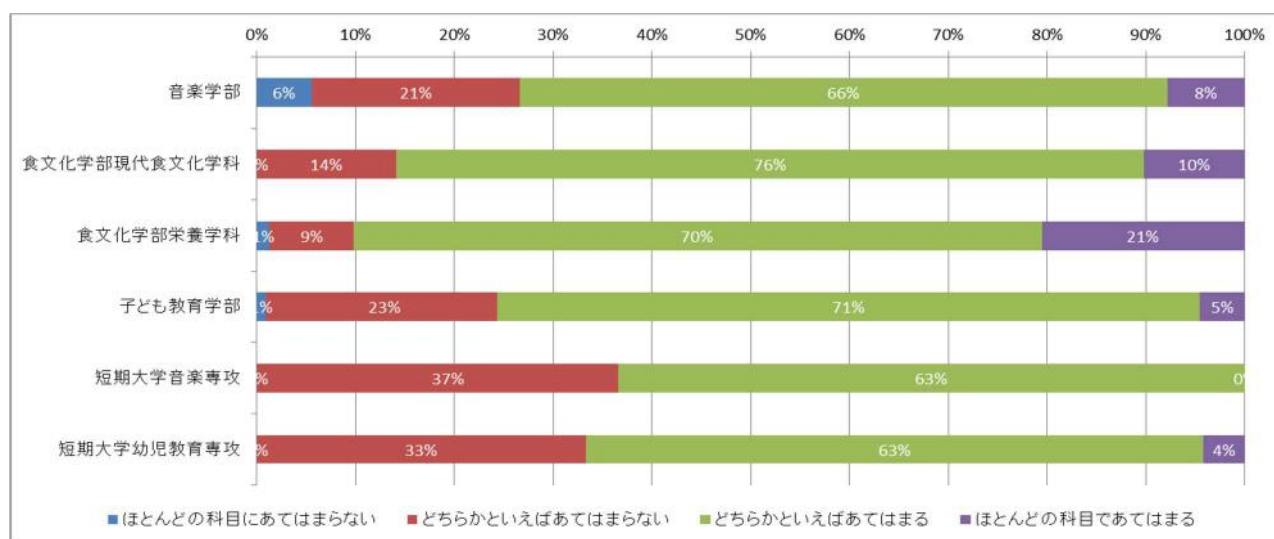
1)や「2) 人類の文化、社会と自然に関する知識」に関しては、特に短大幼教専攻学生にネガティブな回答が目立つ。これまでの、いわゆる5教科的な内容についての学習機会が、入学後、減ったということであろう。

「7) 外国語を用いてコミュニケーションをする力」と「8) 数量的に分析し表現する力」に関しては、学部学科を問わずネガティブな回答が目立つ。英語や数学について、もともと苦手意識があるための回答だともとれる。だが、高校時代に身につけていた学力が入学後に消失しているとすれば問題である。数学については、一部の学科の学生を除き、入学後は触れる機会がほとんどないのではないかと。

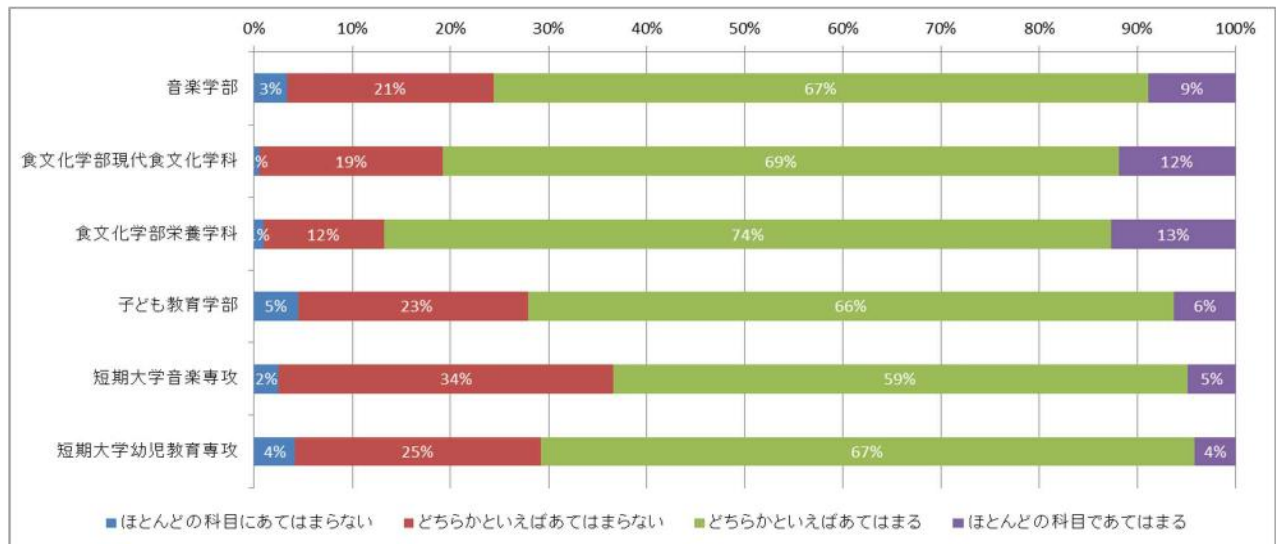
「9) 多様な情報を収集・分析し、表現する力」以降の項目には、やや紛らわしい質問もあるが、全体的に、音楽学部と短期大学の学生にネガティブな回答が見られる。

Q11. 今学期受講している科目全般について、以下のことはどれくらいあてはまりますか。

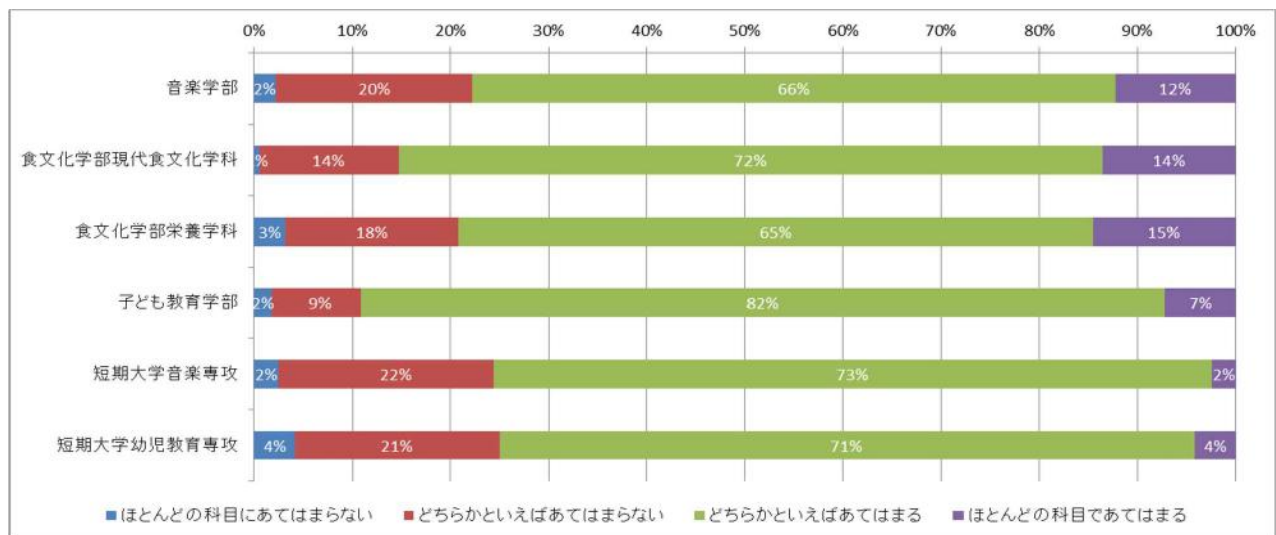
1) 科目と科目のつながりが示されている



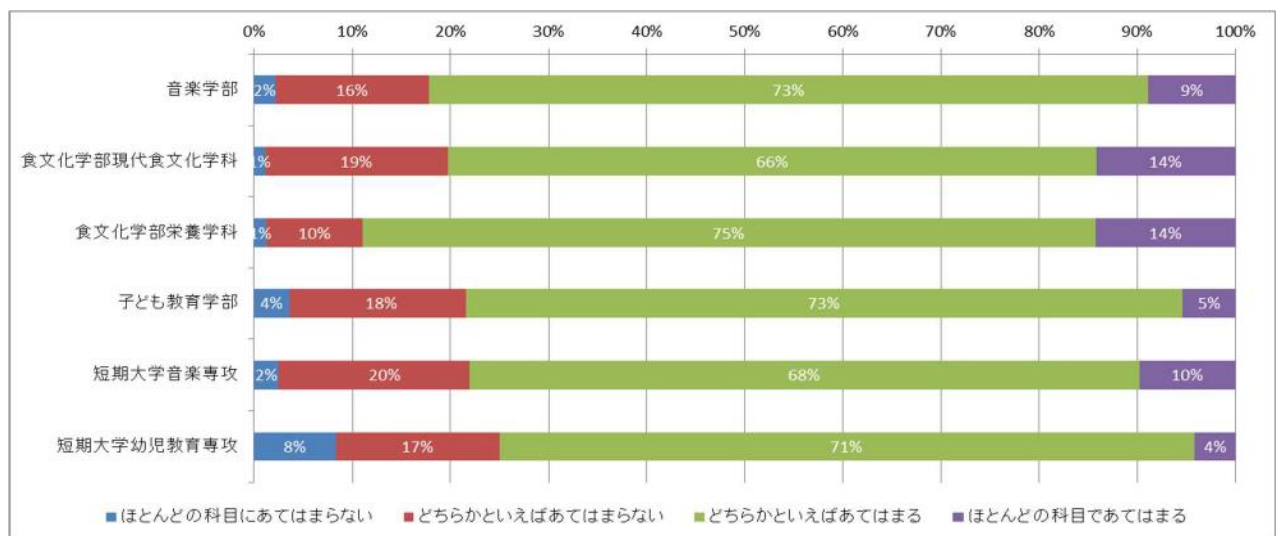
2) シラバス（授業計画）がわかりやすく作成されている



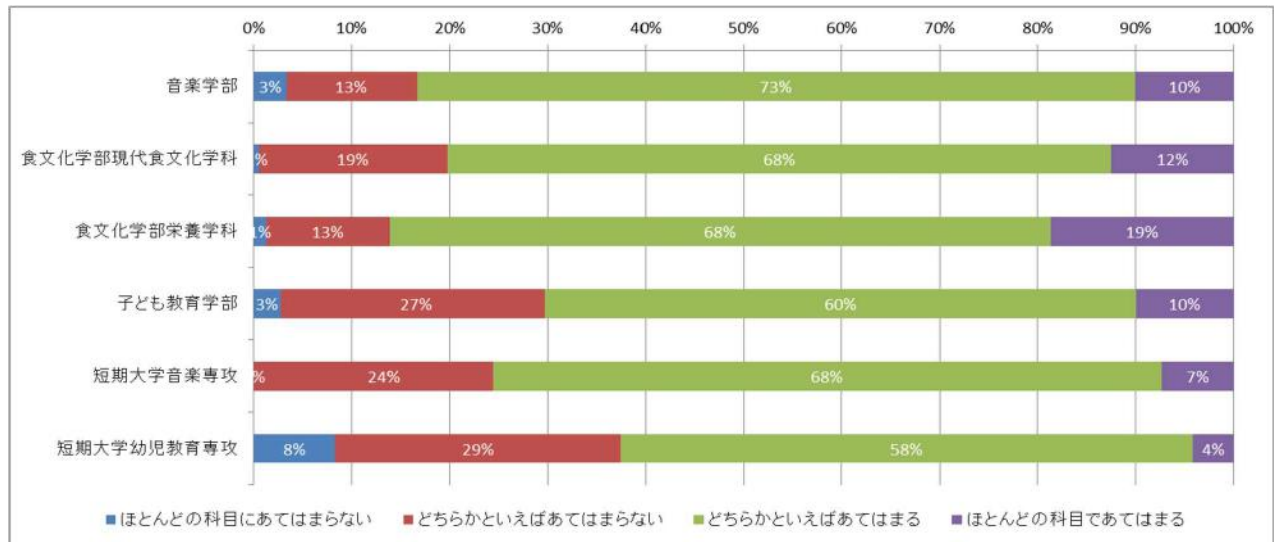
3) 授業の形式は、先生の講義を聴くだけでなく、グループワーク、学生同士の議論、発表などが取り入れられている



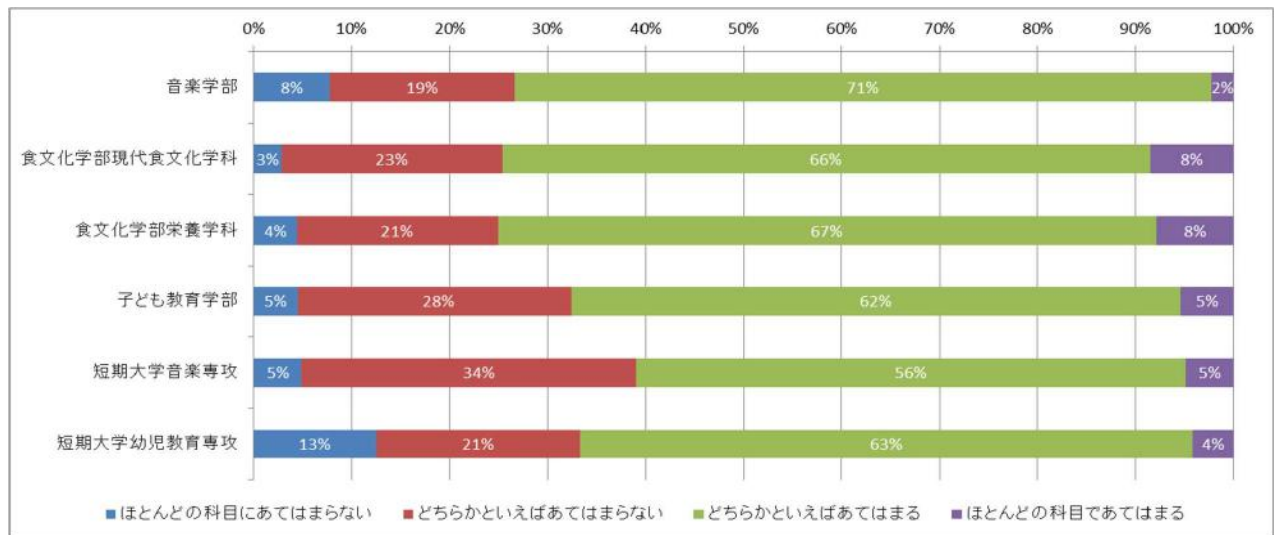
4) 受講生の受講態度に対して必要な指導をしている



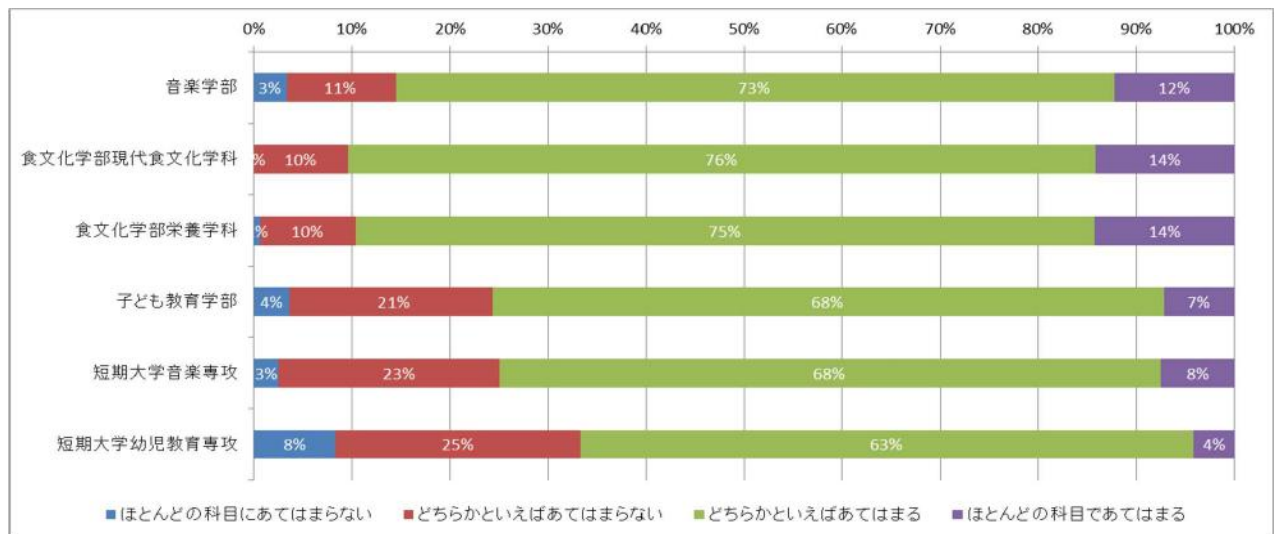
5) 成績の付け方が明確に示されている



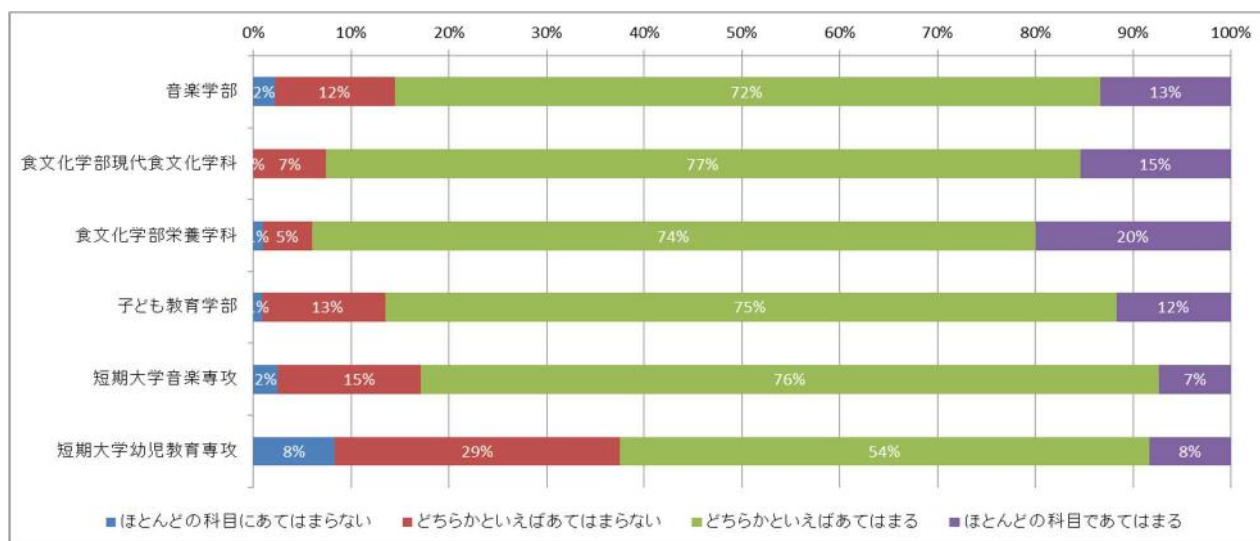
6) 授業期間中に、提出物の返却や全体に向けてのコメントなどのフィードバックがある



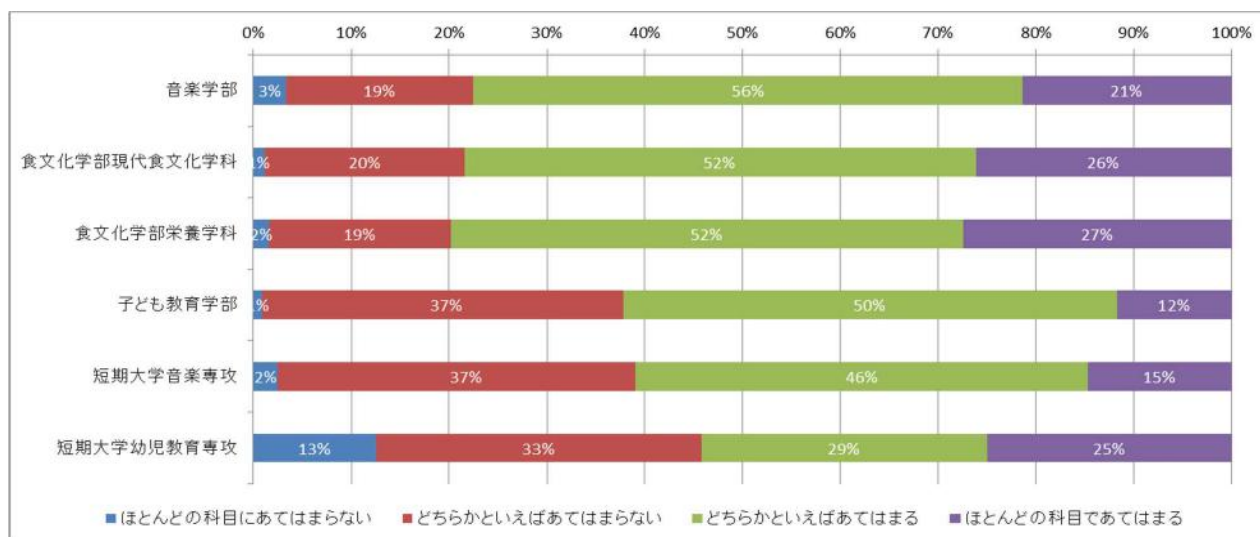
7) 各科目の学習目標が明確に示されている



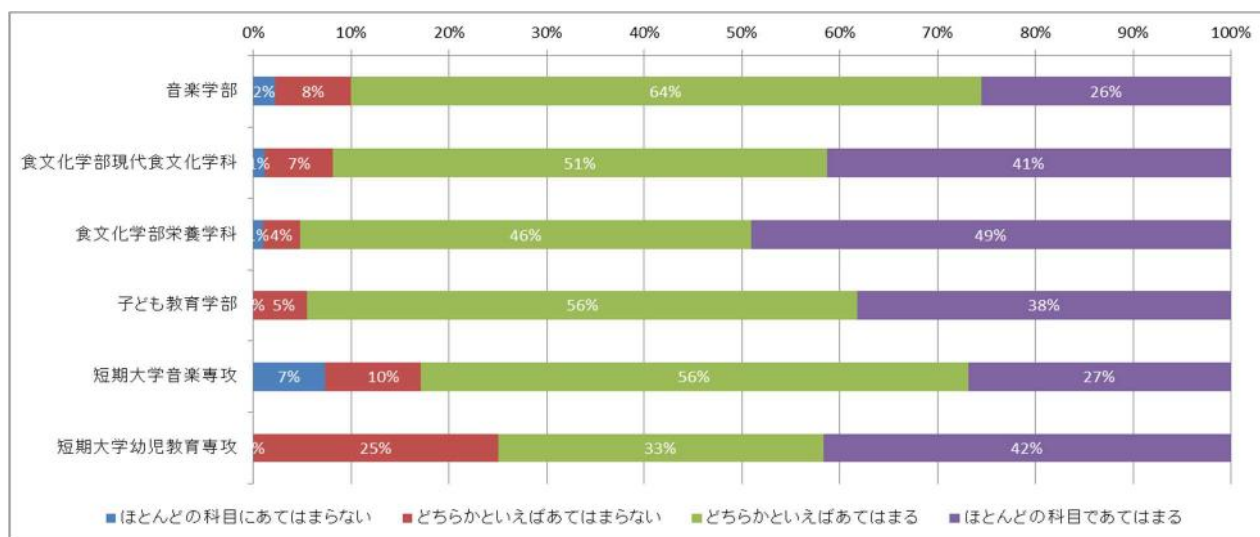
8) 各科目の学習目標と授業で出される課題につながりがある



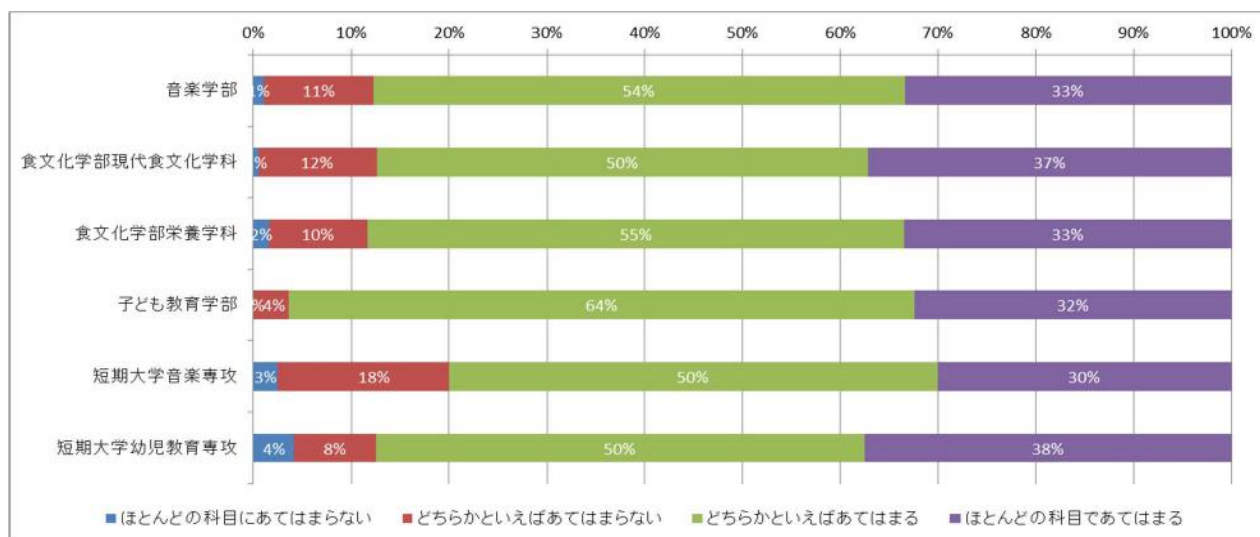
9) 休講がない



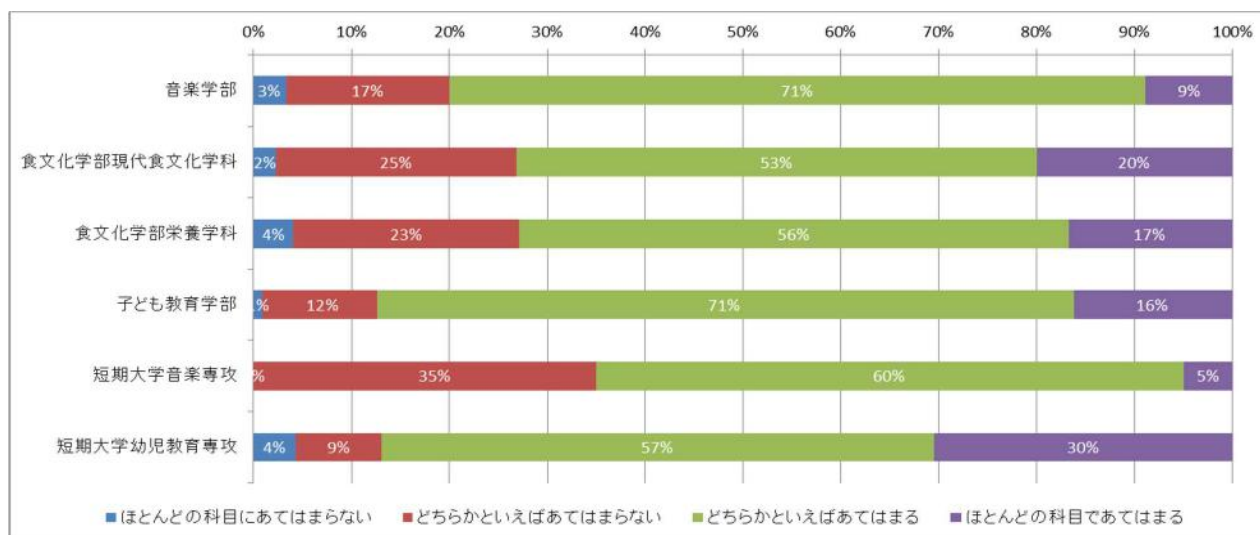
10) 興味がわからない授業でもきちんと出席する



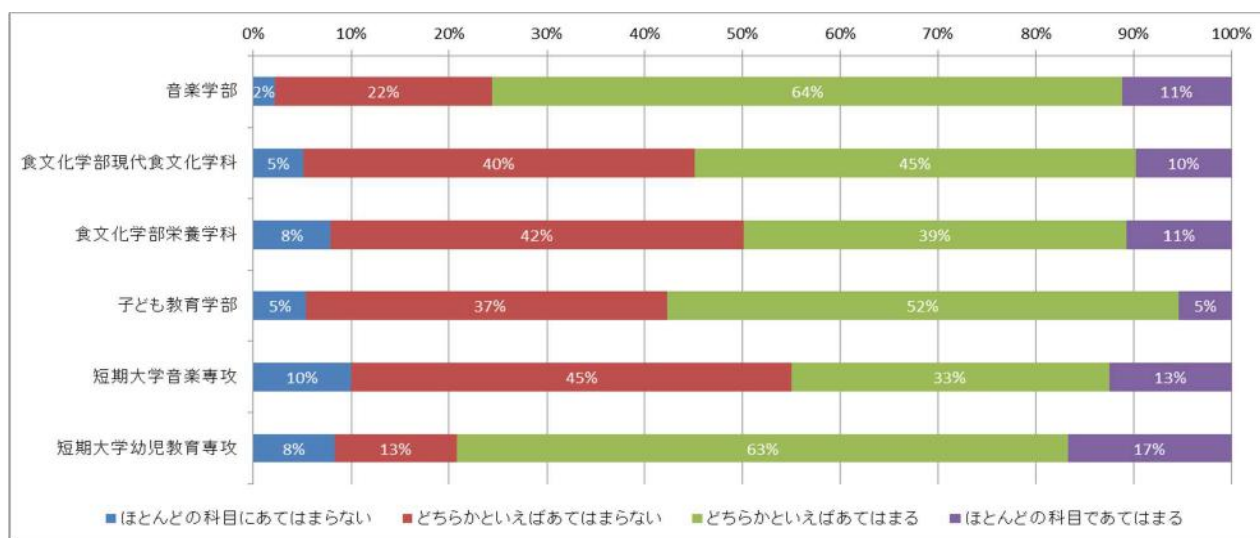
11) なるべく良い成績をとるようにしている



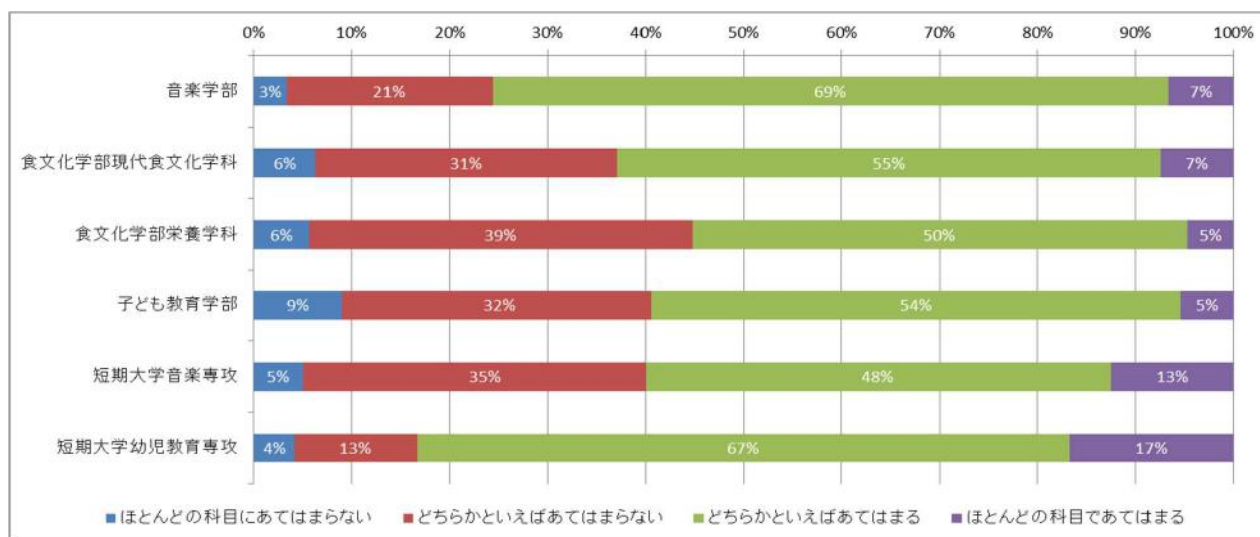
12) グループワーク（グループ活動）やディスカッション（議論・話し合い）に積極的に参加している



13) 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている



14) 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる

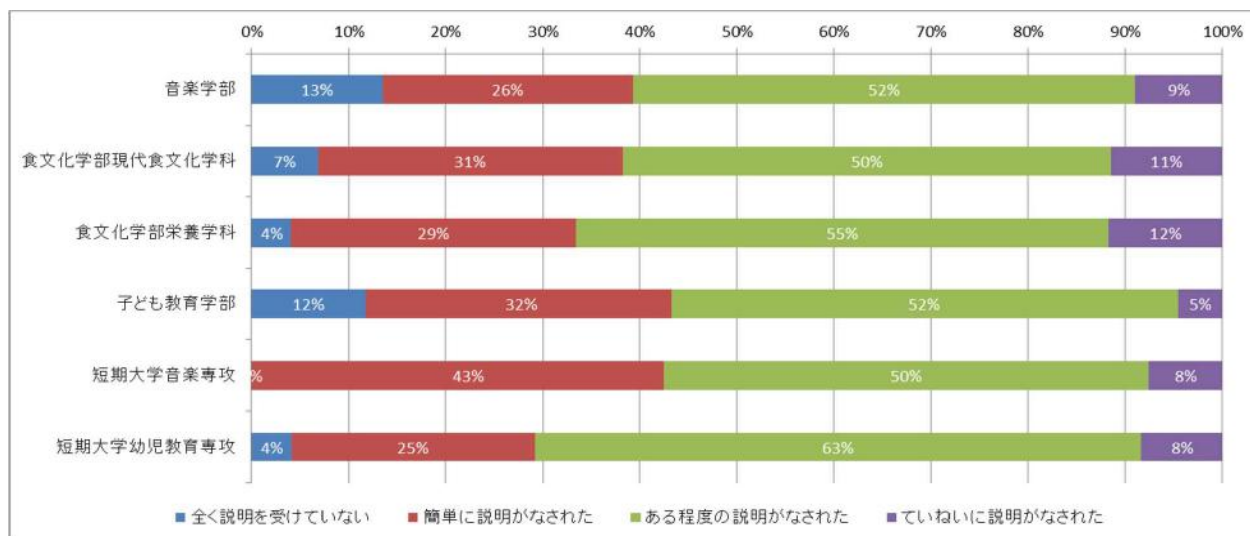


「13) 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている」と「14) 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる」に関しては、音楽学部と短大幼児教育専攻の学生にポジティブな回答が目立つ。

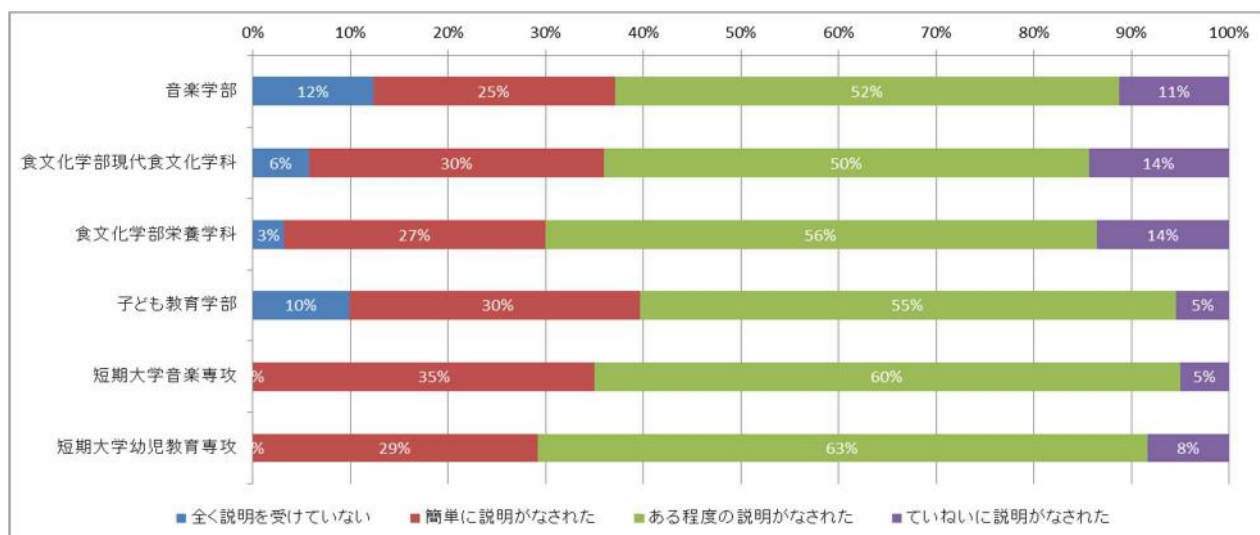
質問項目全体としては、授業評価アンケートに集約すべき事項が多い。学修行動調査として必要かつ適正な調査項目を設けるべきである。

Q12. 以下のことについて、最近のガイダンスなどで説明を受けましたか。

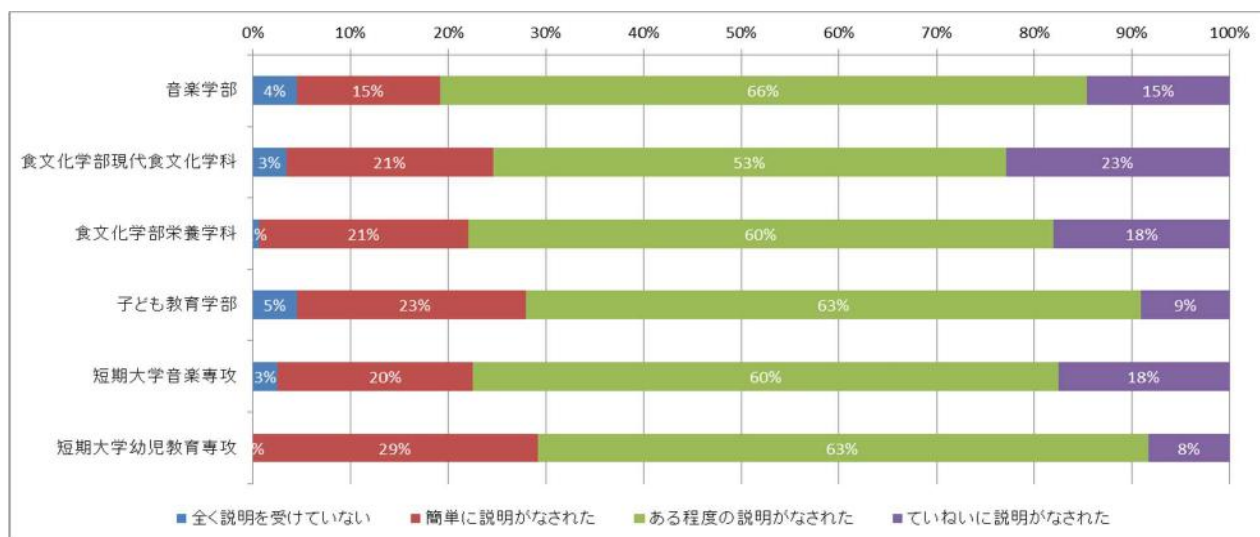
1) 大学の教育目標について



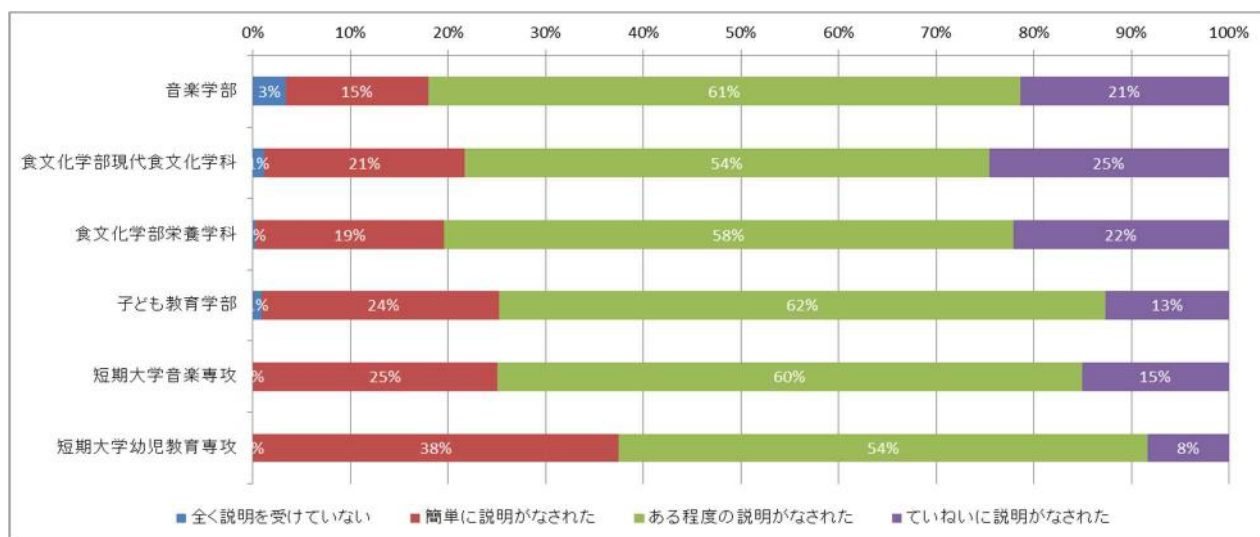
2) 学科の教育目標について



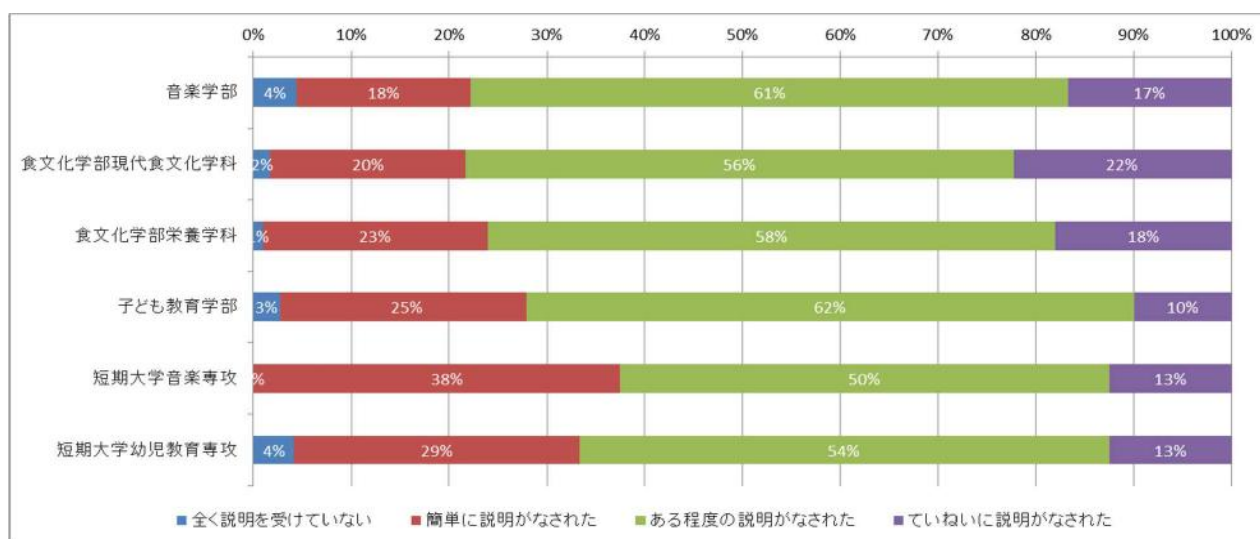
3) 科目履修の順序について



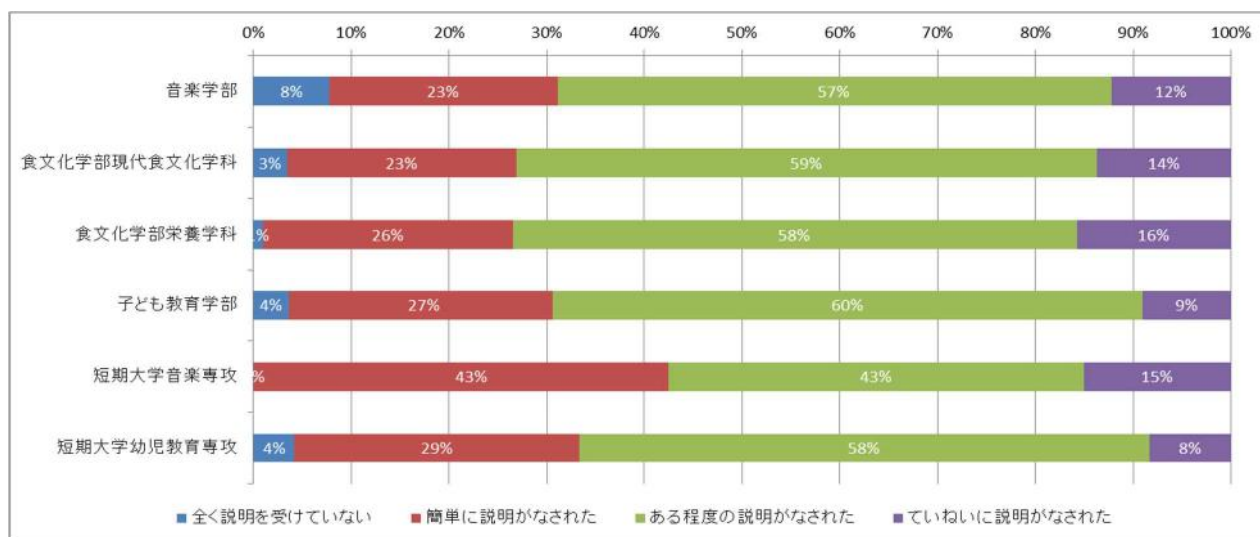
4) 履修に必要な情報について



5) 資格取得に関する情報について

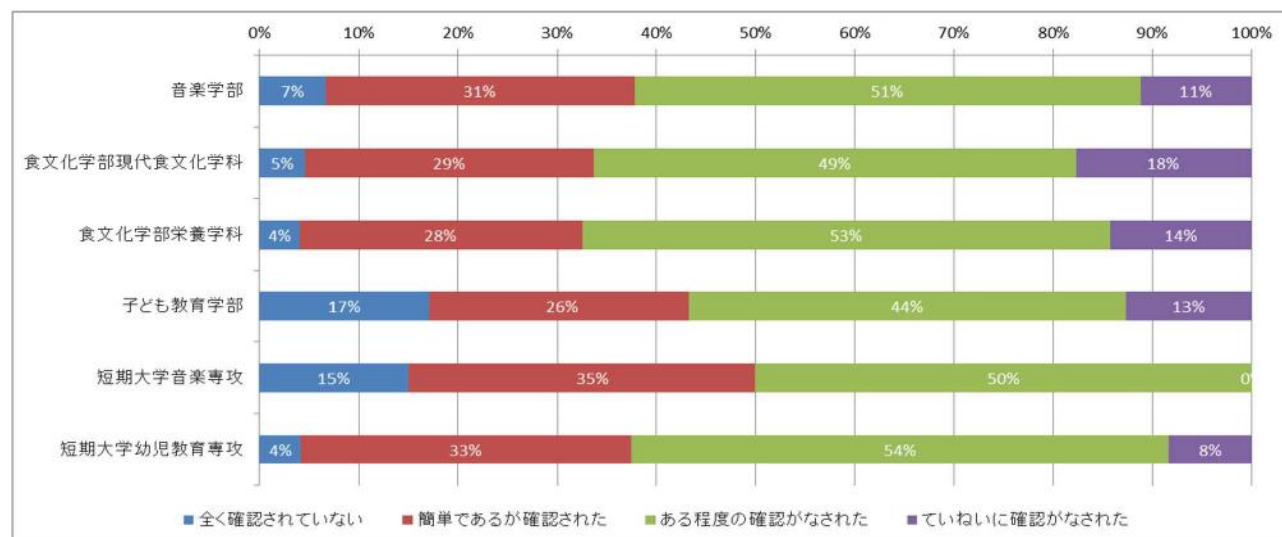


6) シラバスについて

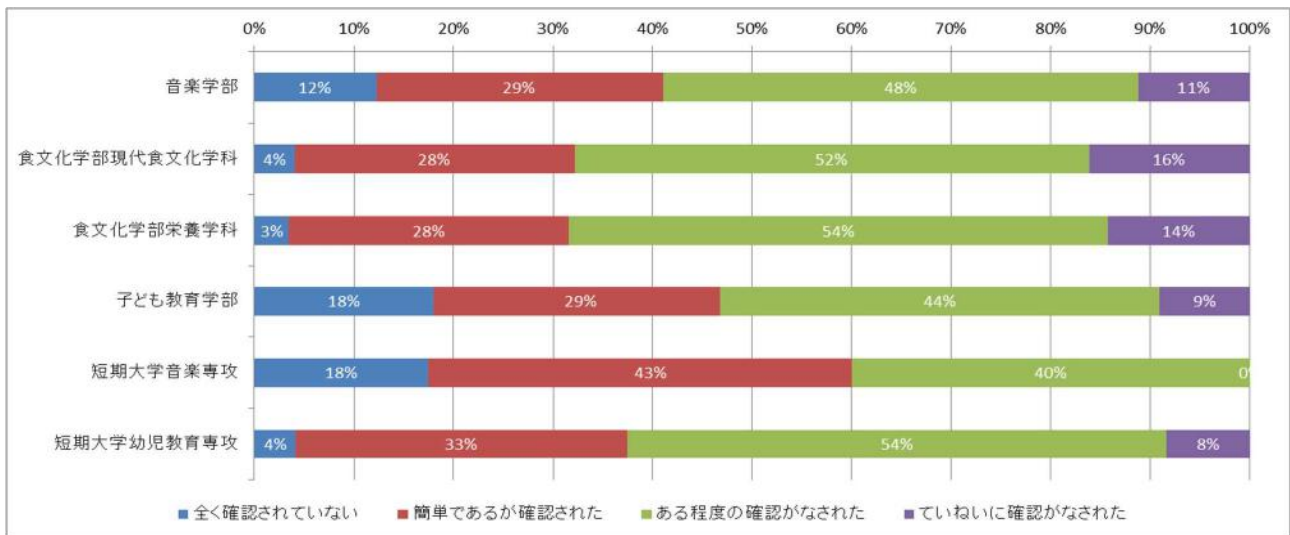


Q13. 以下のことについて、アドバイザーやゼミの教員から最近の面談などで確認がなされていますか。

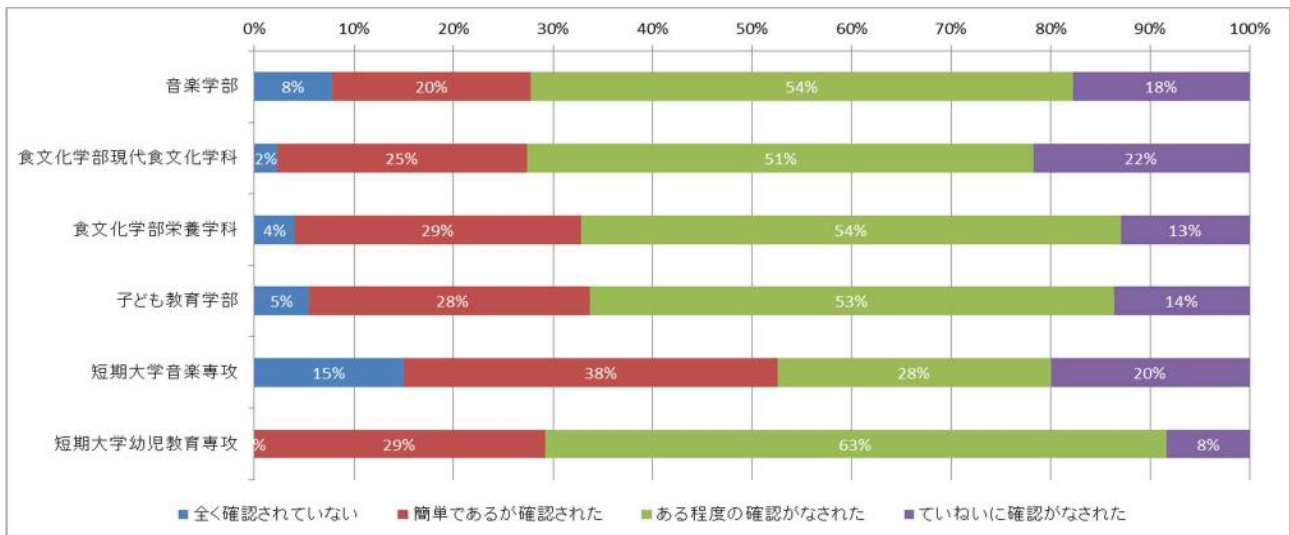
1) 科目の履修状況や成績について



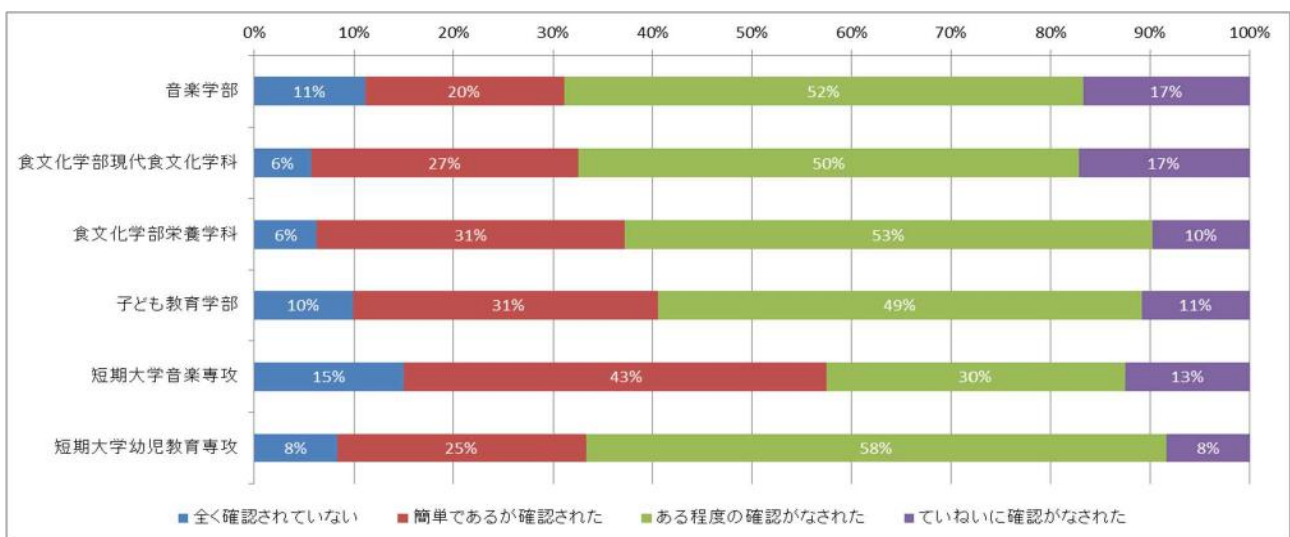
2) 学習の仕方について



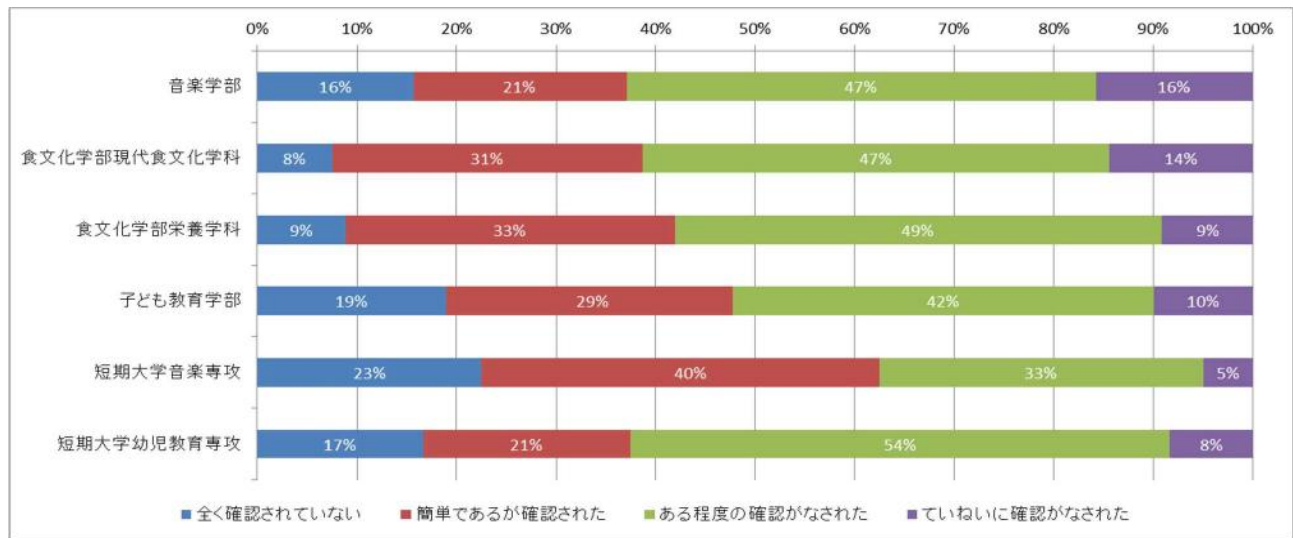
3) 卒業後の進路について



4) 大学生生活上で起こる日常的な問題について



5) 大学生活の継続を困難にするような個人的な問題について



最近のガイダンスなどでの教育内容についての説明の有無を問う Q12 および、面談などにおけるアドバイザーやゼミの教員による学生の状況についての確認の有無を問う Q13 は、学部学科の教育課程、教員のアドバイザー業務、あるいは教育支援室の業務が適切に行われているか否かの調査である。その結果、学修行動に関する調査としては適正を欠く項目が多いように思われる。

以上